

令和6年度 寝屋川市ごみ質分析調査業務
報 告 書

令和6年10月
寝屋川市

目 次

第 1 章 調査の目的と方法	1
1－1 調査の目的	1
1－2 調査の日程と方法	1
(1) 家庭系ごみ排出状況調査	1
(2) 事業系ごみ排出状況調査	1
第 2 章 家庭系ごみ排出状況調査	3
2－1 調査の方法	3
(1) 調査全体の流れ	3
(2) 具体的な調査方法	6
1) 調査対象地区	6
2) 調査対象ごみ	6
3) 調査日程	7
4) サンプル量および分析調査量	8
5) 運搬	8
6) 分類および計量作業	8
7) 組成分類項目	10
8) 調査結果の整理方法	13
2－2 調査の結果	16
(1) ごみ排出容器の状況	16
1) ごみ排出容器の種類	16
2) 1 容器（1 袋）当たりの重量、容積、見かけ比重	17
(2) 家庭系ごみ組成の実態	17
1) 成分別組成の概要	17
2) 容器包装の排出実態の概要	19
(3) 家庭系ごみ全体の成分別の詳細なごみ組成	20
(4) 収集区分別のごみ組成の実態	25
1) 収集区分別に見たごみ組成の概要	25
(5) 可燃ごみに排出された厨芥類の含水率	36
(6) 不燃ごみ中の使用済小型電子機器等	37
(7) 可燃ごみ、不燃ごみ中の資源化可能物	38
(8) 可燃ごみ、不燃ごみ中の製品（硬質）プラスチック	40
(9) 品目別の分別協力率	40
1) 分別協力率の算出方法	40
2) 品目別の分別協力率	40
(10) 資源物収集の状況	44

1) 廃プラ・ペットボトルの洗浄協力率	44
2) 異物混入率	46
(11) 使い捨て商品、有害・危険物等の排出状況	51
1) 使い捨て商品、有害・危険物等の排出割合、家庭系ごみ 1 トン当たりの排出個数..	51
2) スプレー缶および蛍光管の排出状況	51
(12) 手提げ袋の排出状況	52
2-3 他都市の調査結果との比較	53
第3章 事業系ごみ排出状況調査	54
3-1 寝屋川市の事業所立地状況と搬入ごみの現状	54
(1) 事業所立地状況	54
(2) 業種別事業系ごみ排出状況	54
3-2 調査の方法	55
(1) 調査全体の流れ	55
(2) 調査事業所の概要	56
(3) 具体的な調査方法	56
1) サンプルング日程および調査日	56
2) 分類および計量作業	56
3) 組成分類項目	57
3-3 調査の結果	59
(1) 事業所の種類別ごみ組成の概要	59
(2) 事業所の種類別ごみの細組成	60
1) 飲食店街	60
2) 飲食、食品小売等混在商店街	61
3) スーパー	62
4) オフィスビル	63
(3) 事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳	64
(4) 発生抑制可能物の排出状況	64
(5) 資源化可能物の排出状況	65
3-4 市全体の事業系ごみ組成の推定	67
第4章 ごみ質分析調査のまとめ	69
4-1 家庭系ごみに係る主な調査結果等	69
4-2 事業系ごみに係る主な調査結果等	69
4-3 今後の施策の検討	70

第1章 調査の目的と方法

1-1 調査の目的

本調査は、本市から排出されているごみの排出状況やその内容物についての詳細な分析調査を行うことにより、本市ごみの現状実態を把握するとともに、当該排出実態からみたごみの減量化や資源化の促進に向けた検討等を行う際の本市廃棄物行政推進に供する基礎資料とすることを目的に実施した。

1-2 調査の日程と方法

本調査は、家庭系ごみ排出状況調査と事業系ごみ排出状況調査の2つの調査から構成される。調査の日程および方法について、以下に整理する。

(1) 家庭系ごみ排出状況調査

本調査の結果を平成28年度に実施した家庭系ごみ排出状況調査の結果と比較するため、調査対象地区は前回（平成28年度）調査と同様に住宅形式の異なる3地区（密集住宅地区、戸建て住宅地区、中高層住宅地区）を選定した。また、調査実施前に下見を行い、各地区の調査対象世帯が概ね100世帯となるように、調査範囲および調査対象のごみステーションを選定した。

調査対象のごみは、家庭から排出されるごみのうち、可燃ごみ、廃プラ・ペットボトル、不燃ごみ、缶・びん、古紙・古着の5つの収集区分に出されたごみとした。

調査は、令和6年7月下旬から令和6年8月上旬にかけて実施した。調査対象のごみを通常のごみ収集時刻とほぼ同時刻に、ごみステーションに排出されたごみの全量をサンプリングした。サンプリングしたごみは、2トンドンプ車で寝屋川市クリーンセンターの分類作業場所まで運搬し、あらかじめ設定した分類項目に基づいて分類作業を実施した。

分類項目は前回（平成28年度）と同様に約100項目とした。また、廃プラ・ペットボトルのプラスチック製容器包装については汚れ状況を調査した。

調査結果は、各地区（約100世帯）の各調査対象のごみを4週間分（28日）の排出量に換算して整理した。

また、令和2年国勢調査（総務省統計局）から、3種類の住宅形式（密集住宅地区、戸建て住宅地区、中高層住宅地区）の市内における世帯数割合を推定し、3地区分のごみ組成調査結果を市内の世帯数割合に基づいて加重平均して、本市全体における家庭系ごみ排出状況を推計した。

(2) 事業系ごみ排出状況調査

収集運搬許可業者の収集先名簿から、市内の事業系ごみ排出量割合を業種別に整理し、排出量割合の高い卸小売業、飲食業、事務所・営業所を調査の対象とした。

具体的には、卸小売業および飲食業は商店街とスーパーを調査対象とした。また、事務所・

営業所はオフィスビルを調査対象とした。

調査は令和6年8月上旬に実施した。調査対象とする事業所から排出されたごみをサンプリングし、2トンドンプ車等で寝屋川市クリーンセンターの分類作業場所まで運搬した。なお、サンプリングは収集運搬許可業者と市が行った。調査対象のごみを分類作業場所に搬入後、ごみをメッシュ状に並べ、無作為に調査対象とするごみを抽出した。調査対象量は約100kgとしたが、オフィスビルからサンプリングしたごみは全量が100kg未満であったため抽出作業は実施せず、全量を調査対象とした。分類項目は前回（平成28年度）調査と同様に約80項目として、分類作業を実施した。

調査後、事業系ごみの業種別排出量割合から本調査結果を加重平均して、本市全体における事業系ごみ排出状況を推計した。なお、本調査では排出量割合の高い卸小売業、飲食業、事務所・営業所のごみを調査対象としたが、他業種の事業所から排出されたごみは本調査の対象外であり、本調査結果が市全体の平均的な事業系ごみ組成を正確に示しているわけではない。

第2章 家庭系ごみ排出状況調査

2－1 調査の方法

(1) 調査全体の流れ

調査は、家庭から排出されるごみのうち、可燃ごみ、廃プラ・ペットボトル、不燃ごみ、缶・びん、古紙・古着の5種とした。本市の収集区分および分別ルールを図2－1に示す。

調査対象は市内3地区として、各地区のステーションからごみをサンプリングした後に分類作業場所に搬入した。ごみを搬入後、あらかじめ設定した分類項目に基づいてごみを分類し、項目ごとに重量と容積を計量した。

廃プラ・ペットボトルとして排出されたプラスチック製容器包装については汚れ状況を調査し、汚れ状況に応じて2種類（きれい、汚い）に分類した。また、可燃ごみについては地区ごとに厨芥類の含水率を測定した。

図2-1 家庭系ごみの分別方法(1)

ごみは、分別ルールを守って出しましょう！



※ ごみは必ず、**収集日当日の午前9時までに出してください！**
(45ℓまでの透明・半透明袋に入れて出しましょう。)

※ 市が**収集するごみは一般家庭ごみ**です。(店舗・事務所などから出された**事業所ごみは収集しません。** 別途、収集業者と契約してください。)

※ ごみステーション付近の駐車はやめましょう。

※ 年末年始は通常の収集日と異なります。ご注意ください。

**ルールを守って
トラブル回避！**

可燃ごみ
毎週火曜日・金曜日〈週2回〉



生ごみ



汚れた紙・レシート・
感熱紙等の特殊な紙



くつ
かばん



カセット・ビデオ
テープ(ケース含む)



ふとん・枕



植木くず・剪定枝(直径5cm以内に
限る。45ℓごみ袋×3袋を超える
場合は臨時ごみ。直径5cmを超
える場合は市で処理できません。)

水切りで、ごみの量が減ります！ 生ごみの水分を
もうひとしぼりしてから、ごみに出してください。

【その他の可燃ごみの例】 下着、長靴、かつら、すだれ、
ぬいぐるみ、タオル等の古布、ジェル状の冷却シートなど

不燃ごみ
第1・第3・第5水曜日

◆不燃ごみは、**45ℓごみ袋を2袋程度**までです。




硬質プラスチック製品
(リヤツ、洗面器、おもちゃ、
衣袋ケース、プランターなど)




電気製品(家電
リサイクル品
[テレビ等]を除く)

カラーボックス

ご注意ください！

◆包丁・カミソリ ◆電池 ◆ライター類
◆水銀製品(体温計・温度計・血圧計等)

**これらを不燃ごみに出す場合、必ず
別々の透明袋で出してください。**

○ 電池、ライター類は、他のごみと混ぜると**火災の
原因となり、大変危険です！**

○ 包丁・カミソリは、「**危険**」と表示してください。

○ 電池には、次の種類があります。
①乾電池・コイン電池(CR・BR等)
②ボタン電池(LR・SR・PR)
③小型充電池(携帯式モバイルバッテリー、
加熱式電子タバコ、コードレス掃除機や電動自転車
のバッテリーを含む)
※③は不燃ごみの他、公共施設等に設置の回収
ボックス(黄色)[右頁参照]でも回収できます。

臨時ごみ 有料

次の2つの方法があります。

①引取 (要予約)
受付時間(月～金)
午前8時30分～午後5時
※10kgまでごとに270円

(予約・変更・取消とも同番号)
☎ 072-868-5374

②持込 (予約不要)
受付時間(月～金)
午前9時～午後4時
※10kgまでごとに130円

(問合せ先)
☎ 072-821-4039

★**臨時ごみ(家具・自転車など)**…次の◆は「臨時ごみ」です。(不燃ごみに出せません。)

◆45ℓごみ袋3個以上になる場合 ◆縦40cm×横100cm×奥40cm以上、又は重さ10kgを超える場合
◆着火装置があるストーブ・コンロ等(発火の恐れがあるため) ◆引越し等で出る多量ごみ(家具類は分解した場合も臨時ごみ)

古紙・古着

A地域

毎週月曜日

B地域

毎週木曜日

〈週1回〉

古紙




段ボール紙 飲料パック
新聞紙 本・雑誌

※汚れや臭いのある紙、コーティ
ングされた感熱紙などは**可燃ごみ**

★古紙と古着は別々の袋に入れて
出してください。

★できるだけ**地域の資源集団回収**
に出しましょう。

※ 回収活動団体への報奨金制度が
あります。詳しくは環境総務課
(☎ 824-0911)まで。

古着




セーター
スボン
ジャンパー

※古着以外の布類(下着類、
タオル類)は**可燃ごみ**

図2-1 家庭系ごみの分別方法(2)

廃プラ・ペットボトル

A 地域 毎週木曜日

卵パック
食品トレイ

B 地域 毎週月曜日

発泡スチロール
お菓子の袋

【その他の例】
カップ麺の容器、
シャンプー容器
などで、プラマー
クがあるもの

キャップと
ラベルは
はずしてから
捨てましょう!

※ 軽くすすいでも汚れの取れないものは **可燃ごみ** に出してください。

間違いやすいので、注意! プラマークのないバケツ等の硬質プラスチック製品は **不燃ごみ** です。

ボックス回収に、ご協力ください!

※ 使用済み小型家電・小型充電式電池は、市の公共施設等に設置の回収ボックスへ入れてください!

小型家電

横 31cm × 縦 15cm の
投入口に入る小型家電

(例) スマホ、ノートPC、
デジカメ、ドライヤー、
音楽プレーヤー、ゲーム
機など

● 小型家電
⇒ 青い
ボックスへ

小型充電式電池

Ni-Cd Ni-MH Li-ion

上のマークが目印。
(ニカド・ニッケル水素・
リチウムイオン電池)
※ 携帯型モバイルバッ
テリーや加熱式電子
タバコのバッテリー
なども対象。

● 小型充電式電池
⇒ 黄色い
ボックスへ
(※ 不燃ごみ(別袋)
にも出せます。)

【設置場所】
市役所本庁舎、保健福祉センター、各シティ・ステーション(西を除く)、産業振興センター、市民会館、市民体育館、子育てリフレッシュ館、エスポアール、各コミセン(南分館を含む)、保健所、イオンモール四條畷(同モールには、小型家電ボックスのみがあり、小型充電式電池の回収ボックスは有りません。)

缶・びん 第2・第4水曜日

※ 食品・飲料用に限りです。

あき缶 お菓子の缶 びん

※ 塗り薬・化粧品等の缶・びんは **不燃ごみ**

蛍光灯・スプレー缶

※ 拠点にいつでも出せます!

蛍光灯: 割らずに出してください。

スプレー缶: 中身を使い切り、穴をあけずに出してください。

※ 蛍光灯以外の電球やLED灯は **不燃ごみ** に出してください。

※ 拠点場所は、市HPで検索できます。

家電リサイクル法対象製品

不燃ごみに出せません!

ご注意ください!
右の対象製品は **不燃ごみ** に出せません。
廃棄時は、できるだけ販売店等に引取を依頼してください。
引取依頼しない場合、右の順に処分してください。

対象製品
テレビ 冷蔵庫 エアコン(室外機含む) 洗濯機(乾燥機含む)

1. 初めに、必ず郵便局でリサイクル券を購入してください。
2. 次の①～③のいずれかで処分してください。
 - ① 自宅までの引取を依頼する。(☎868-5374で日時予約)
 - ② クリーンセンターに持込む。(月～金: 9～16時)
※ ①②の場合、別途運搬等手数料 600～1,700円がかかります。
 - ③ 指定引取場所のいずれか(本市の最寄り場所は、コフジ物流㈱ [枚方市春日西町3丁目45-1 ☎808-3611])に持込む。

市で処理できないもの

以下の◆は市では処理できません。
販売店や製造メーカー、専門業者等に、ご相談ください。

- ◆ 適正なリサイクルルートのあるもの
(デスクトップパソコン、消火器、ピアノ、車やバイクの部品等)
- ◆ 建築廃材(コンクリートブロック、瓦、畳、便器等)
- ◆ その他(シンナー、土、石、砂、廃油、鉄アレイ、ボウリングの球等)

問合せ先

〒572-0855 寝屋川市寝屋南一丁目2番1号
※ 番号をご確認の上、おかけください。

午前8時30分～午後5時(土・日・祝、年末年始(12/31～1/3)は除く)

- ◆ ごみ分別・一般家庭ごみの収集【環境事業課】☎072-820-7400
- ◆ 動物等(犬・猫その他の動物)の死体 ☎072-868-5374
【ペット動物死体(有料) / 道路上等の動物死体(無料)】
- ◆ 上記以外のこと 【環境総務課】☎072-824-0911

クリーンセンターへのアクセス

寝屋川警察署 市役所 枚方交野寝屋川線 打上川治水緑地 国道1号線(第二京阪道路)

● 三井団地 ● 交番 ● レストラン ● 宇谷小学校 ● 自動車教習所 ● クリーンセンター

(2) 具体的な調査方法

1) 調査対象地区

調査対象地区の概要を表2-1に示す。また、表2-2には調査対象地区の年齢構成、世帯人員を整理している。密集住宅地区および戸建て住宅地区は市平均に比べて高齢化がやや進んでおり、中高層地区は20～59歳の比率が市平均より高い。また、平均世帯人員は戸建て住宅地区が2.54人/世帯であり、市平均よりも多い。

表2-1 調査対象地区の概要

調査地区	地区の概要
密集住宅地区	木造賃貸アパートや敷地面積が狭い戸建て住宅が混在する密集住宅地区である。ごみステーションは戸建て住宅共用のステーションとアパートに設置されているステーションがある。全体的には公共の緑の少ない地区であるが、一部、玄関先で花木を育てている家も見られる。
戸建て住宅地区	庭付き戸建ての閑静な住宅地区である。ごみは5～10戸に1か所程度のステーション（アミカゴ等）に排出される。地区内には小規模公園はないが、大半の家で庭木も育てられており、季節によっては庭の立木の剪定枝の排出量が多い。
中高層住宅地区	高層15階建ての共同住宅およびその周辺の中層の共同住宅を調査の対象とした。コンテナ排出であり、15階建ての共同住宅にはごみの管理者が駐在している。

表2-2 調査地区の概要（年齢構成、平均世帯人員）

調査地区	0～19歳	20～39歳	40～59歳	60～79歳	80歳以上	平均世帯人員
市平均	16.3%	19.0%	29.1%	26.9%	8.8%	2.23人
密集住宅地区	12.2%	18.2%	27.9%	31.6%	10.1%	2.08人
戸建て住宅地区	14.9%	14.0%	25.4%	32.9%	12.8%	2.54人
中高層住宅地区	11.3%	24.4%	32.2%	25.4%	6.6%	1.73人

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。
出典：令和2年国勢調査 総務省

2) 調査対象ごみ

調査対象ごみは、家庭から排出されるごみのうち、可燃ごみ、廃プラ・ペットボトル、不燃ごみ、缶・びん、古紙・古着の5つの収集区分に出されたごみとした。

なお、乾電池・ライター類は、不燃ごみの回収日に、不燃ごみとは別の透明袋に別々に入れて排出するように周知しているが、本調査では、乾電池・ライター類として分けられた物も不燃ごみとして一括して分類作業を行った。また、スプレー缶および蛍光灯は拠点回収を実施しているが、今回は拠点回収に排出されたごみについては調査対象外とした。

3) 調査日程

本調査のサンプリングおよび分類調査の日程を表2-3に示す。

表2-3 サンプリングおよび分析調査の日程

調査地区	ごみ種	サンプリング日	分類作業日
密集住宅地区	可燃ごみ	7/30 (火)	7/30 (火)
	廃プラ・ペットボトル	8/1 (木)	8/1 (木)
	不燃ごみ	7/31 (水)	8/5 (月)
	缶・びん	7/24 (水)	7/29 (月)
	古紙・古着	7/29 (月)	7/29 (月)
戸建て住宅地区	可燃ごみ	8/2 (金)	8/2 (金)
	廃プラ・ペットボトル	8/1 (木)	8/1 (木)
	不燃ごみ	7/31 (水)	8/5 (月)
	缶・びん	7/24 (水)	7/26 (金)
	古紙・古着	7/29 (月)	7/29 (月)
中高層住宅地区	可燃ごみ	8/6 (火)	8/6 (火)
	廃プラ・ペットボトル	7/29 (月)	7/31 (水)
	不燃ごみ	7/31 (水)	8/5 (月)
	缶・びん	7/24 (水)	7/29 (月)
	古紙・古着	8/1 (木)	8/1 (木)

4) サンプルング量および分析調査量

調査対象ごみのサンプルング量を表2-4に示す。

表2-4 地区ごみ種別のサンプルング量および分類作業量

調査地区	ごみ種	サンプルング量		
		袋数(袋)	重量(kg)	分類前容積(L)
密集住宅地区	可燃ごみ	153 袋	264.1 kg	2,042 L
	廃プラ・ペットボトル	150 袋	84.6 kg	2,384 L
	不燃ごみ	42 袋	86.1 kg	804 L
	缶・びん	55 袋	51.1 kg	457 L
	古紙・古着	30 袋	40.0 kg	609 L
戸建て住宅地区	可燃ごみ	92 袋	193.2 kg	1,258 L
	廃プラ・ペットボトル	131 袋	68.2 kg	2,307 L
	不燃ごみ	55 袋	85.6 kg	1,179 L
	缶・びん	84 袋	83.4 kg	851 L
	古紙・古着	35 袋	94.4 kg	907 L
中高層住宅地区	可燃ごみ	144 袋	235.1 kg	1,900 L
	廃プラ・ペットボトル	147 袋	84.1 kg	2,406 L
	不燃ごみ	52 袋	108.1 kg	1,128 L
	缶・びん	47 袋	47.5 kg	475 L
	古紙・古着	37 袋	118.9 kg	1,668 L

※ 分類作業量の容積は、ごみ排出時点の圧縮していない状態の容積である。

※ 戸建て住宅地区の可燃ごみの中には、排出量の季節変動が大きい剪定枝のみが包まれたごみ袋が14袋、33.2kg分排出されており、これらは組成調査の対象から除外した。

5) 運搬

サンプルングしたごみは、分類作業場所への搬入までの間に袋が破れたり、びんが割れたり、また、厨芥類の流出水分が流出することを防ぐため、パッカー車(塵芥車)を用いず、2トンドンプ車で寝屋川市クリーンセンターの分類作業場所まで運搬した。

6) 分類および計量作業

分類および計量作業は、寝屋川市クリーンセンター内の資源ヤードおよび蛍光灯ヤードで実施した。また当該作業場所は屋外であり、突風によるごみの飛散やカラスによるごみの散乱を防止するため、大型のテント内で分類作業および計量作業を実施した。

調査対象のごみを選定したステーションから分類作業場所まで運搬した後、重量および容積を計量した。続いて、ごみ袋を破袋して中身を展開し、あらかじめ設定した分類項目に基づいて分類作業を行った。分類作業終了後は、分類項目ごとに重量および容積を計量した。分類項目によっては本数や個数についても計量した。

〔調査場所の外観〕



〔サンプリングに使用したダンプ車〕



〔サンプリングの様子〕



〔積み下ろしの様子〕



〔調査対象ごみ〕



〔計量の様子〕



〔分類作業の様子〕





7) 組成分類項目

調査で使用した組成分類項目は、表2-5に示すとおりである。分類項目は全部で約100項目となっている。なお、前回(平成28年度)調査と概ね分類項目は同じであるが、製品(硬質)プラスチックについてはサイズによって分類項目を細分化した。また、廃プラ・ペットボトルとして排出されたプラスチック製容器包装については汚れ状況を調査し、汚れ状況に応じて2種類(きれい、汚い)に分類した。汚れ状況調査の分類基準を表2-6に示す。

表2-5 分類表(その1)

成分	大分類	中分類	小分類
プラスチック類	容器包装	プラボトル	プラボトル ペットボトル
		トレイ・カップ・パック・コップ・台紙付き容器	白色発泡生鮮食品トレイ その他の生鮮食品トレイ その他のトレイ・カップ・パック等
			ごみ捨て用に使用 何かごみを入れて排出 そのまま排出
		手提げ袋	ブラ袋・フィルム・ラップ等 詰め替え用ブラ袋・アルミ蒸着袋
		スクイーズ・チューブ・スティック容器	
		その他(容リ法対象)	
		容リ法対象外の容器包装(ひも、テープ、サービスの袋・容器等)	
	その他	使い捨てライター	
		注射容器等危険物	
		製品プラスチック	(a)縦10cm×横10cm×高さ30cm以内 (b)縦20cm×横20cm×高さ20cm以内 (c)縦25cm×横25cm×高さ35cm以内 (d)縦25cm×横25cm×高さ35cm以上
		家庭用ラップ	
		事業所からのプラスチック	
	ごみ袋		
ゴム・皮革類	その他	輪ゴム、ゴム手袋、運動靴等	
		大型ゴム・革製品	
		事業所からのゴム・皮革類	
紙類	容器包装	紙パック(コーティング無し)	
		紙パック(コーティング有り)	
		段ボール	
		紙箱	
		紙袋・包装紙等	
		容リ法対象外容器包装(ひも、テープ、サービスの袋・容器等)	
	古紙	新聞	折ったまま廃棄等何も包まず 生ごみや割れ物等を包む(丸めたものを含む)
		折り込み広告	
		PR誌	
		本・雑誌	
		雑がみ	
	その他	紙おむつ等	大人用 子供用
		ペットシート	
		吸水樹脂製品	
		その他	
		大型紙製品	
		事業所からの紙類	
		シュレッダーくず	
繊維類	衣類	衣服・シャツ等 資源化可能な繊維(ウール)やリユース可能な古着	
	その他	人形、寝具、調度品、かばん、はぎれ、雑巾、シップ、布テープ等	
		大型繊維製品	
		事業所からの繊維類	
木片類	その他	その他	
		大型木製品	
		事業所からの木片類	
草木類	生け花		
	剪定枝		
厨芥類	手を付けていない食料品		
	一般厨芥類		

表2-5 分類表(その2)

成分	大分類	中分類	小分類
ガラス類	容器包装	びん類	酒びん
			白
			茶
			その他
			飲料水のびん
			白
			茶
			その他
			調味料のびん
			白
			茶
			その他
			食料品のびん
			白
			茶
			その他
			薬等日用品のびん
			白
			茶
			その他
			化粧品のびん
			白
			茶
			その他
	その他	有害製品	蛍光管(直管、曲管、電球型)
			その他有害製品
		その他	電球類
			その他(コップ、灰皿等)
			LED電球
			大型ガラス製品
			事業所からのガラス類
金属類	容器包装	飲料水の缶	アルミ缶
			スチール缶
		缶詰、缶箱	アルミ缶
			スチール缶
		ペットフード等の缶詰、缶箱	アルミ缶
			スチール缶
		一斗缶	
		スプレー缶	簡易ガスボンベ(穴あき)
			簡易ガスボンベ(穴無し中身残存)
			簡易ガスボンベ(穴無し中身無し)
			スプレー缶(穴あき)
			スプレー缶(穴無し中身残存)
			スプレー缶(穴無し中身無し)
	その他	単一金属製品	なべ、釜、食器、包丁、クリップ等
			大型単一製品
		複合金属製品	小型家電、付属製品
			かさ、ハンガー、工事用電線等
			大型複合製品
		電池	乾電池
			ボタン電池
		危険物(カミソリ等)	
		使い捨てカイロ	
		その他	
		事業所からの金属類	
陶磁器類	その他	食生活用品、灰皿等日用品、置物	
		大型陶磁器製品	
		事業所からの陶磁器類	
その他	その他 可燃	犬の糞(包んだ紙ごと)	
		煙草の吸殻、掃除機のごみ	
		大型その他可燃製品	
		事業所からのその他可燃・準可燃	
	その他 不燃	土砂、粘土等	
		大型その他不燃製品	
		事業所からのその他不燃	
	その他	猫のトイレ用の砂	

表2-6 プラスチック製容器包装（汚れ状況調査）の分類基準

容器包装の形状	分類項目と汚れ程度	主な品目
容器のうち ボトル状のもの	1. きれい（洗ってなくても）又は底に僅かに液体が残ったり、 ボトル内側に液体の膜が見えるが、分別上問題はない。 2. 腐敗する可能性が高い食品残渣・液体の混入（付着）がある （※振って音がする程度の中身液体の残存）。	・プラスチックボトル ・スクイーズボトル※ ・ペットボトル 等
容器・袋等	1. きれい（洗っていないなくても）又は表面に染み込んだ汚れが見えるが、分別上問題はない。 2. 腐敗する可能性が高い食品残渣・液体の混入（付着）がある。	・カップ・パック ・トレイ食料品の袋 ・アルミ蒸着袋 ・フィルム ・シート 等

※ 汚れの程度は、ブラ袋、パック・カップ、トレイ等の全面積の1/4以上に食品残渣の付着・残存があれば、また、小指大以上の食品残渣があれば、食品残渣の混入有りとした。

※ スクイーズボトルとは、ケチャップやマヨネーズ等のボトルで押し出して使うチューブ状の容器のことである。

8) 調査結果の整理方法

調査結果の整理手順を、図2-2に示す。市平均のごみ組成は、各地区（約100世帯）の各調査対象ごみを4週間分（28日）の排出量に換算した後、令和2年国勢調査（小地域集計）「第8表 住宅の建て方別一般世帯数一町丁・字等」を用いて3種類の住宅形式（密集住宅地区、戸建て住宅地区、中高層住宅地区）の市内における世帯数割合を推定し、3地区分のごみ組成調査結果を市内の世帯数割合に基づいて加重平均して、本市全体における家庭系ごみ排出状況を推計した。なお、表2-7に示した市平均ごみ組成の算定手順は、後述の「〈参考〉住宅形式別世帯数割合の設定方法」に示す方法に従っている。

図2-2 調査結果の整理

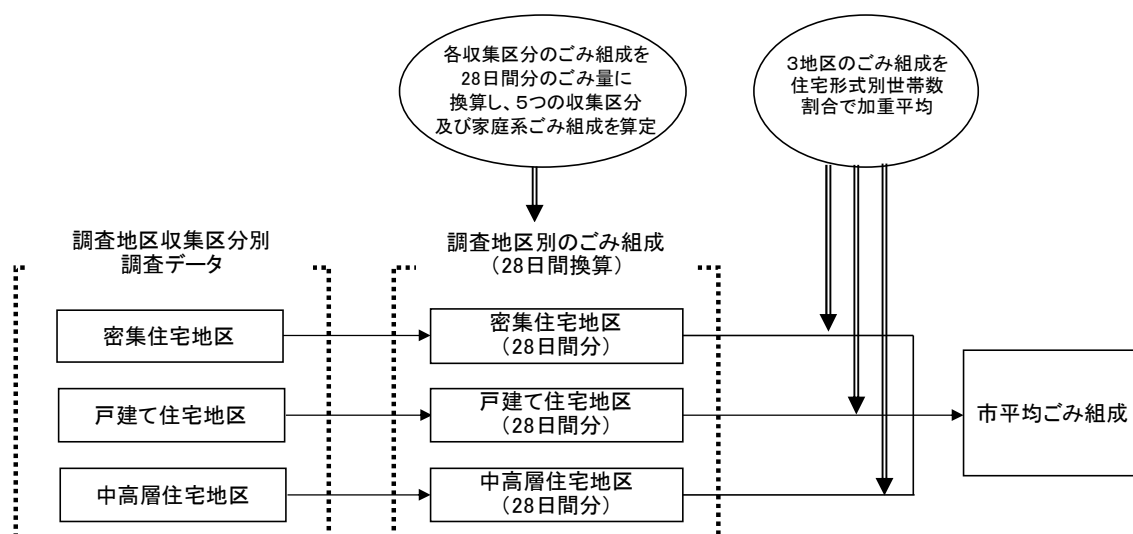


表2-7 市平均ごみ組成の算定手順

調査地区	ごみ種	分別作業量		排出日数 (日)	28日 換算係数	28日換算量	
		重量(kg)	容積(L)			重量(kg)	容積(L)
密集住宅地区	可燃ごみ	264.1	2,042	4	7	1,848.7	14,296
	廃プラ・ペットボトル	84.6	2,384	7	4	338.4	9,535
	不燃ごみ	86.1	804	14	2	172.2	1,607
	缶・びん	51.1	457	14	2	102.1	914
	古紙・古着	40.0	609	7	4	159.8	2,437
戸建て住宅地区	可燃ごみ	193.2	1,258	3	9.3	1,802.7	11,743
	廃プラ・ペットボトル	68.2	2,307	7	4	272.6	9,230
	不燃ごみ	85.6	1,179	14	2	171.1	2,358
	缶・びん	83.4	851	14	2	166.8	1,702
	古紙・古着	94.4	907	7	4	377.4	3,629
中高層住宅地区	可燃ごみ	235.1	1,900	4	7	1,645.8	13,299
	廃プラ・ペットボトル	84.1	2,406	7	4	336.2	9,625
	不燃ごみ	108.1	1,128	14	2	216.2	2,255
	缶・びん	47.5	475	14	2	94.9	950
	古紙・古着	118.9	1,668	7	4	475.6	6,674

調査地区	世帯数	世帯数 割合	住宅形式別世帯数割合 による加重平均	
			重量(kg/月)	容積(L/月)
密集住宅地区	15,773	15.81%	292.2	2,260
			53.5	1,507
			27.2	254
			16.1	144
			25.3	385
戸建て住宅地区	43,776	43.87%	790.9	5,152
			119.6	4,049
			75.1	1,034
			73.2	747
			165.6	1,592
中高層住宅地区	40,230	40.32%	663.6	5,362
			135.6	3,881
			87.2	909
			38.3	383
			191.8	2,691
	99,779	100%		

調査地区	ごみ種	市全体	
		重量(kg/月)	容積(L/月)
市全体	可燃ごみ	1,746.7	12,774
	廃プラ・ペットボトル	308.6	9,437
	不燃ごみ	189.5	2,198
	缶・びん	127.6	1,274
	古紙・古着	382.6	4,668
	家庭系ごみ	2,755.0	30,351

参考として前回（平成28年度）調査の結果と比較すると、本市全体における家庭系ごみの排出状況の推計結果は類似していた。

〔参考〕 前回（平成28年度）調査における市平均家庭系ごみ排出状況の推計

調査地区	ごみ種	※参考 市全体(平成28年度調査)	
		重量(kg/月)	容積(L/月)
市全体	可燃ごみ	1,806.8	10,018
	廃プラ・ペットボトル	286.3	7,449
	不燃ごみ	142.8	1,175
	缶・びん	163.2	1,119
	古紙・古着	310.2	1,738
	家庭系ごみ	2,709.3	21,499

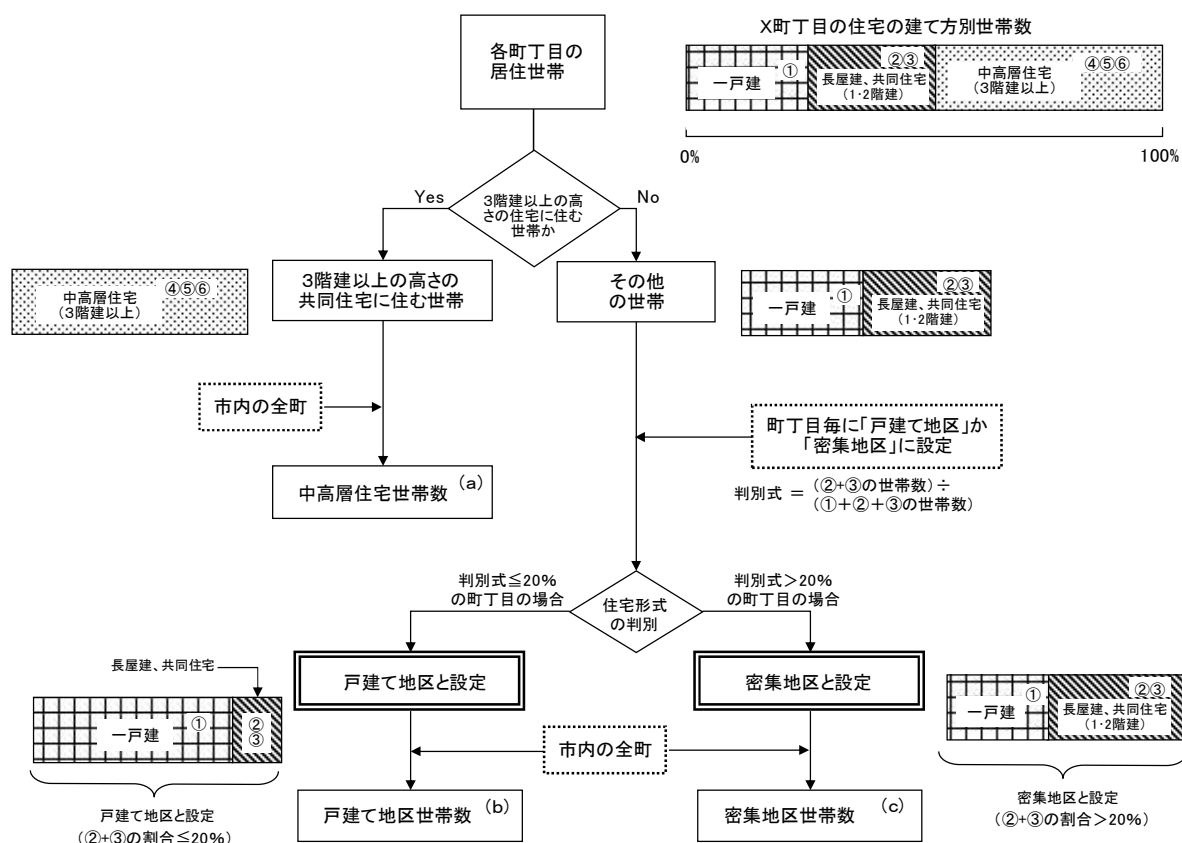
＜参考＞住宅形式別世帯数割合の設定方法

市内の各町丁目を、住宅の建て方別世帯数を用いて「戸建て地区」か「密集地区」のいずれかに設定した。ただし、各町丁目に住む世帯数のうち、3階建以上の共同住宅に住む世帯数は「中高層地区」の世帯数として、「戸建て地区」および「密集地区」の世帯数から引いている。市内の全町丁目について同様の作業を行い、市内全体の住宅形式別世帯数割合を算出した。

各町丁目での住宅形式の設定方法を図2-3に示した。

なお、住宅の建て方別世帯数の算出には、令和2年国勢調査（小地域集計）「第8表 住宅の建て方別一般世帯数—町丁・字等」を使用した。なお、住宅の建て方の7区分は、①一戸建、②長屋建、③共同住宅（1・2階建）、④共同住宅（3～5階建）、⑤共同住宅（6～10階建）、⑥共同住宅（11階建以上）、⑦その他である。

図2-3 各町丁目での住宅形式の設定方法



2-2 調査の結果

(1) ごみ排出容器の状況

1) ごみ排出容器の種類

調査を行った3地区の排出に用いた容器(袋)の種類と容器(袋)数割合を表2-8に示す。なお、算出にあたっては3地区の結果を合計した。

収集区分別に容器(袋)数(ひも・テープ、バラなどの場合はまとめて排出された数)を見ると、可燃ごみでは、排出に用いた容器(袋)の種類は「透明・半透明ごみ袋」が最も高く51.5%、次いで「透明・半透明手提げ袋」が44.2%であった。この2種類で全体の95.7%を占めていた。

廃プラ・ペットボトルでは、排出に用いた容器(袋)の種類は「透明・半透明ごみ袋」が44.2%、「透明・半透明手提げ袋」が51.8%であった。この2種類で全体の96.0%を占めていた。

不燃ごみでは、「透明・半透明手提げ袋」による排出割合が最も高く、57.3%であった。

缶・びんは、「透明・半透明手提げ袋」による排出割合が最も高く、57.5%であった。

古紙・古着は「紙袋」、「段ボール等紙箱」、「ひも・テープ」が全体の47.6%を占めていた。

透明・半透明袋は94.3%であり、前回(平成28年度)調査よりも3.1%増加した。

表2-8 排出に用いた容器(袋)の種類と容器(袋)数割合(3地区合計)

収集区分		排出に用いた容器(袋)の種類										透明・半透明容器(袋)の割合	
		透明・半透明ごみ袋	透明・半透明手提げ袋	不透明ごみ袋	不透明手提げ袋	紙袋	ダンボール等紙箱	ひも・テープ	バラ	その他	全体	透明・半透明袋	透明袋以外
可燃ごみ	袋数(数)	142	122	2	10	0	0	0	0	0	276	264	12
	割合(%)	51.5%	44.2%	0.7%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	95.7%	4.3%
廃プラ・ペットボトル	袋数(数)	121	142	0	1	0	0	0	4	6	274	273	1
	割合(%)	44.2%	51.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	2.2%	100.0%	99.6%	0.4%
不燃ごみ	袋数(数)	20	47	0	0	0	0	0	6	9	82	82	0
	割合(%)	24.4%	57.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.3%	11.0%	100.0%	100.0%	0.0%
缶・びん	袋数(数)	75	130	0	9	0	0	0	3	9	226	217	9
	割合(%)	33.2%	57.5%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	4.0%	100.0%	96.0%	4.0%
古紙・古着	袋数(数)	12	25	0	0	20	11	7	5	0	80	49	31
	割合(%)	15.0%	31.3%	0.0%	0.0%	25.0%	13.8%	8.8%	6.3%	0.0%	100.0%	61.3%	38.8%
合計	袋数(数)	370	466	2	20	20	11	7	18	24	938	885	53
	割合(%)	39.4%	49.7%	0.2%	2.1%	2.1%	1.2%	0.7%	1.9%	2.6%	100.0%	94.3%	5.7%

※ 古紙・古着は、段ボール単体など裸で出されたものは集計から除いている。
※ 透明・半透明袋等の割合は、透明・半透明ごみ袋、透明・半透明手提げ袋、ひも・テープ、バラ、その他の割合の合計であり、透明袋以外の割合は、不透明ごみ袋、不透明手提げ袋、紙袋、ダンボール等紙箱の割合の合計である。
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

[参考] 前回(平成28年度)調査における排出に用いた容器(袋)の種類と容器(袋)数割(3地区合計)

収集区分		排出に用いた容器(袋)の種類										透明・半透明容器(袋)の割合	
		透明・半透明ごみ袋	透明・半透明手提げ袋	不透明ごみ袋	不透明手提げ袋	紙袋	ダンボール等紙箱	ひも・テープ	バラ	その他	全体	透明・半透明袋	透明袋以外
可燃ごみ	袋数(数)	153	134	6	21	3	0	0	1	3	321	291	30
	割合(%)	47.7%	41.8%	1.9%	6.6%	1.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.0%	100.0%	90.7%	9.3%
廃プラ・ペットボトル	袋数(数)	194	194	1	15	1	0	0	3	7	415	398	17
	割合(%)	46.7%	46.7%	0.2%	3.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.7%	1.7%	100.0%	95.9%	4.1%
不燃ごみ	袋数(数)	8	31	1	14	2	5	1	3	21	86	64	22
	割合(%)	9.3%	36.0%	1.2%	16.3%	2.3%	5.8%	1.2%	3.5%	24.4%	100.0%	74.4%	25.6%
缶・びん	袋数(数)	57	211	0	8	1	0	0	2	12	291	282	9
	割合(%)	19.6%	72.5%	0.0%	2.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.7%	4.1%	100.0%	96.9%	3.1%
古紙・古着	袋数(数)	8	35	1	2	13	11	7	7	2	86	59	27
	割合(%)	9.3%	40.7%	1.2%	2.3%	15.1%	12.8%	8.1%	8.1%	2.3%	100.0%	68.6%	31.4%
合計	袋数(数)	420	605	9	60	20	16	8	16	45	1,199	1,094	105
	割合(%)	35.0%	50.5%	0.8%	5.0%	1.7%	1.3%	0.7%	1.3%	3.8%	100.0%	91.2%	8.8%

※ 上表の注釈は、表2-8と同じ。

2) 1容器（1袋）当たりの重量、容積、見かけ比重

ごみ排出に用いた1容器（1袋）当たりの重量、容積および見かけ比重を表2-9に示す。

1容器（1袋）当たりの重量は不燃ごみが3.41kgであり、次いで可燃ごみが2.51kg、古紙・古着が2.27kgであった。また、廃プラ・ペットボトルは、1袋当たりの重量が0.86kgと他の収集区分の半分以上の重量であったが、1袋当たりの容積は、廃プラ・ペットボトルが最も大きく25.90Lであった。

前回（平成28年度）調査と比較すると、可燃ごみ、廃プラ・ペットボトル、不燃ごみでは、1袋当たりの重量・容積は増加していた。一方で、見かけ比重はいずれの収集区分においても減少していた。

表2-9 1容器（1袋）当たりの重量、容積、見かけ比重（3地区合計）

収集区分		本調査	前回 （平成28年度） 調査
可燃ごみ	重量（kg/袋）	2.51	2.05
	容積（L/袋）	18.84	10.80
	比重（kg/L）	0.13	0.19
廃プラ・ペットボトル	重量（kg/袋）	0.86	0.52
	容積（L/袋）	25.90	14.10
	比重（kg/L）	0.03	0.04
不燃ごみ	重量（kg/袋）	3.41	1.34
	容積（L/袋）	37.93	9.90
	比重（kg/L）	0.09	0.14
缶・びん	重量（kg/袋）	0.80	1.27
	容積（L/袋）	7.89	8.90
	比重（kg/L）	0.10	0.14
古紙・古着	重量（kg/袋）	2.27	2.82
	容積（L/袋）	22.28	17.10
	比重（kg/L）	0.10	0.16
合計	重量（kg/袋）	1.75	1.34
	容積（L/袋）	21.72	11.80
	比重（kg/L）	0.08	0.11

(2) 家庭系ごみ組成の実態

可燃ごみ、廃プラ・ペットボトル、不燃ごみ、缶・びん、古紙・古着の5つの収集区分から排出された3地区のごみ組成調査結果を加重平均し、市平均の「家庭系ごみ」として整理した結果を図2-4、図2-5に示す。

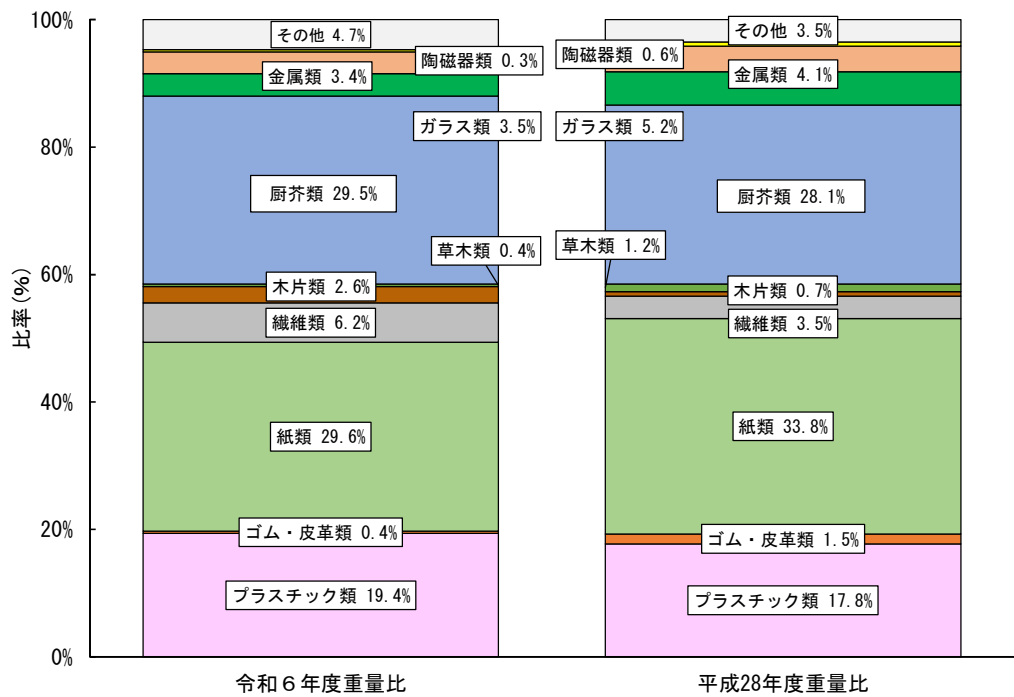
1) 成分別組成の概要

家庭系ごみ全体の成分別の割合（重量比）では、紙類の重量比が29.6%で最も高く、次いで、厨芥類が29.5%、プラスチック類が19.4%であった。また、前回（平成28年度）調査と全体的には概ね同じような排出割合であったが、紙類の重量比は4.2%減少、厨芥類の重量比は1.4%増加、プラスチック類の重量比は1.6%増加した。

家庭系ごみ全体の成分別の割合（容積比）では、プラスチック類の容積比が45.0%で最も高く、次いで紙類が32.1%であった。また、厨芥類の容積比は5.8%であり、重量比と比べて容積比では全体に占める割合が低くなっていた。

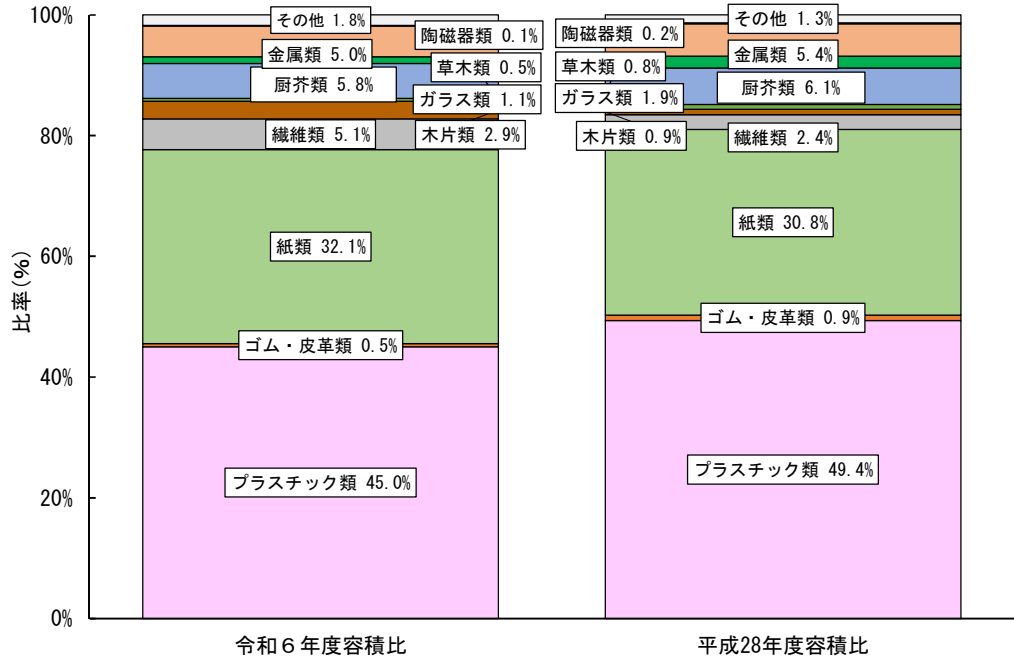
また、分類作業前に計量したごみの全量と、分類作業後に計量した個別のごみ量の合計との間には差分が生じていた。本調査ではこの差分を分類作業中に流出した水分等とし、厨芥類に合わせて計上した。なお、前回（平成28年度）調査においても、結果を整理する上で同様の処理を施していた。

図2-4 家庭系ごみ全体の成分別組成
[調査結果 重量比]



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

図2-5 家庭系ごみ全体の成分別組成
[調査結果 容積比]



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

2) 容器包装の排出実態の概要

家庭系ごみ全体に含まれる容器包装の割合とその材質内訳を図2-6、図2-7に示す。

家庭系ごみ全体に対して容器包装が占める割合は重量比で32.2%、容積比で64.1%であった。前回（平成28年度）調査と比較すると、全体的に概ね同じような排出割合であるが、プラスチック製容器包装の重量割合が1.7%増加、紙製容器包装の重量割合が3.1%増加していた。

図2-6 家庭系ごみ全体中の容器包装の割合

〔調査結果 重量比〕

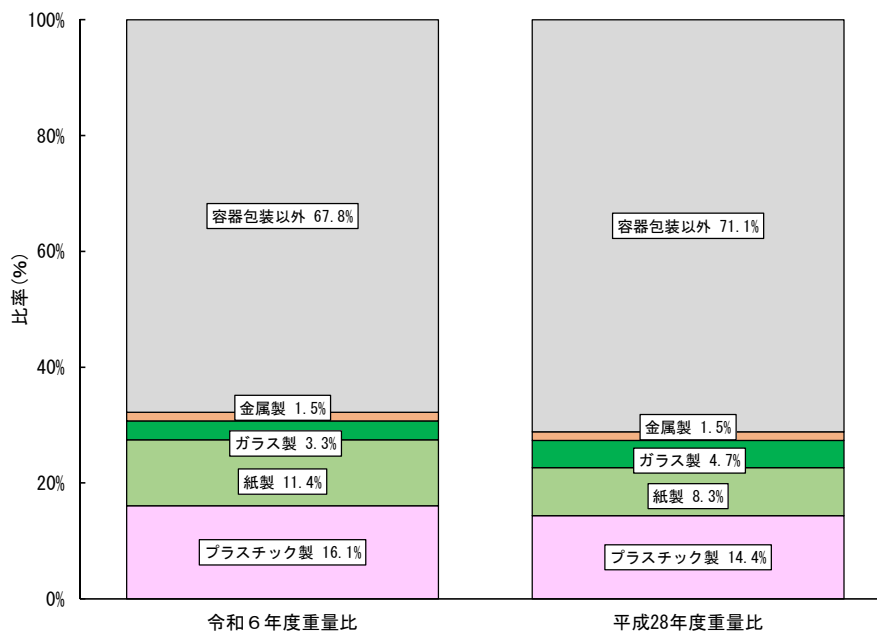
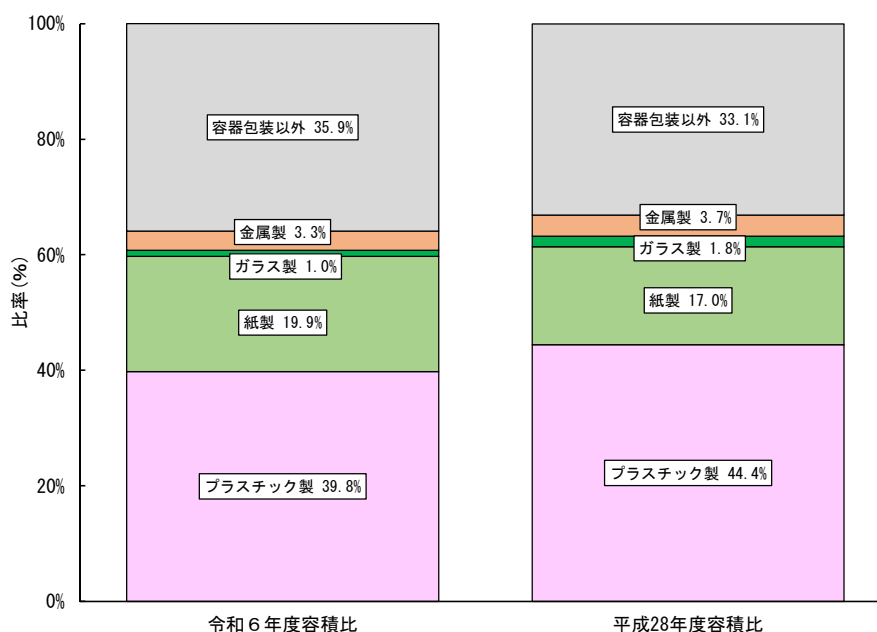


図2-7 家庭系ごみ全体中の容器包装の割合

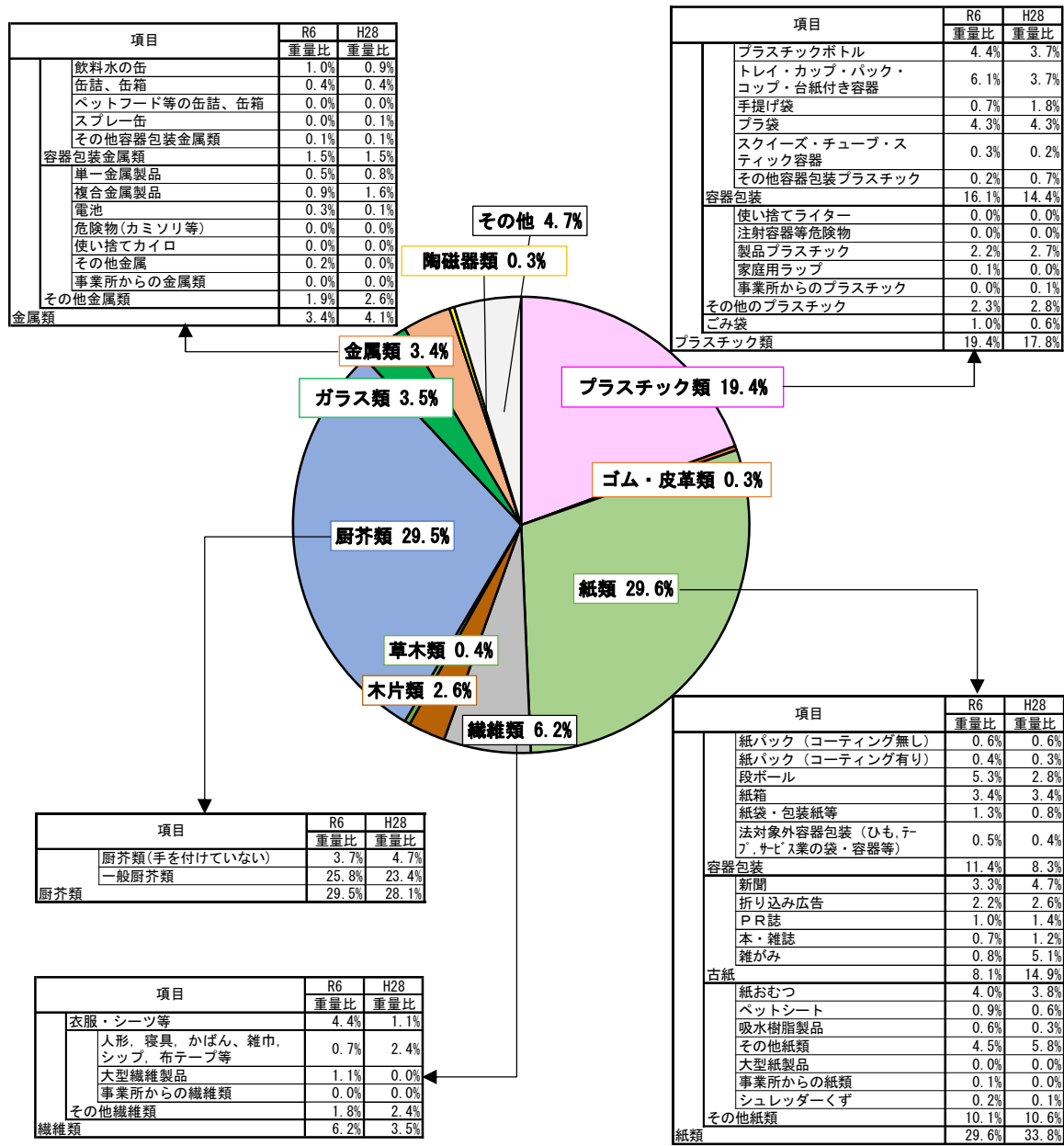
〔調査結果 容積比〕



(3) 家庭系ごみ全体の成分別の詳細なごみ組成

家庭系ごみ全体の成分別の詳細なごみ組成を図2-8、2-9に示す。

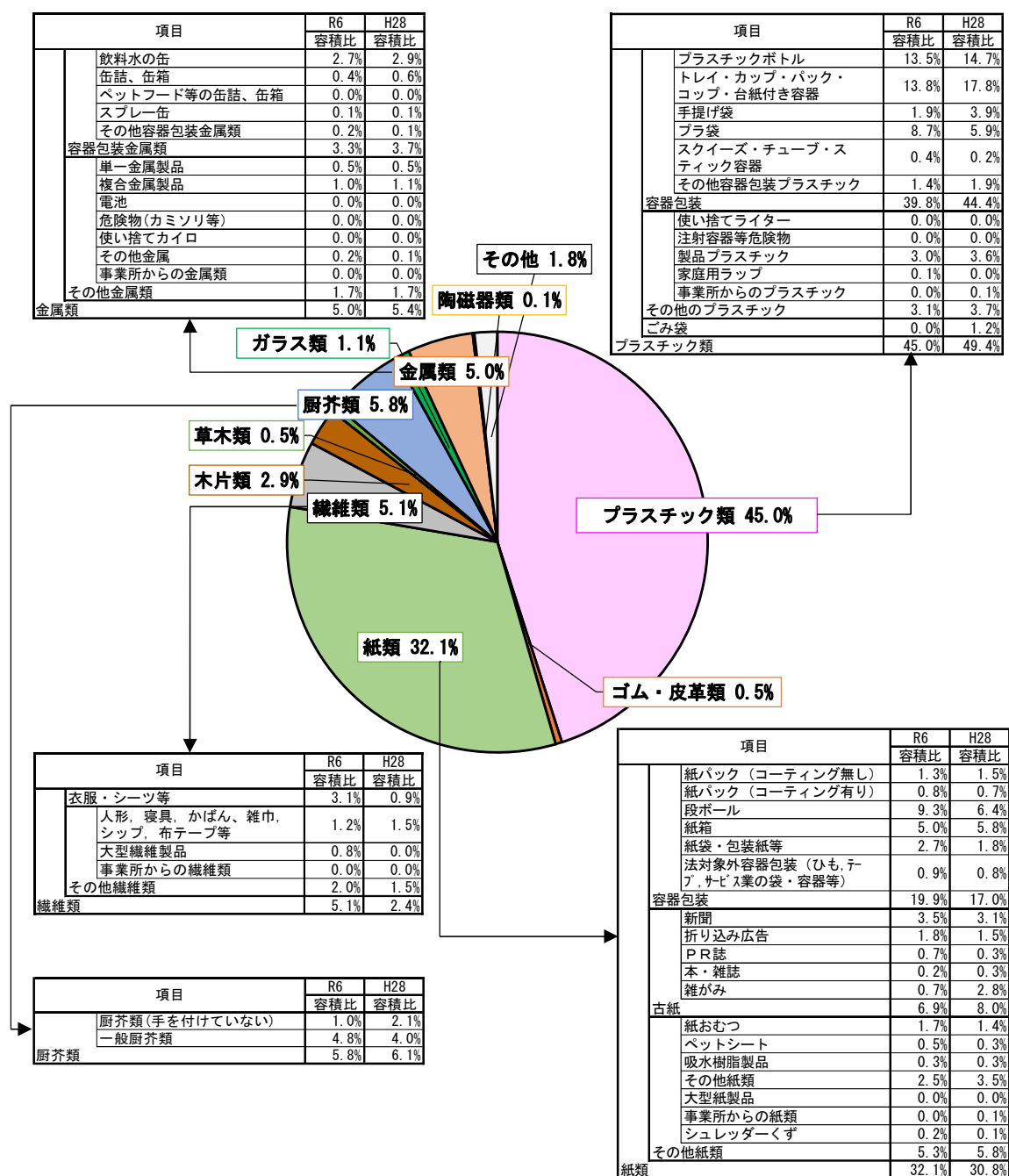
図2-8 家庭系ごみの細組成（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

家庭系ごみ全体の詳細なごみ組成（重量比）を上図に示す。容器包装プラスチックは16.1%で前回（平成28年度）調査から1.7%増加していた。また、容器包装紙類は11.4%で前回（平成28年度）調査から3.1%増加していた。このうち、段ボールは5.3%で前回（平成28年度）調査から2.5%増加していた。一方、古紙は8.1%で前回（平成28年度）調査から6.8%減少していた。

図 2-9 家庭系ごみの細組成（容積比）

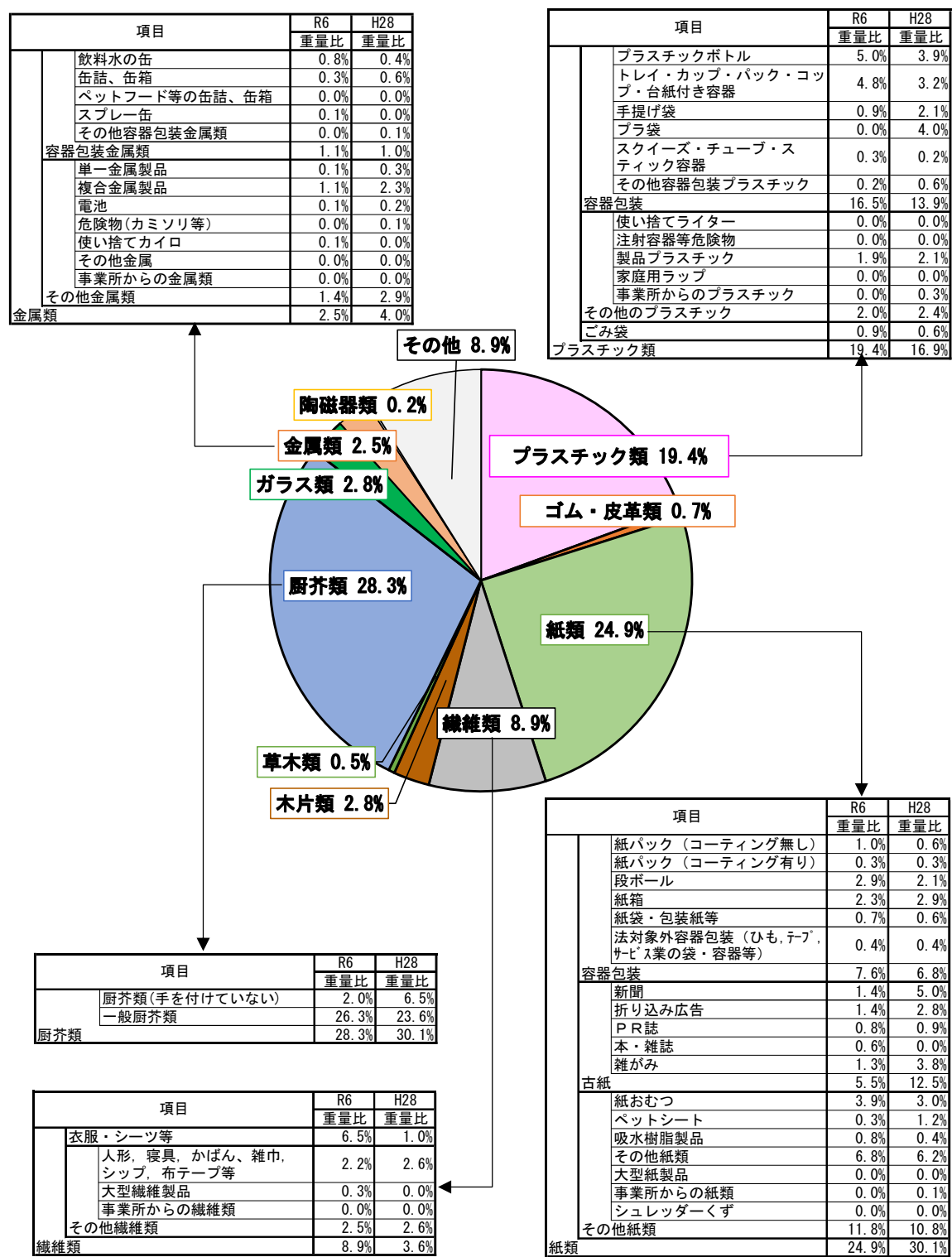


※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

家庭系ごみ全体の詳細なごみ組成（容積比）を上図に示す。古紙は6.9%で前回（平成28年度）調査から1.1%減少していた。一方で、段ボールは9.3%で前回（平成28年度）調査から2.9%増加していた。

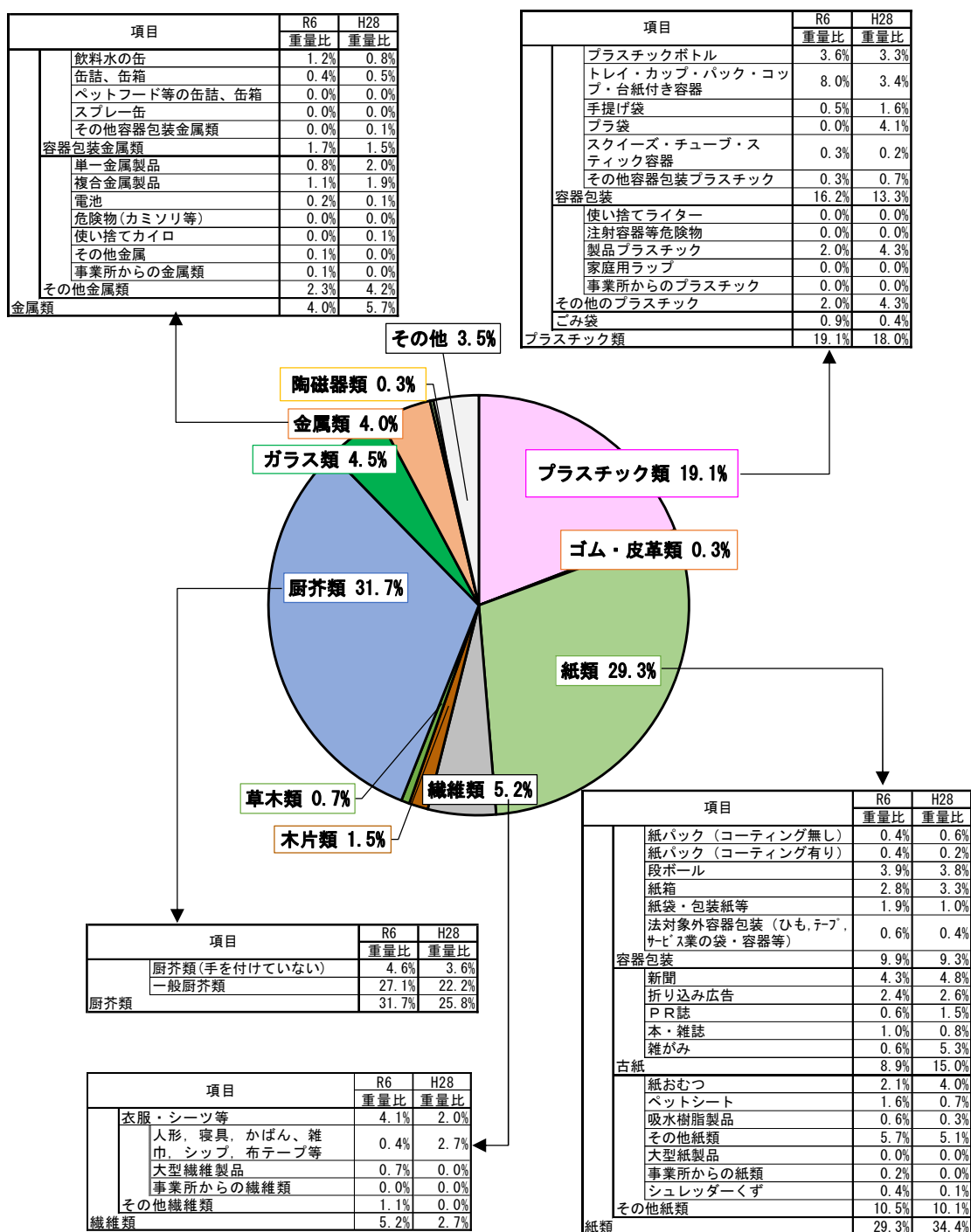
住宅形式別のごみ組成（重量比）を図2-10～2-12に示す。

図2-10 家庭系ごみの細組成（重量比）【密集住宅地区】



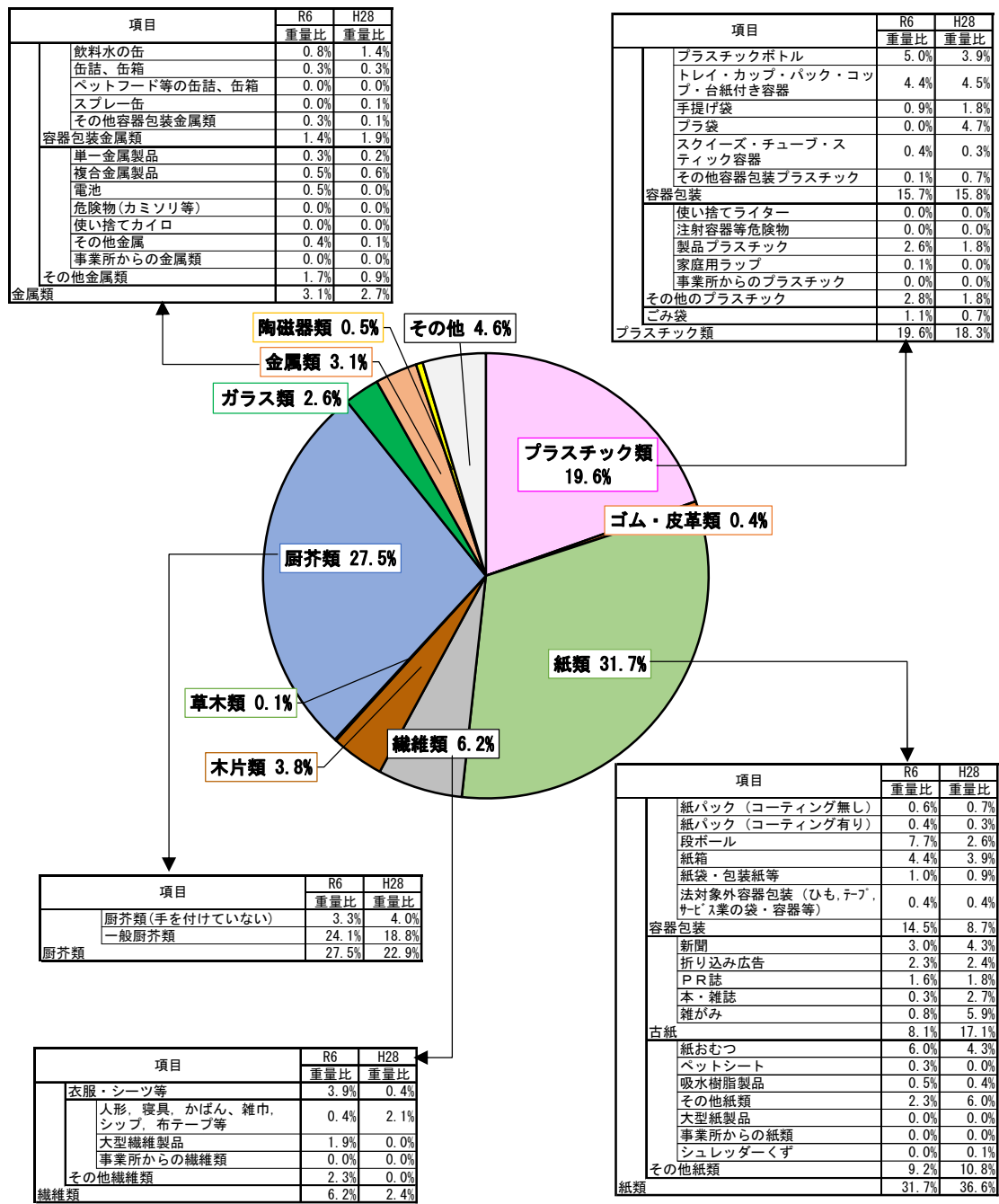
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

図 2-11 家庭系ごみの細組成（重量比）【戸建て住宅地区】



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

図 2-12 家庭系ごみの細組成（重量比）【中高層住宅地区】



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

住宅形式別のごみ組成はいずれの地区も概ね同様であるが、中高層住宅地区は紙類が31.7%で3地区の中で最も高く、容器包装紙類が14.5%を占めていた。戸建て住宅地区は厨芥類が31.7%で3地区の中で最も高かった。

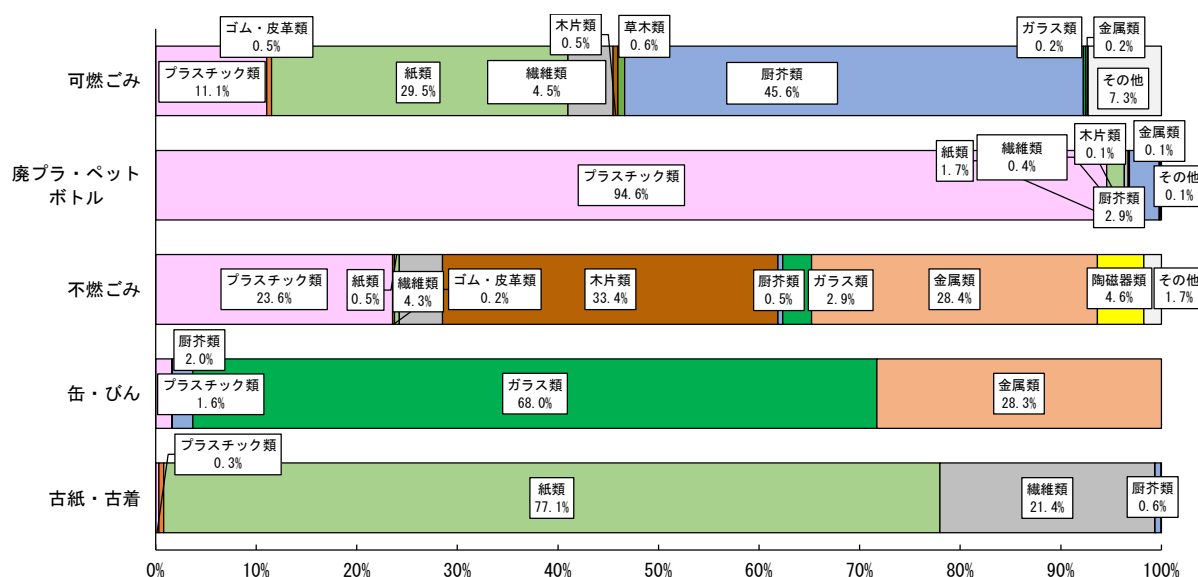
(4) 収集区分別のごみ組成の実態

1) 収集区分別に見たごみ組成の概要

収集区分別のごみ組成を図2-13、図2-14に、収集区分別の細組成を図2-15～図2-24に示す。

図2-13 収集区分別ごみ組成

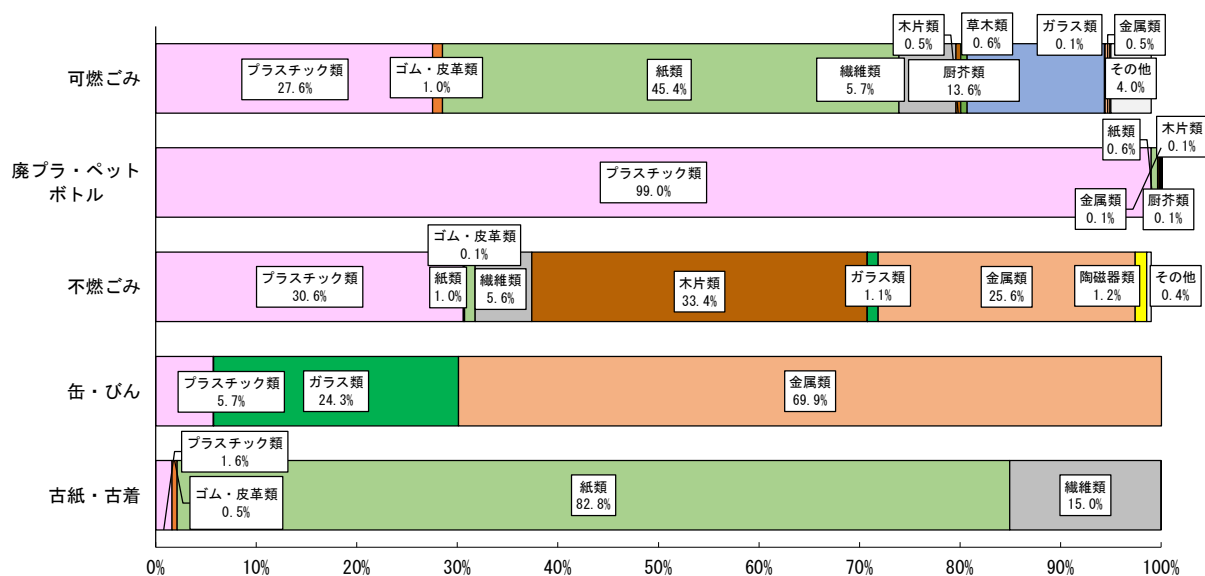
<重量比>



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

図2-14 収集区分別ごみ組成

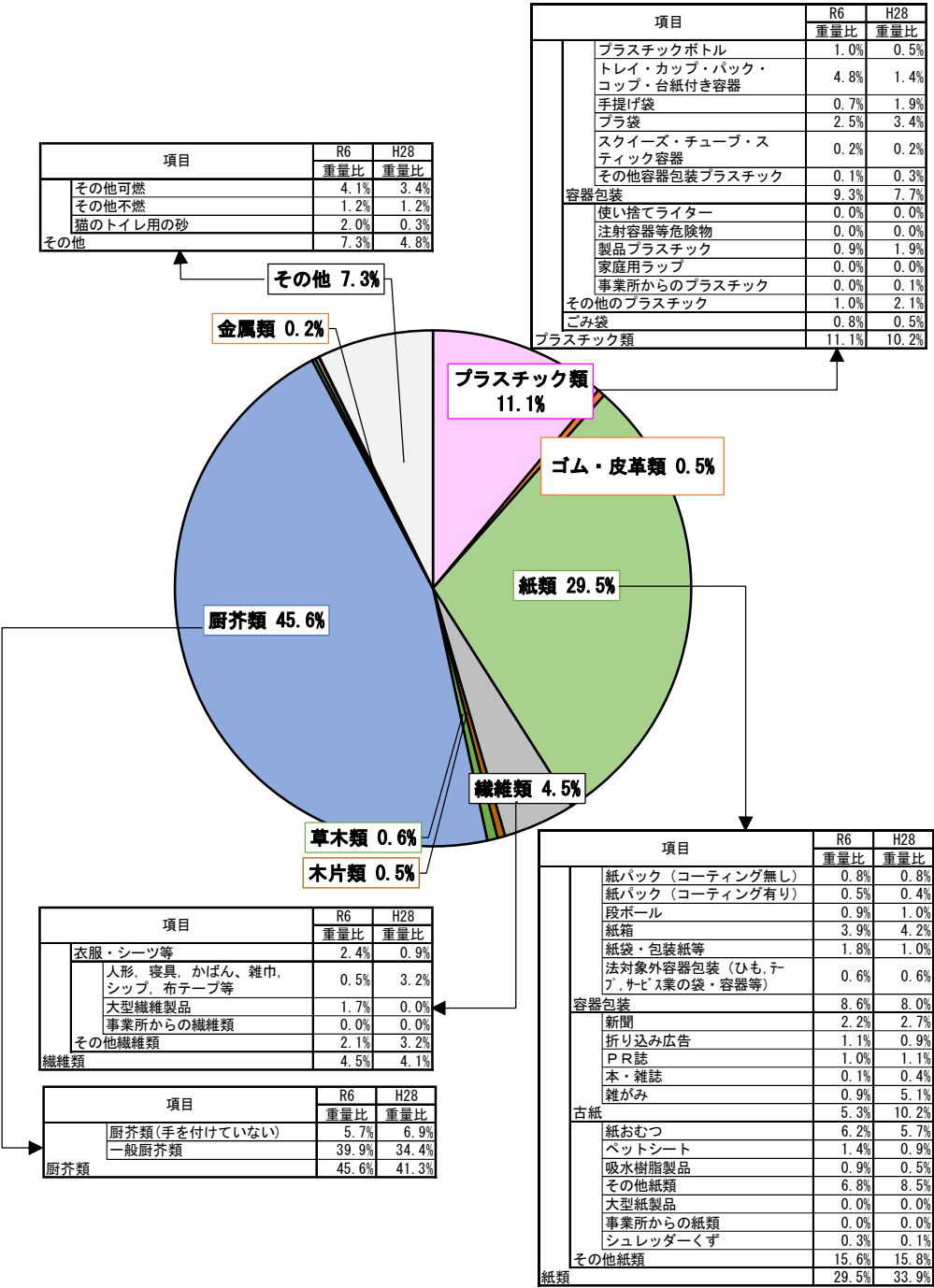
<容積比>



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

① 可燃ごみの細組成

図 2-15 可燃ごみの細組成（重量比）



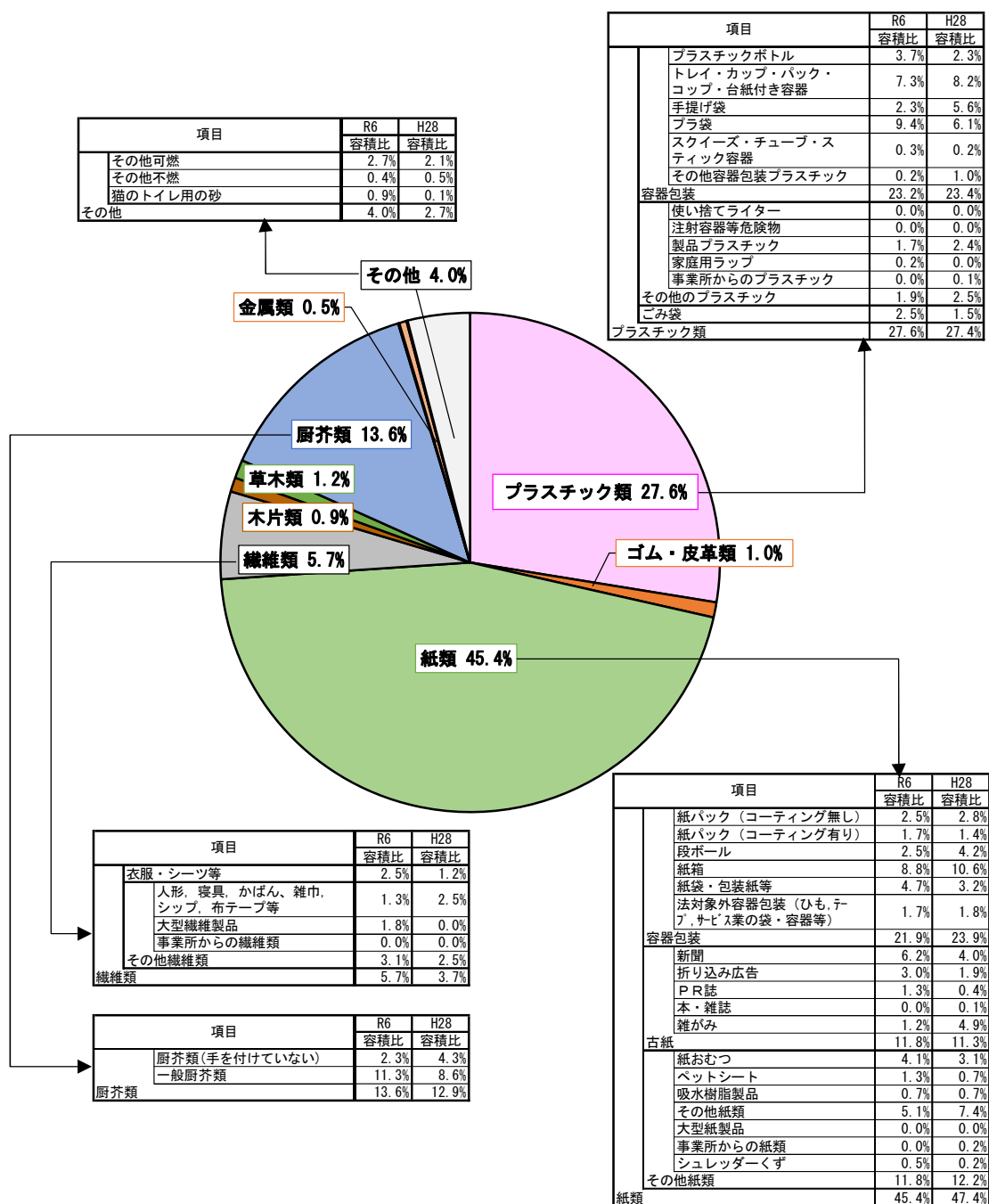
※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

プラスチック類は 11.1%で前回（平成 28 年度）調査よりも 0.9%増加していた。このうち、容器包装プラスチックが 9.3%を占めており、前回（平成 28 年度）調査よりも 1.6%増加していた。

紙類は 29.5%で前回（平成 28 年度）調査よりも 4.4%減少していた。このうち、古紙は 5.3%であり、前回（平成 28 年度）調査よりも 4.9%減少していた。

厨芥類は 45.6%で最も高く、前回（平成 28 年度）調査よりも 4.3%増加していた。

図2-16 可燃ごみの細組成（容積比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

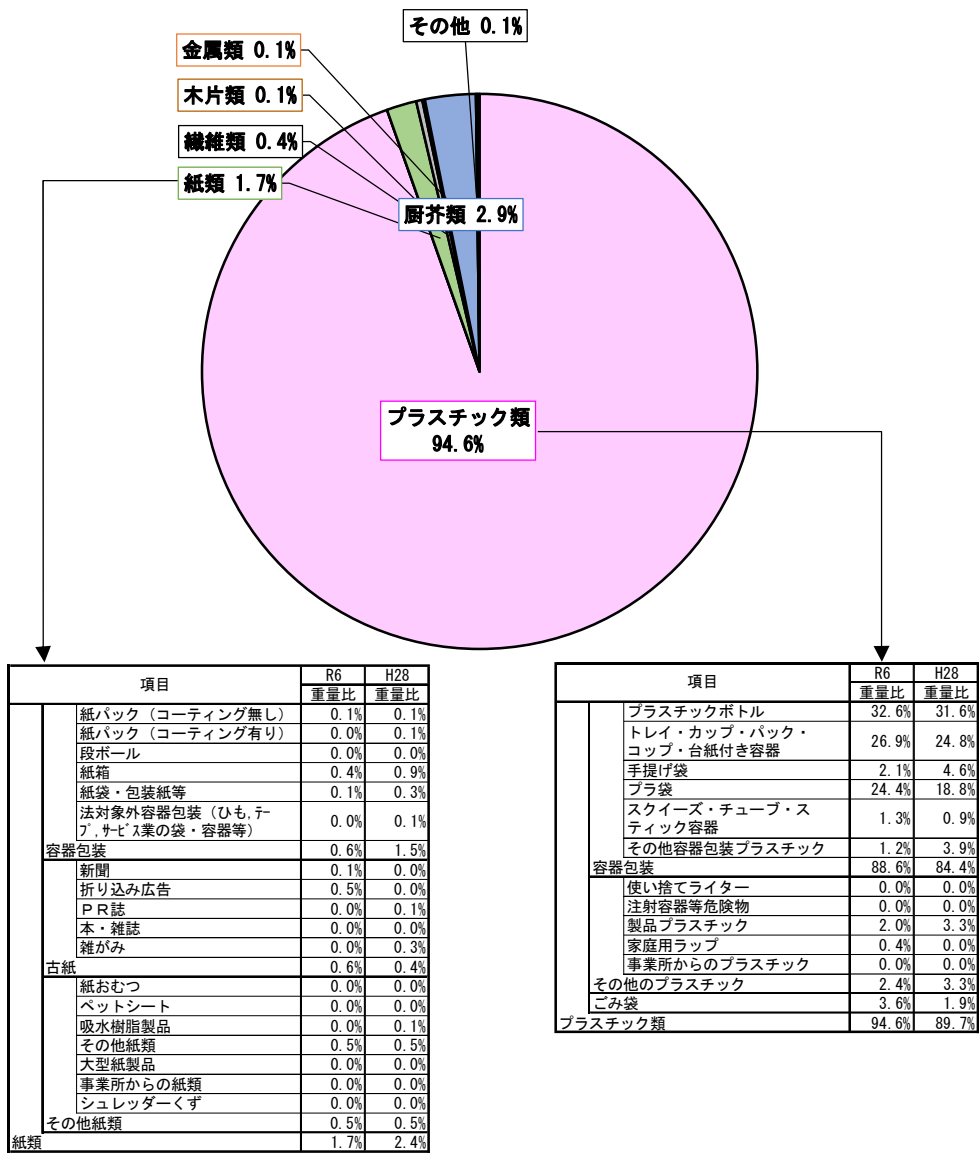
プラスチック類は27.6%で前回（平成28年度）調査よりも0.2%増加していた。このうち容器包装プラスチックが23.2%を占めており、前回（平成28年度）調査の結果と概ね同様であった。

紙類は45.4%で最も高かったが、前回（平成28年度）調査よりも2.0%減少していた。

厨芥類は13.6%で前回（平成28年度）調査よりも0.7%増加していた。

② 廃プラ・ペットボトルの細組成

図 2-17 廃プラ・ペットボトルの細組成（重量比）

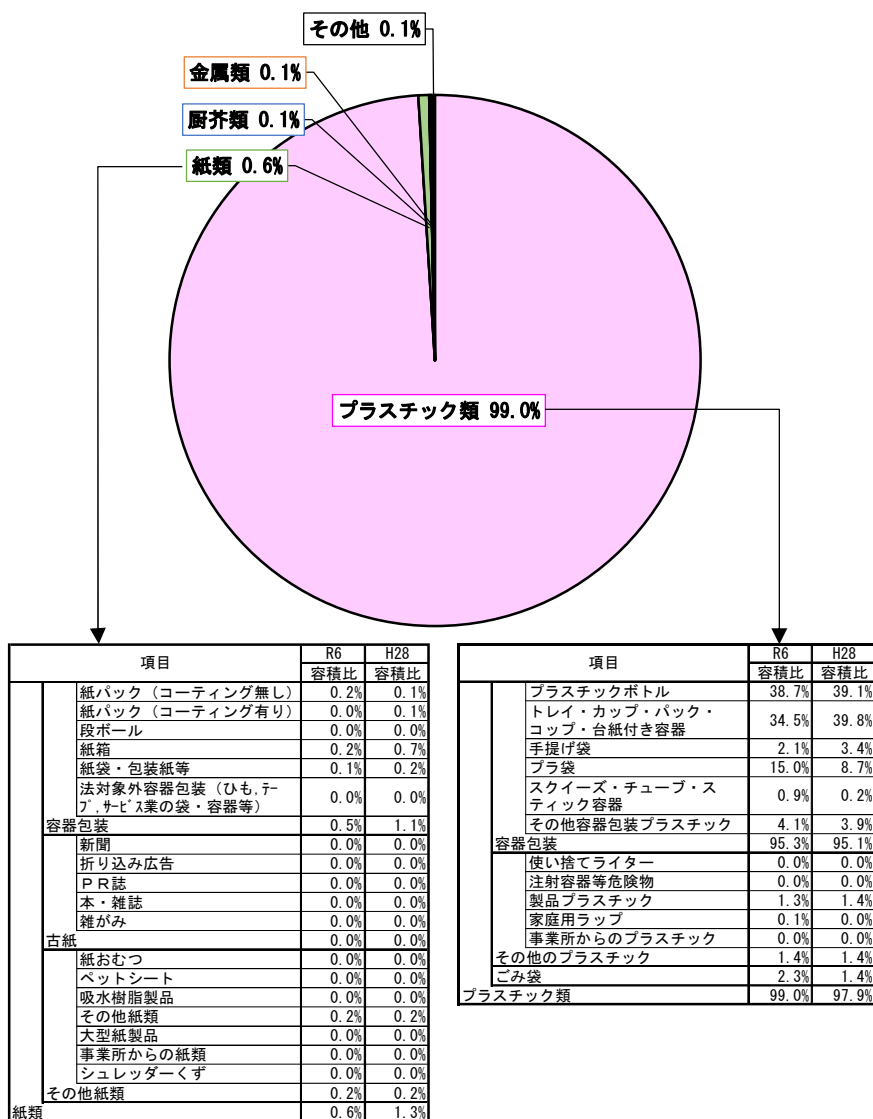


※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

プラスチック類が全体の 94.6%を占めており、前回（平成 28 年度）調査よりも 4.9%増加していた。このうち容器包装プラスチックが 88.6%を占めていた。

紙類は 1.7%で、前回（平成 28 年度）調査より 0.7%減少していた。

図2-18 廃プラ・ペットボトルの細組成（容積比）

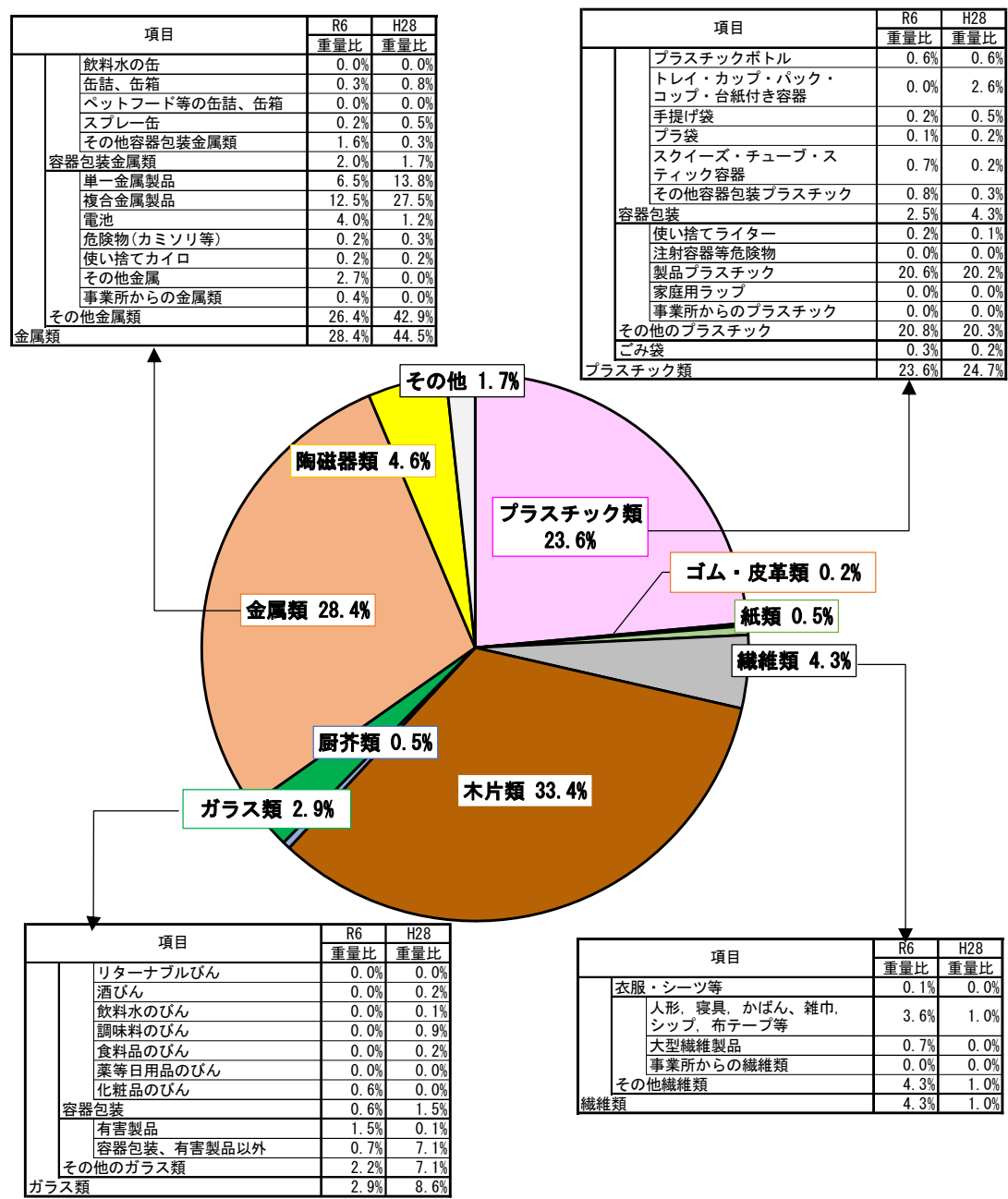


※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

プラスチック類が全体の99.0%を占めており、前回（平成28年度）調査よりも1.1%増加していた。このうち容器包装プラスチックが95.3%を占めていた。

③ 不燃ごみの細組成

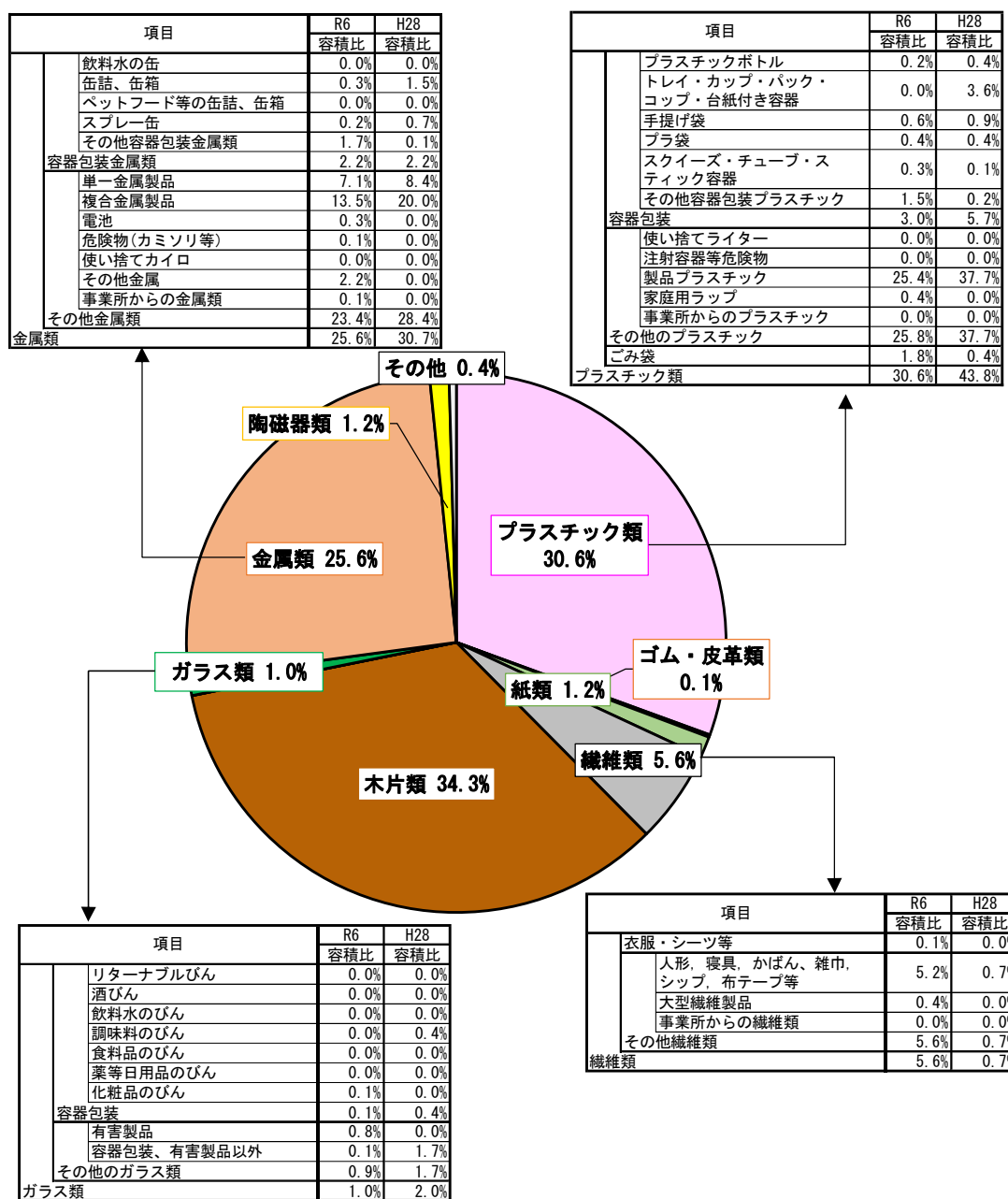
図 2-19 不燃ごみの細組成（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

木片類は33.4%で前回（平成28年度）調査よりも大幅に31.4%増加していた。大型の木製製品が複数箇所から排出されていたことが重量比増加の要因と考えられた。

図2-20 不燃ごみの細組成（容積比）

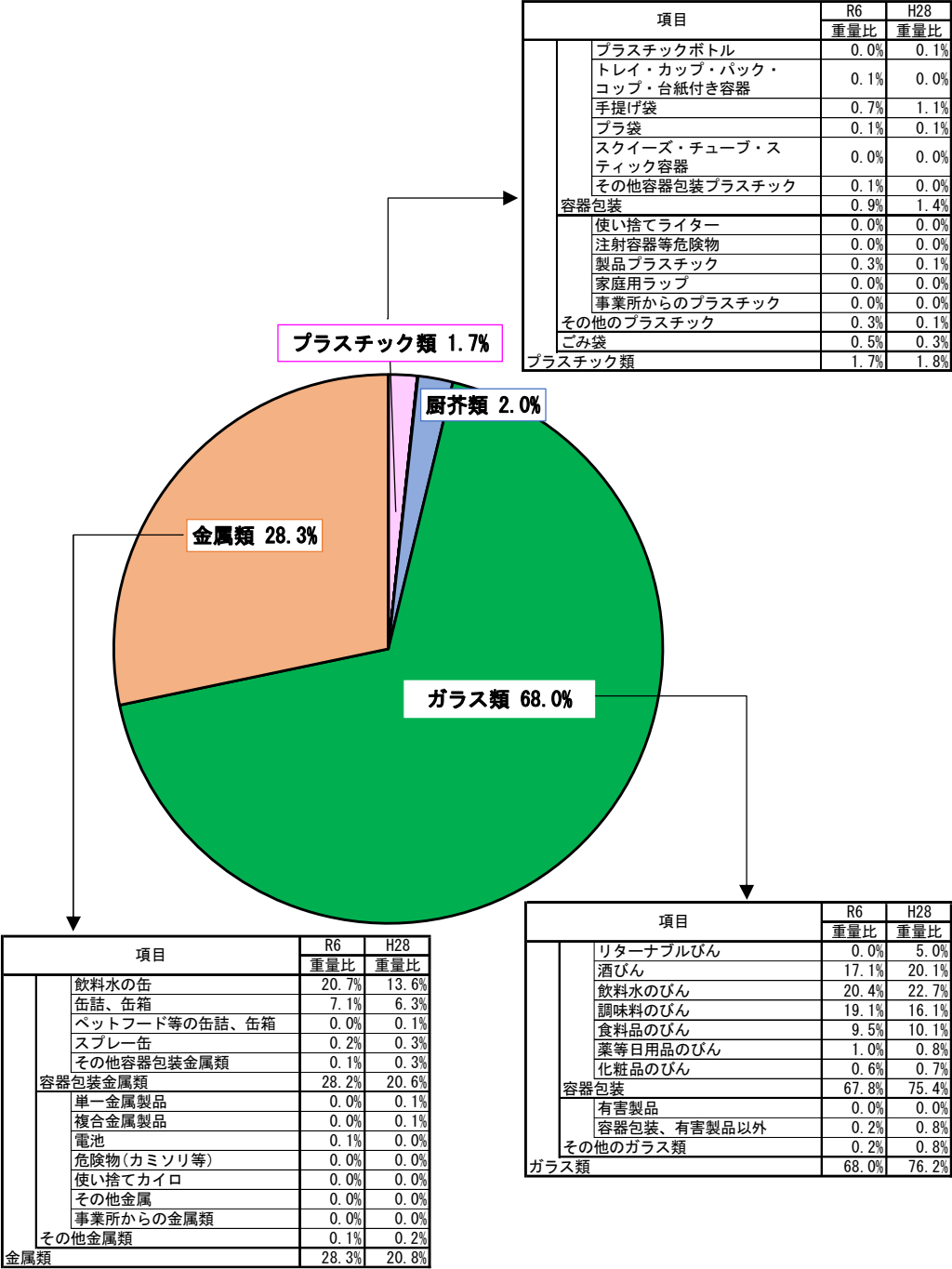


※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

木片類は34.3%で前回（平成28年度）調査よりも大幅に30.9%増加していた。大型の木製製品が、複数箇所から排出されていたことが重量比増加の原因と考えられた。

④ 缶・びんの細組成

図 2-21 缶・びんの細組成（重量比）



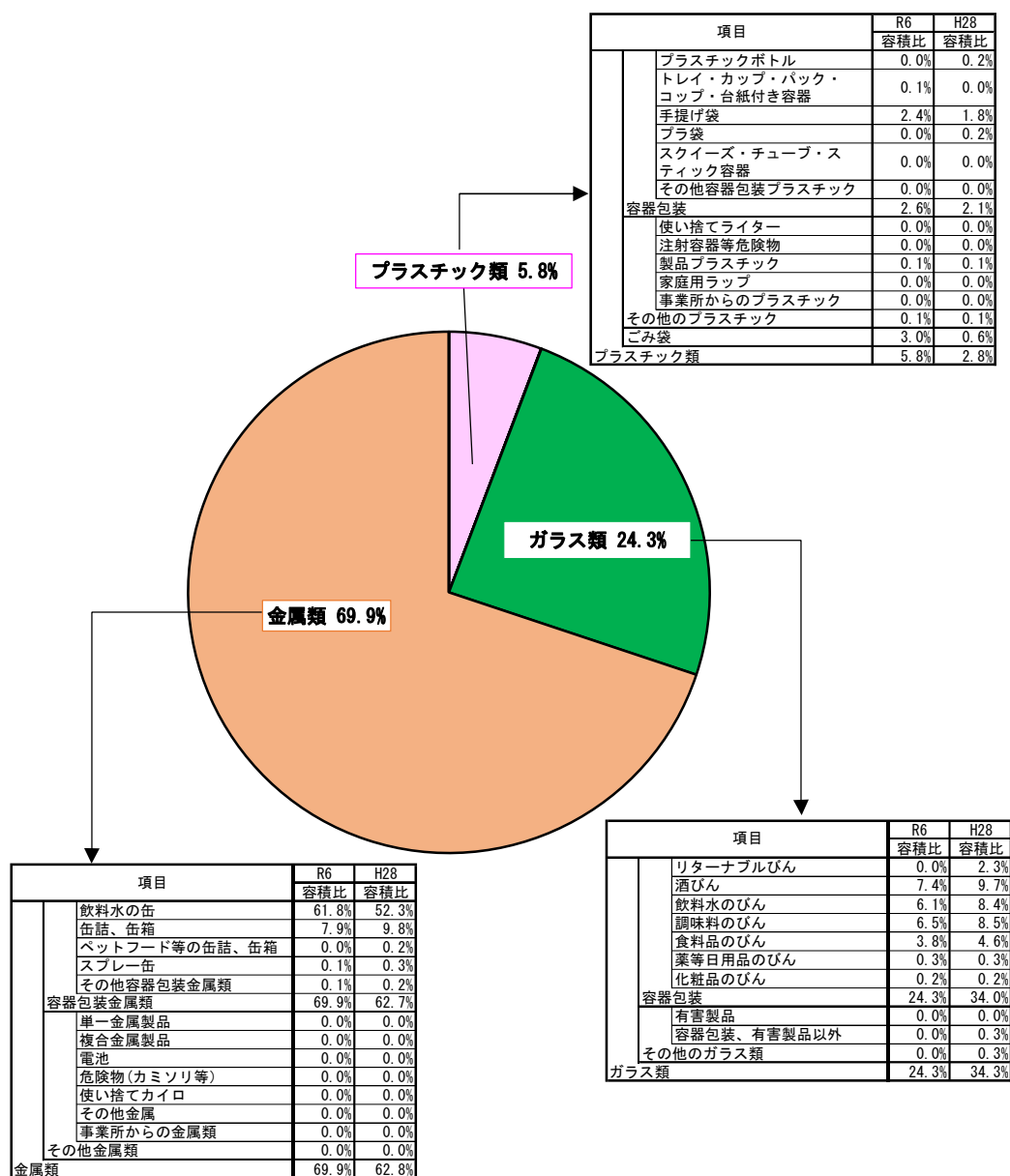
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

ガラス類が全体の 68.0%を占めており、このうちの 67.8%が容器包装であった。

金属類は 28.3%であり、このうちの 28.2%が容器包装であった。

ガラス類と金属類で全体の 96.3%を占めており、前回（平成 28 年度）調査と概ね同様の結果であった。

図2-22 缶・びんの細組成（容積比）

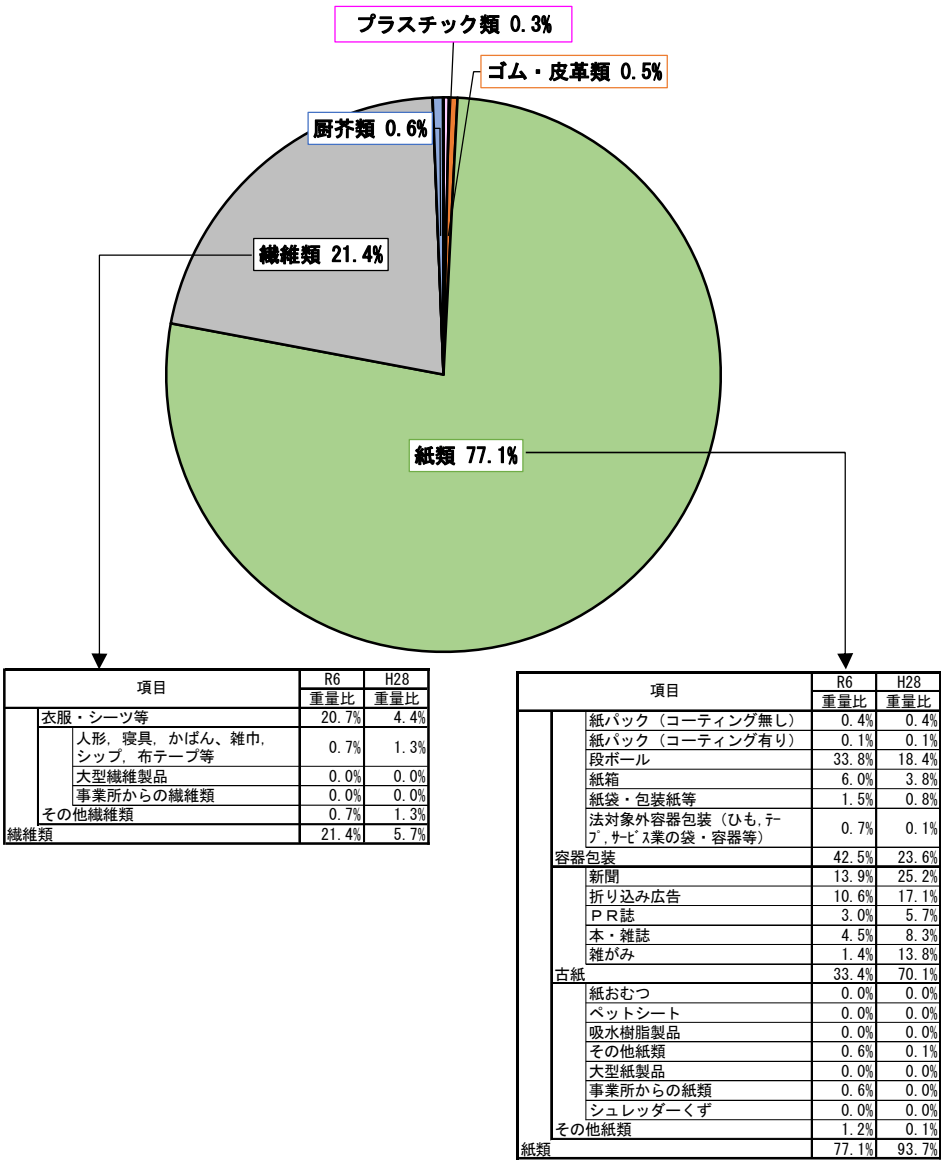


※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

ガラス製の容器包装が全体の24.3%、金属製の容器包装が全体の69.9%を占めており、全体の94.2%を占めていた。前回（平成28年度）調査と概ね同様の結果であった。

⑤ 古紙・古着の細組成

図 2-23 古紙・古着の細組成（重量比）

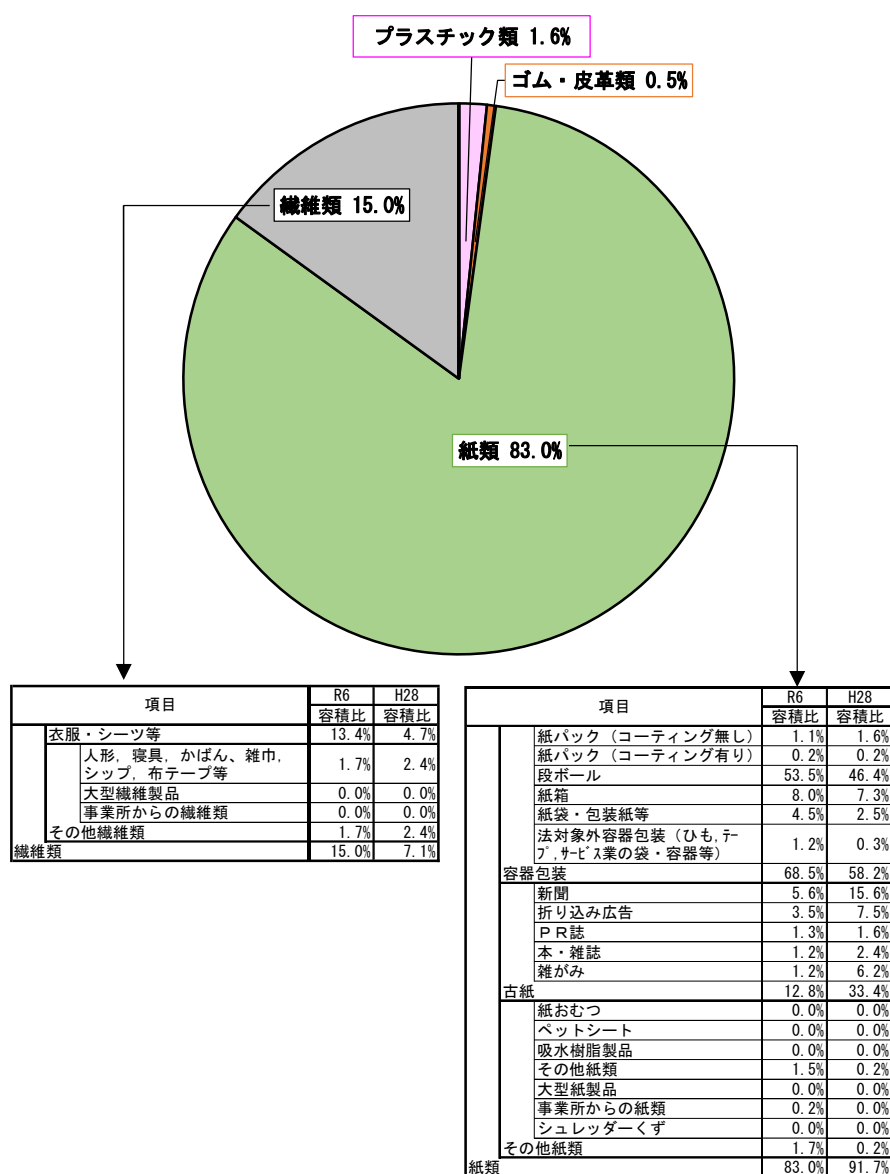


※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

紙類が全体の 77.1% を占めており、このうち容器包装が 42.5%、古紙が 33.4% を占めていた。特に段ボールは 33.8% と高く、前回（平成 28 年度）調査から倍増していた。一方、古紙は前回（平成 28 年度）調査から半減していた。

また繊維類は 21.4% で、前回（平成 28 年度）調査から大幅に 15.7% 増加していた。

図2-24 古紙・古着の細組成（容積比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

紙類が全体の83.0%を占めており、このうち容器包装が68.5%を占めていた。特に段ボールは53.5%と高く、前回（平成28年度）調査から7.1%増加していた。一方、古紙は前回（平成28年度）調査から大幅に20.6%減少していた。

また繊維類は15.0%で前回（平成28年度）調査から倍増していた。

(5) 可燃ごみに排出された厨芥類の含水率

可燃ごみに排出された厨芥類（手を付けていない食料品は除く）の含水率は、表2-10のとおり約73%～81%であった。前回（平成28年度）調査の結果と比較すると、3地区中2地区（密集住宅地区および戸建て住宅地区）では含水率が減少し、1地区（中高層住宅地区）では含水率が増加していた。住宅形式が異なる3地区の世帯数割合を用いて含水率に重みづけをして平均化すると、78.7%と算出された。前回（平成28年度）調査から変化は見られなかった。

表2-10 可燃ごみ中の厨芥類の含水率

	含水率（％）	
	本調査	前回（平成28年度）調査
密集住宅地区	73.3%	76.5%
戸建て住宅地区	78.8%	79.8%
中高層住宅地区	80.9%	79.5%
市全体	78.7%	78.6%

※ 各地区につき2検体を1kg以上採取して、環整第95号通達に定める方法で含水率を測定した。

※ 上表に記載の含水率は2検体の含水率の平均値である。

可燃ごみ中の手を付けていない食料品の割合は、表2-11に示すとおり可燃ごみ全体の約3%～7%を占めていた。前回（平成28年度）調査の結果と比較すると、3地区中2地区（密集住宅地区および中高層住宅地区）では手を付けていない食料品の割合は減少し、1地区（戸建て住宅地区）では増加していた。住宅形式が異なる3地区の世帯数割合を用いて重量割合に重みづけをして3地区全体を平均化すると5.7%と求められ、前回（平成28年度）調査から1.2%低下していた。

表2-11 可燃ごみ中の手を付けていない食料品

	重量割合（％）	
	本調査	前回（平成28年度）調査
密集住宅地区	2.8%	8.7%
戸建て住宅地区	7.1%	5.9%
中高層住宅地区	5.4%	5.9%
市全体	5.7%	6.9%

[可燃ごみ中の手を付けていない食料品]



(6) 不燃ごみ中の使用済小型電子機器等

不燃ごみには、コンセントや充電器が多く排出されていた。

重量 (%) と個数を表 2-12 に示す。

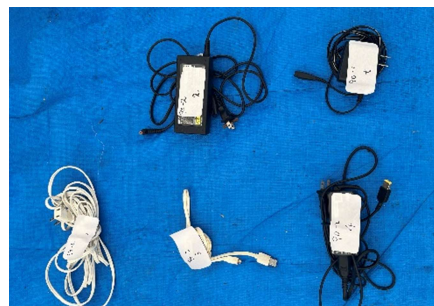
表 2-12 不燃ごみ中の使用済小型電子機器等

	重量	個数
コンセント	20.5%	10 個
変換アダプタ	3.1%	3 個
充電器	18.9%	7 個
スマートフォン	8.7%	1 個
延長コード	5.5%	1 個
リモコン	11.0%	5 個
小型ライト	7.1%	1 個
Wi-fi ルーター	18.9%	1 個
ワイヤレス式ゲームコントローラー	4.7%	1 個
電子たばこ	1.6%	1 個
合計	100.0%	31 個

※ 上表は前回（平成 28 年度）未調査項目。

※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

〔不燃ごみ中の使用済小型電子機器等〕



なお、火災の恐れがあるリチウムイオン電池等の充電式電池内蔵の一部の使用済小型家電（スマートフォンや電子たばこ）は別袋に分けられずに、他の不燃ごみと同じ袋に入れて排出されていた。

(7) 可燃ごみ、不燃ごみ中の資源化可能物

可燃ごみ、不燃ごみ中の資源化可能物の割合を表2-13に示す。可燃ごみには、資源化可能な紙類が12.6%、プラスチック類が9.3%、繊維類が2.4%等含まれており、資源化可能物の合計は24.5%であった。これとは別に、厨芥類、剪定枝の堆肥化等可能物が46.2%含まれており、さらに不燃ごみにはプラスチック類が2.5%、金属類が7.7%含まれていた。可燃ごみと不燃ごみに含まれていたこれらの資源化可能物の合計値は22.7%となる。

また、前回（平成28年度）調査と比較すると、可燃ごみ中の資源化可能物の割合は24.9%から24.5%に減少、不燃ごみ中の資源化可能物の割合は25.1%から10.6%に減少しており、改善されていた。

なお、可燃ごみの中に含まれる堆肥化等可能物（厨芥類および剪定枝）の全てを分別・資源化することは現実的ではないが、仮に実施できたと想定した場合、資源化可能物と堆肥化等可能物の合算値は64.5%まで上昇する。

表2-13 可燃ごみ、不燃ごみ中の資源化可能物の割合（重量比）

				可燃ごみ		不燃ごみ		可燃ごみと 不燃ごみの合計	
				重量(kg)	重量(%)	重量(kg)	重量(%)	重量(kg)	重量(%)
資源化可能物	プラスチック類	ペットボトル		8.5	0.5%	0.0	0.0%	8.5	0.4%
		その他プラスチック 製容器包装 容り法対象物のみ	ブラボトル	9.6	0.6%	1.1	0.6%	10.7	0.6%
			白色発泡生鮮食品トレイ	0.9	0.1%	0.0	0.0%	0.9	0.0%
			容器類（ボトル、白色発泡トレイ除く）	86.9	5.0%	1.4	0.7%	88.3	4.6%
			袋、シート等包装類	55.4	3.2%	0.6	0.3%	56.0	2.9%
			その他（緩衝材、フタ等）	1.1	0.1%	1.6	0.8%	2.7	0.1%
		計	153.8	8.8%	4.6	2.5%	158.5	8.2%	
	小計			162.3	9.3%	4.7	2.5%	167.0	8.6%
	紙類	紙バック（飲料水、アルミコーティングなし）		13.8	0.8%	0.0	0.0%	13.8	0.7%
		段ボール		15.7	0.9%	0.0	0.0%	15.7	0.8%
		新聞紙（そのまま排出）		15.9	0.9%	0.2	0.1%	16.1	0.8%
		折込広告		19.4	1.1%	0.0	0.0%	19.4	1.0%
		本・雑誌・PR誌		18.9	1.1%	0.2	0.1%	19.1	1.0%
		その他紙製容器包装（法律対象物のみ）		109.0	6.2%	0.2	0.1%	109.2	5.6%
		その他リサイクル可能な紙（封筒、チラシ、パン等 葉書大以上で汚れ物除く）		27.0	1.5%	0.0	0.0%	27.1	1.4%
	小計			219.7	12.6%	0.7	0.4%	220.4	11.4%
	ガラス類 （びん類）		リターナブルびん	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
			ワンウェイびん（化粧品のびん除く）	1.7	0.1%	0.0	0.0%	1.7	0.1%
			計	1.7	0.1%	0.0	0.0%	1.7	0.1%
			蛍光管	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
	小計			1.7	0.1%	0.0	0.0%	1.7	0.1%
	金属類	缶類	飲料水のアルミ缶	0.6	0.0%	0.0	0.0%	0.6	0.0%
			飲料水のスチール缶	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
			缶詰、缶箱	0.3	0.0%	0.5	0.3%	0.9	0.0%
			計	1.0	0.1%	0.5	0.3%	1.5	0.1%
		スプレー缶		0.1	0.0%	0.4	0.2%	0.5	0.0%
		金属単体製品（なべ、食器類等）		1.1	0.1%	6.1	3.2%	7.2	0.4%
乾電池		0.2	0.0%	7.6	4.0%	0.0	0.0%		
小計			2.4	0.1%	14.6	7.7%	9.2	0.5%	
繊維類（衣類）			41.3	2.4%	0.1	0.1%	41.5	2.1%	
資源化可能物の合計			427.6	24.5%	20.1	10.6%	439.9	22.7%	
堆肥化等可能物	厨芥類		796.8	45.6%	0.9	0.5%	797.6	41.2%	
	剪定枝		10.6	0.6%	0.0	0.0%	10.6	0.6%	
堆肥化等可能物の合計			807.4	46.2%	0.9	0.5%	808.3	41.7%	
資源化可能物の総合計（堆肥化等可能物を含む）			1,235.0	70.7%	21.0	11.1%	1,248.1	64.5%	

※ 重量は市平均の家庭系ごみ組成の算定のため、28日間の排出量に換算した値である。

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔参考〕 前回（平成 28 年度）調査における可燃ごみ、不燃ごみ中の資源化可能物の割合（重量比）

				可燃ごみ		不燃ごみ		可燃ごみと 不燃ごみの合計	
				重量(kg)	重量(%)	重量(kg)	重量(%)	重量(kg)	重量(%)
資源化可能物	プラスチック類	ペットボトル（PET収集の対象品目）		4.0	0.2%	0.1	0.0%	4.1	0.2%
		その他プラスチック製容器包装 法対象物のみ	プラボトル	5.1	0.3%	0.7	0.5%	5.9	0.3%
			白色発泡生鮮食品トレイ	0.8	0.0%	0.0	0.0%	0.8	0.0%
			容器類（ボトル、白色発泡トレイ除く）	27.7	1.5%	4.0	2.8%	31.7	1.6%
			袋、シート等包装類	94.8	5.3%	1.0	0.7%	95.8	4.9%
			その他（緩衝材、フタ等）	3.1	0.2%	0.3	0.2%	3.3	0.2%
		計	131.5	7.3%	5.9	4.1%	137.4	7.1%	
		小計	135.5	7.5%	6.0	4.2%	141.4	7.3%	
	紙類	紙パック（飲料水、アルミコーティングなし）		15.2	0.8%	0.0	0.0%	15.2	0.8%
		段ボール		17.2	1.0%	2.1	1.5%	19.3	1.0%
		新聞紙（そのまま排出）		11.2	0.6%	0.0	0.0%	11.2	0.6%
		折込広告		17.1	0.9%	0.1	0.1%	17.2	0.9%
		本・雑誌・PR誌		26.4	1.5%	0.4	0.3%	26.8	1.4%
		その他紙製容器包装（法律対象物のみ）		101.2	5.6%	1.0	0.7%	102.1	5.2%
		その他リサイクル可能な紙（封筒、チラシ、パン等 葉書大以上で汚れ物除く）		102.7	5.7%	0.9	0.6%	103.6	5.3%
		小計	290.9	16.1%	4.4	3.1%	295.3	15.1%	
	ガラス類 （びん類）		リターナブルびん	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
			ワンウェイびん（化粧品びん除く）	2.1	0.1%	2.1	1.4%	4.2	0.2%
			計	2.1	0.1%	2.1	1.4%	4.2	0.2%
			蛍光管	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
	小計	2.1	0.1%	2.1	1.4%	4.2	0.2%		
	金属類	缶類	飲料水のアルミ缶	0.8	0.1%	0.0	0.0%	0.9	0.0%
			飲料水のスチール缶	0.1	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.0%
			缶詰、缶箱	0.4	0.0%	1.2	0.8%	1.6	0.1%
			計	1.4	0.1%	1.2	0.8%	2.5	0.1%
		スプレー缶		0.2	0.0%	0.8	0.5%	1.0	0.1%
		金属単体製品（なべ、食器類等）		2.0	0.1%	19.7	13.8%	21.7	1.1%
		乾電池		1.0	0.1%	1.7	1.2%	0.1	0.0%
		小計	4.5	0.3%	23.3	16.3%	25.3	1.3%	
	繊維類（衣類）		16.2	0.9%	0.0	0.0%	16.2	0.8%	
資源化可能物の合計				449.3	24.9%	35.8	25.1%	482.5	24.7%
堆肥化等 可能物	厨芥類		746.5	41.3%	0.5	0.4%	747.0	38.3%	
	剪定枝		25.8	1.4%	1.1	0.8%	26.9	1.4%	
堆肥化等可能物の合計				772.3	42.7%	1.6	1.2%	773.9	39.7%
資源化可能物の総合計（堆肥化等可能物を含む）				1,221.5	67.6%	37.4	26.2%	1,256.4	64.4%

※ 重量は市平均の家庭系ごみ組成の算定のため、28 日間の排出量に換算した値である。

※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

(8) 可燃ごみ、不燃ごみ中の製品（硬質）プラスチック

可燃ごみ、不燃ごみ中の製品（硬質）プラスチックの割合（重量比）を表2-14に示す。

可燃ごみ中には製品（硬質）プラスチックが0.9%含まれ、不燃ごみ中には製品（硬質）プラスチックが20.6%含まれていた。また、不燃ごみ中には縦25cm×横25cm×高さ35cm以上の大きな製品（硬質）プラスチックが多く含まれており、プラスチック製の大型容器が多く排出されていた。

表2-14 製品（硬質）プラスチックの割合（重量比）

項目		可燃ごみ		不燃ごみ		合計	
		重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)
製品（硬質） プラスチック	(a) 縦10cm×横10cm×高さ30cm以内	7.2kg	0.4%	4.2kg	2.2%	11.4kg	0.6%
	(b) 縦20cm×横20cm×高さ20cm以内	1.8kg	0.1%	4.1kg	2.2%	5.9kg	0.3%
	(c) 縦25cm×横25cm×高さ35cm以内	1.6kg	0.1%	1.3kg	0.7%	2.9kg	0.2%
	(d) 縦25cm×横25cm×高さ35cm以上	5.7kg	0.3%	29.4kg	15.5%	35.0kg	1.8%
	計	16.3kg	0.9%	39.0kg	20.6%	55.2kg	2.9%

※ 上表は前回（平成28年度）未調査項目。

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔プラスチック製の容器〕



(9) 品目別の分別協力率

1) 分別協力率の算出方法

各収集区分に出すべきごみのうち、実際に正しい収集区分に出されている割合を下記の式に従って算出する。

$$\text{分別協力率（\%）} = \frac{\text{（収集区分に排出された分別対象品目量）}}{\text{（家庭系ごみ全体に排出された分別対象品目量）}}$$

出典：平成28年度寝屋川市ごみ質調査報告書 寝屋川市（平成28年10月）

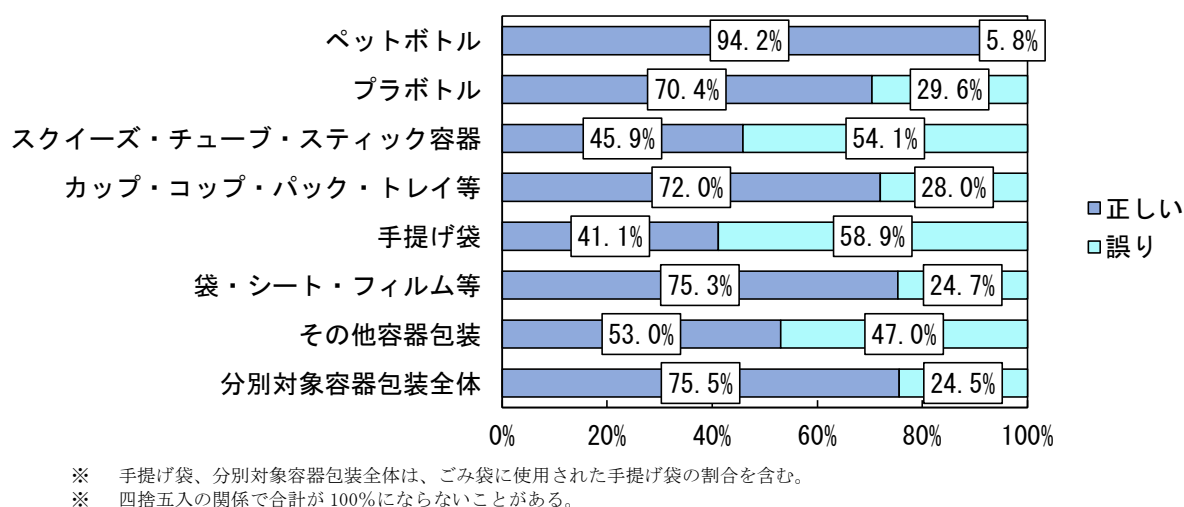
2) 品目別の分別協力率

① 廃プラ・ペットボトル

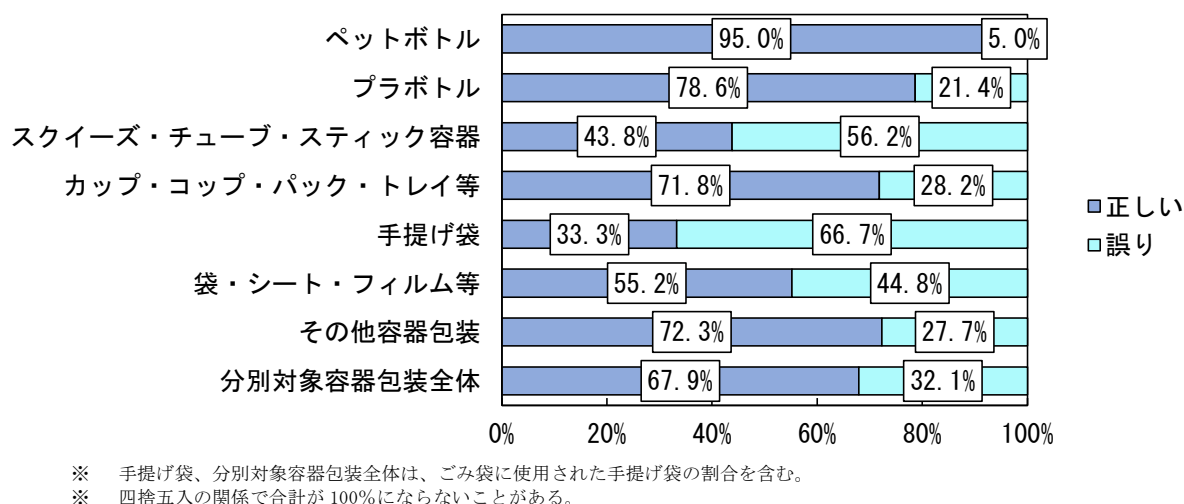
廃プラ・ペットボトル分別収集の分別協力率を図2-25に示す。収集対象容器包装全体の分別協力率は重量比で75.5%であった。

形状別では、ペットボトルが94.2%と最も高く、次いで袋・シート・フィルム等が75.3%、さらにカップ・コップ・パック・トレイ等が72.0%と続いている。前回（平成28年度）調査の結果と比較すると、全体的に廃プラ・ペットボトルの分別協力率は向上していた。

図2-25 廃プラ・ペットボトルの形状別分別協力率（重量比）



[参考 前回（平成28年度）調査における廃プラ・ペットボトルの形状別分別協力率（重量比）]



住宅形式別の分別協力率を表2-15に示す。いずれの地区も高い分別協力率であったが、中高層住宅地区ではスクイーズ・チューブ・スティック容器が別の収集区分（可燃ごみ等）に多く排出されていた。

表2-15 住宅形式別の廃プラ・ペットボトルの分別協力率

	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
ペットボトル	93.5%	96.6%	93.3%	94.2%
プラボトル	60.0%	80.6%	72.7%	70.4%
スクイーズ・チューブ・スティック容器	57.5%	51.3%	33.3%	45.9%
カップ・コップ・パック・トレイ等	86.1%	55.3%	78.9%	72.0%
手提げ袋	40.9%	45.6%	38.8%	41.1%
袋・シート・フィルム等	74.9%	86.0%	67.7%	75.3%
その他容器包装	66.7%	46.7%	43.8%	53.0%
分別対象容器包装全体	79.0%	72.0%	75.4%	75.5%

※ 手提げ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げ袋の割合を含む。

[参考 前回（平成 28 年度）調査における住宅形式別の廃プラ・ペットボトルの分別協力率]

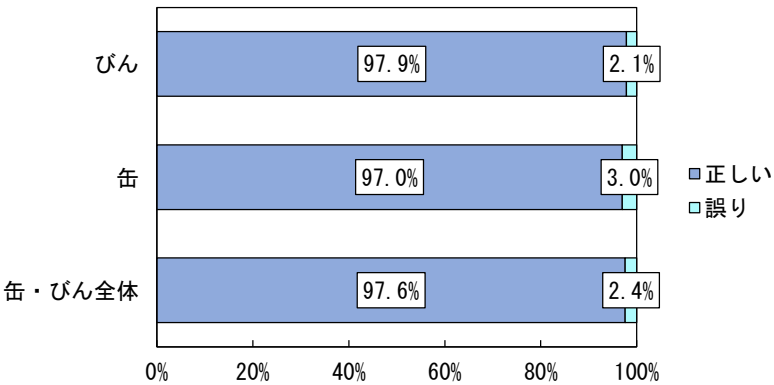
	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
ペットボトル	95.0%	98.7%	92.3%	95.0%
プラボトル	84.0%	79.9%	71.1%	78.6%
スクイーズ・チューブ・スティック容器	48.0%	56.3%	32.4%	43.8%
カップ・コップ・パック・トレイ等	74.3%	73.6%	68.9%	71.8%
手提げ袋	28.4%	37.7%	34.7%	33.3%
袋・シート・フィルム等	52.8%	63.1%	50.4%	55.2%
その他容器包装	60.3%	75.1%	78.9%	72.3%
分別対象容器包装全体	67.5%	71.9%	65.0%	67.9%

※ 手提げ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げ袋の割合を含む。

②缶・びん

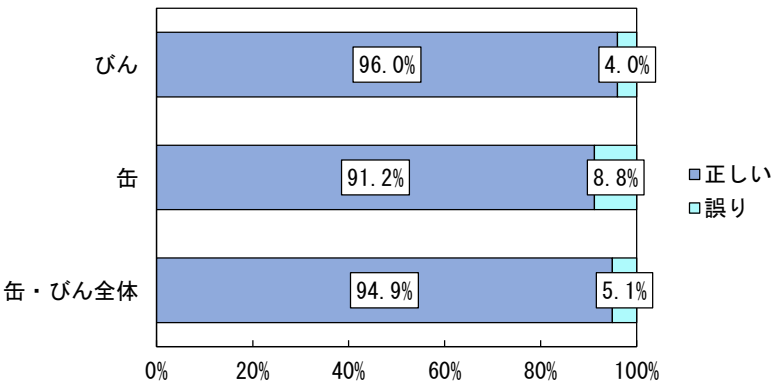
缶・びんの分別協力率を、図 2－26 に示す。缶・びん全体の分別協力率は重量比で 97.6%と高く、前回（平成 28 年度）調査よりも 2.7%向上していた。

図 2－26 缶・びんの分別協力率（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

[参考 前回（平成 28 年度）調査における缶・びんの分別協力率（重量比）]



※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

住宅形式別の分別協力率を表2-16に示す。いずれの地区も分別協力率は非常に高かった。

表2-16 住宅形式別の缶・びんの分別協力率

	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
びん	97.3%	98.2%	97.8%	97.9%
缶	94.3%	99.6%	96.2%	97.0%
缶・びん全体	96.5%	98.6%	97.3%	97.6%

[参考 前回（平成28年度）調査における住宅形式別の缶・びんの分別協力率]

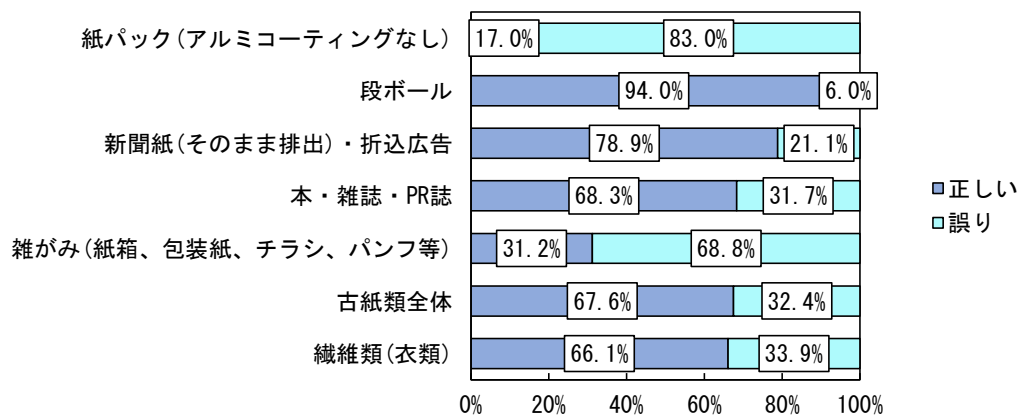
	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
びん	92.6%	99.7%	96.0%	96.0%
缶	81.8%	98.1%	91.0%	91.2%
缶・びん全体	90.8%	99.3%	94.8%	94.9%

③古紙・古着

古紙・古着の分別協力率を、図2-27に示す。古紙類全体の分別協力率は重量比で67.6%、繊維類は66.1%であった。紙パック（アルミコーティングなし）、雑がみ（紙箱、包装紙、チラシ、パンフ等）はそれぞれ17.0%、31.2%と低かった。

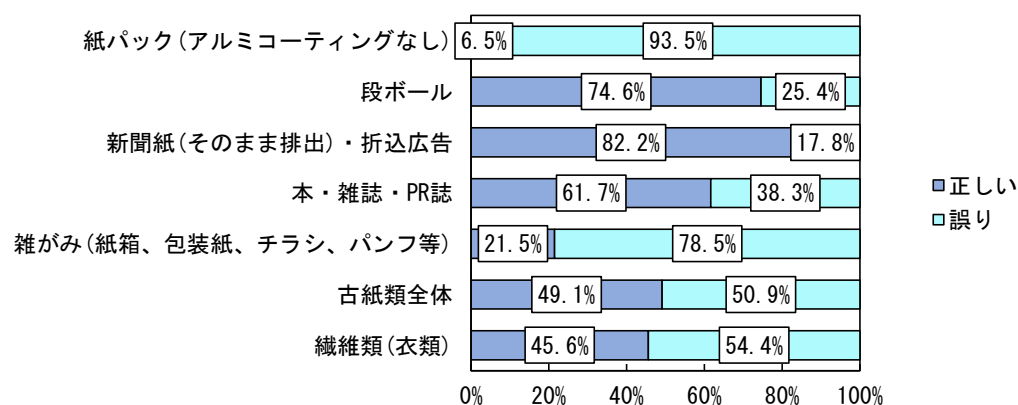
前回（平成28年度）調査と比べると、古紙類全体および繊維類の分別協力率は高まっているものの、新聞紙（そのまま排出）・折込広告については分別協力率が低下していた。

図2-27 古紙・古着の分別協力率（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

[参考 前回（平成28年度）調査における古紙・古着の分別協力率（重量比）]



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

住宅形式別の分別協力率を表2-17に示す。密集住宅地区では繊維類が別の収集区分（可燃ごみ等）に多く排出されていた。

表2-17 住宅形式別の古紙・古着の分別協力率

	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
紙パック（アルミコーティングなし）	17.5%	28.1%	8.5%	17.0%
段ボール	89.0%	89.6%	97.6%	94.0%
新聞紙（そのまま排出）・折込広告	64.1%	82.3%	81.1%	78.9%
本・雑誌・PR誌	46.7%	88.8%	62.4%	68.3%
雑がみ（紙箱、包装紙、チラシ、パンフ等）	17.3%	43.2%	30.9%	31.2%
古紙類全体	49.8%	72.8%	72.3%	67.6%
繊維類（衣類）	23.2%	88.4%	90.4%	66.1%

〔参考 前回（平成28年度）調査における住宅形式別の古紙・古着の分別協力率〕

	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
紙パック（アルミコーティングなし）	4.9%	13.9%	2.2%	6.5%
段ボール	43.9%	84.3%	84.7%	74.6%
新聞紙（そのまま排出）・折込広告	80.5%	93.6%	72.7%	82.2%
本・雑誌・PR誌	59.6%	59.9%	62.9%	61.7%
雑がみ（紙箱、包装紙、チラシ、パンフ等）	9.9%	28.6%	23.2%	21.5%
古紙類全体	38.3%	58.1%	48.1%	49.1%
繊維類（衣類）	0.0%	73.0%	29.7%	45.6%

(10) 資源物収集の状況

1) 廃プラ・ペットボトルの洗浄協力率

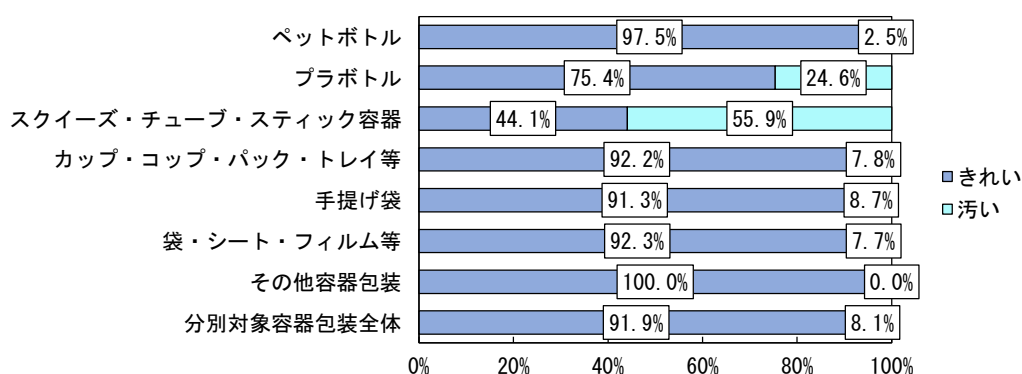
廃プラ・ペットボトルの洗浄協力率は、図2-28に示すように91.9%が「きれい」であった。なお、対象容器包装全体には、ごみ袋として使用された手提げ袋の割合も含まれる。

スクイーズ・チューブ・スティック容器は「きれい」の割合が44.1%と低かったが、他は概ね90%以上が「きれい」であった。前回（平成28年度）調査と概ね同様の結果であった。

〔洗浄されていないペットボトルおよびプラボトル〕



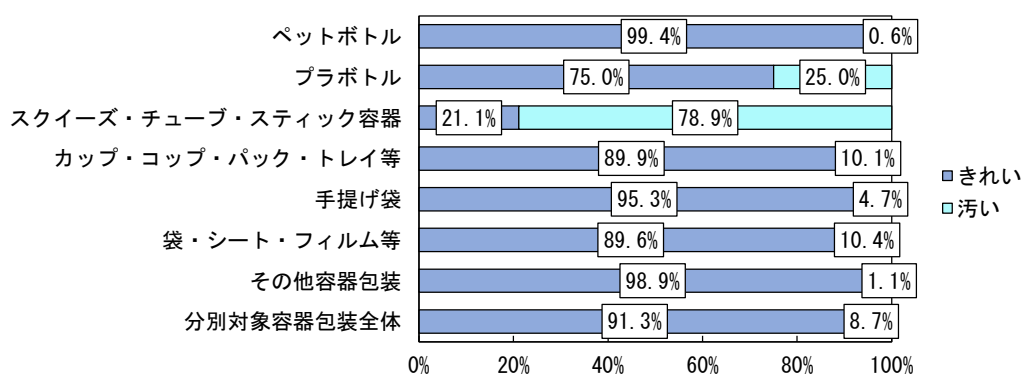
図2-28 廃プラ・ペットボトルの洗浄協力率（重量比）



※ 手提げ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げ袋の割合を含む。

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔参考 前回（平成28年度）調査における廃プラ・ペットボトルの洗浄協力率（重量比）〕



※ 手提げ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げ袋の割合を含む。

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

住宅形式別の洗浄協力率を表2-18に示す。いずれの地区も分別協力率は高かった。

表2-18 住宅形式別の洗浄協力率

	密集 住宅地区	戸建て 住宅地区	中高層 住宅地区	市平均
ペットボトル	99.0%	99.1%	95.8%	97.5%
プラボトル	84.9%	68.3%	79.8%	75.4%
スクイーズ・チューブ・スティック容器	39.1%	55.0%	33.3%	44.1%
カップ・コップ・パック・トレイ等	90.9%	93.8%	91.2%	92.2%
手提げ袋	89.3%	90.0%	93.1%	91.3%
袋・シート・フィルム等	93.8%	95.0%	88.7%	92.3%
その他容器包装	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
分別対象容器包装全体	92.9%	92.9%	90.6%	91.9%

※ 手提げ袋、分別対象容器包装全体は、ごみ袋に使用された手提げ袋の割合を含む。

排出されたペットボトルの多くはラベルおよびキャップが付いたままであった。



2) 異物混入率

① 廃プラ・ペットボトル

廃プラ・ペットボトルの異物混入率を表2-19に示す。廃プラ・ペットボトル収集の異物混入率（ごみ袋に使用された手提げ袋、ごみ袋を除く）は、重量比で7.9%、容積比で2.4%であった。混入していた異物では、厨芥類の割合が2.9%で最も高かった。前回（平成28年度）調査と比較すると、重量比で6.7%、容積比で1.5%分の異物混入率が改善された。

表2-19 廃プラ・ペットボトルの異物混入率

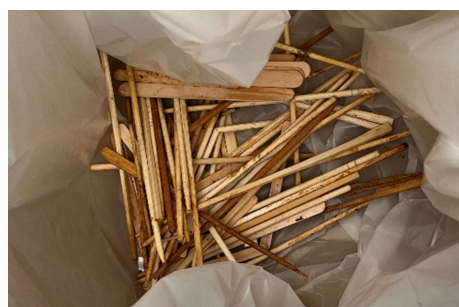
	本調査		前回（平成28年度）調査	
	重量（%）	容積（%）	重量（%）	容積（%）
収集対象容器包装 （ペットボトル含む）	88.0%	94.9%	82.7%	94.0%
容り法対象外容器包装 プラ、製品プラ	2.4%	1.4%	4.2%	1.8%
紙類	1.7%	0.6%	2.4%	1.3%
繊維類	0.4%	0.0%	1.0%	0.2%
金属類	0.1%	0.1%	0.5%	0.2%
厨芥類	2.9%	0.1%	4.2%	0.2%
その他	0.3%	0.1%	2.3%	0.2%
異物 小計	7.9%	2.4%	14.6%	3.9%
ごみ捨て用手提げ袋	0.5%	0.4%	0.8%	0.6%
ごみ袋	3.6%	2.3%	1.9%	1.4%
排出用袋 小計	4.1%	2.7%	2.7%	2.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

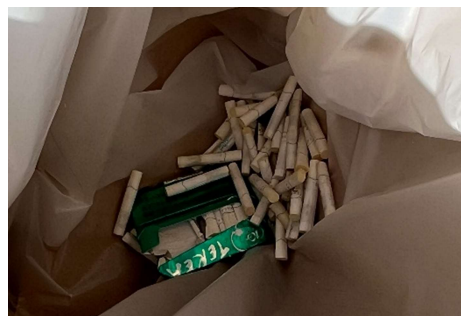
[混入していた厨芥類]



[混入していた割りばしなど]



[混入していたたばこなど]



[混入していた紙類など]



住宅形式別の異物混入率を表2-20に示す。戸建て住宅地区は異物混入率が3.7%と低かったが、密集住宅地区および中高層住宅地区では戸建て住宅地区の倍以上の異物混入率が示された。

表 2-20 住宅形式別の廃プラ・ペットボトルの異物混入率

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)
収集対象容器包装 (ペットボトル含む)		88.5%	92.1%	84.2%	88.0%
	容リ法対象外容器包装 プラ、製品プラ	2.8%	1.9%	2.8%	2.4%
	紙類	1.4%	0.4%	3.1%	1.7%
	繊維類	0.0%	0.0%	0.8%	0.4%
	金属類	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%
	厨芥類	3.7%	1.3%	4.1%	2.9%
	その他	0.3%	0.2%	0.4%	0.3%
異物 小計		8.6%	3.7%	11.2%	7.9%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.6%	0.4%	0.5%	0.5%
	ごみ袋	2.2%	3.7%	4.0%	3.6%
排出用袋 小計		2.8%	4.1%	4.6%	4.1%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

[参考 前回(平成28年度)調査における住宅形式別の廃プラ・ペットボトルの異物混入率]

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)
収集対象容器包装 (ペットボトル含む)		77.2%	87.0%	84.3%	82.7%
	容リ法対象外容器包装 プラ、製品プラ	5.4%	5.1%	2.4%	4.2%
	紙類	2.4%	1.6%	3.0%	2.4%
	繊維類	1.8%	0.8%	0.5%	1.0%
	金属類	0.8%	0.4%	0.3%	0.5%
	厨芥類	5.9%	1.2%	5.0%	4.2%
	その他	4.1%	1.3%	1.4%	2.3%
異物 小計		20.4%	10.4%	12.6%	14.6%
	ごみ捨て用手提げ袋	1.0%	0.8%	0.6%	0.8%
	ごみ袋	1.5%	1.8%	2.4%	1.9%
排出用袋 小計		2.4%	2.6%	3.1%	2.7%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

②缶・びん

缶・びんの異物混入率を表2-21に示す。缶・びん収集の異物混入率は重量比で3.8%、容積比で1.0%であり、前回（平成28年度）調査から引き続き異物混入率は低かった。

表2-21 缶・びんの異物混入率

		本調査		前回（平成28年度）調査	
		重量（%）	容積（%）	重量（%）	容積（%）
収集対象容器包装	缶	27.8%	69.7%	20.0%	62.3%
	びん	67.2%	24.1%	74.7%	33.8%
	収集対象容器包装	95.1%	93.8%	94.7%	96.0%
異物	紙類	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
	プラスチック類	0.6%	0.6%	0.7%	1.1%
	化粧びん	0.6%	0.2%	0.7%	0.2%
	商品等	0.2%	0.0%	0.8%	0.3%
	ガラス類 小計	0.8%	0.2%	1.5%	0.5%
	缶以外容器包装	0.3%	0.2%	0.6%	0.5%
	商品等	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
	金属類 小計	0.4%	0.2%	0.8%	0.5%
	厨芥類	2.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
	異物 小計	3.8%	1.0%	4.2%	2.2%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.6%	2.1%	0.8%	1.2%
	ごみ袋	0.5%	3.0%	0.3%	0.6%
排出用袋 小計		1.1%	5.1%	1.1%	1.8%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

住宅形式別の異物混入率を表2-22に示す。いずれの地区も異物混入率は低かった。

表2-22 住宅形式別の缶・びんの異物混入率

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量（%）	重量（%）	重量（%）	重量（%）
収集対象容器包装	缶	24.1%	27.8%	29.6%	27.8%
	びん	68.3%	67.8%	65.6%	67.2%
	収集対象容器包装	92.4%	95.6%	95.3%	95.1%
異物	紙類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	プラスチック類	0.1%	0.8%	0.3%	0.6%
	化粧びん	0.0%	0.3%	1.3%	0.6%
	商品等	1.2%	0.0%	0.2%	0.2%
	ガラス類 小計	1.2%	0.3%	1.5%	0.8%
	缶以外容器包装	0.4%	0.4%	0.2%	0.3%
	商品等	0.2%	0.2%	0.0%	0.1%
	金属類 小計	0.6%	0.5%	0.2%	0.4%
	厨芥類	4.5%	1.9%	1.4%	2.0%
	その他	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
	異物 小計	6.4%	3.5%	3.4%	3.8%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.9%	0.4%	0.8%	0.6%
	ごみ袋	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%
排出用袋 小計		1.3%	0.9%	1.4%	1.1%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

[参考 前回（平成28年度）調査における住宅形式別の缶・びんの異物混入率]

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量（％）	重量（％）	重量（％）	重量（％）
	缶	14.3%	23.3%	21.7%	20.0%
	びん	79.8%	72.2%	73.0%	74.7%
収集対象容器包装		94.1%	95.5%	94.7%	94.7%
	紙類	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%
	プラスチック類	0.6%	0.5%	0.9%	0.7%
	化粧びん	1.0%	0.7%	0.5%	0.7%
	商品等	0.1%	0.6%	1.4%	0.8%
	ガラス類 小計	1.0%	1.2%	2.0%	1.5%
	缶以外容器包装	0.4%	1.0%	0.4%	0.6%
	商品等	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%
	金属類 小計	0.6%	1.1%	0.7%	0.8%
	厨芥類	2.0%	0.4%	0.3%	0.9%
	その他	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%
	異物 小計	4.6%	3.5%	4.4%	4.2%
	ごみ捨て用手提げ袋	1.2%	0.7%	0.6%	0.8%
	ごみ袋	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%
排出用袋 小計		1.4%	1.0%	1.0%	1.1%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

③古紙・古着

古紙・古着の異物混入率を表2-23に示す。異物混入率は重量比で6.4%、容積比で5.0%であった。

表2-23 古紙・古着の異物混入率

		本調査		前回（平成28年度）調査	
		重量（％）	容積（％）	重量（％）	容積（％）
	古紙	72.6%	80.2%	93.4%	91.2%
	古着	20.7%	13.4%	4.4%	4.7%
収集対象物 小計		93.3%	93.6%	97.8%	95.9%
	紙類	4.5%	2.6%	0.3%	0.6%
	繊維類	0.7%	1.7%	1.2%	2.4%
	プラスチック類	0.0%	0.3%	0.3%	1.0%
	金属類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	厨芥類	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%
	その他	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%
	異物 小計	6.4%	5.0%	2.1%	3.9%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.2%	0.7%	0.1%	0.1%
	ごみ袋	0.1%	0.7%	0.0%	0.1%
排出用袋 小計		0.3%	1.4%	0.1%	0.2%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

[リサイクルに不適な紙類]



[たばこ等]



住宅形式別の異物混入率を表2-24に示す。中高層住宅地区は3地区の中で異物混入率が最も低く2.6%であった。

表2-24 住宅形式別の古紙・古着の異物混入率

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)
	古紙	74.1%	66.1%	78.0%	72.6%
	古着	15.8%	23.4%	19.0%	20.7%
収集対象物 小計		89.9%	89.6%	97.1%	93.3%
	紙類	1.3%	9.8%	0.5%	4.5%
	繊維類	6.6%	0.0%	0.5%	0.7%
	プラスチック類	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	金属類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	厨芥類	1.0%	0.5%	0.7%	0.6%
	その他	0.2%	0.0%	1.0%	0.5%
異物 小計		9.4%	10.2%	2.6%	6.4%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%
	ごみ袋	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%
排出用袋 小計		0.8%	0.2%	0.3%	0.3%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔参考 前回（平成28年度）調査における住宅形式別の古紙・古着の異物混入率〕

		密集住宅地区	戸建て住宅地区	中高層住宅地区	市平均
		重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)	重量 (%)
	古紙	99.5%	87.2%	97.7%	93.4%
	古着	0.0%	9.3%	0.8%	4.4%
収集対象物 小計		99.5%	96.5%	98.5%	97.8%
	紙類	0.0%	0.6%	0.1%	0.3%
	繊維類	0.0%	2.3%	0.7%	1.2%
	プラスチック類	0.1%	0.3%	0.4%	0.3%
	金属類	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	厨芥類	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%
	その他	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
異物 小計		0.4%	3.4%	1.4%	2.1%
	ごみ捨て用手提げ袋	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
	ごみ袋	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
排出用袋 小計		0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

(11) 使い捨て商品、有害・危険物等の排出状況

1) 使い捨て商品、有害・危険物等の排出割合、家庭系ごみ1トン当たりの排出個数

家庭系ごみ中の使い捨て商品、有害・危険物等の排出割合および家庭系ごみ1t当たりの排出個数を表2-25に示す。

前回（平成28年度）調査と比較すると、使い捨てライターは14個から6個に、スプレー缶は7本から5本に減少していた。一方で、電池は59個から76個に増加していた。

なお、一部の乾電池やボタン電池、オイルが残存したままのライターは別袋に分けられずに他のごみと一緒にの袋で排出されていた。

表2-25 使い捨て商品、有害・危険物の排出割合と排出個数

		本調査		平成28年度	
		重量(%)	排出個数 (個/1t)	重量(%)	排出個数 (個/1t)
紙おむつ	大人用	1.0%	-	1.0%	74
	子ども用	3.0%	-	2.8%	242
紙おむつ 小計		4.0%	305	3.8%	317
ペットシート		0.9%	-	0.6%	-
猫のトイレ砂		1.3%	-	0.2%	-
使い捨てライター		0.0%	6	0.0%	14
注射容器		0.0%	0	0.0%	-
蛍光管		0.0%	-	0.0%	0
スプレー缶		0.0%	5	-	7
電池	乾電池	0.3%	69	0.1%	48
	ボタン電池	0.0%	6	0.0%	10
	充電式電池	0.0%	0	0.0%	1
電池 小計		0.3%	76	0.1%	59
危険物		0.0%	-	0.0%	-
使い捨てカイロ		0.0%	0	0.0%	9

2) スプレー缶および蛍光管の排出状況

①スプレー缶の排出状況

本市では、カセット式ガスボンベおよびスプレー缶を拠点回収しているが、本調査において不燃ごみの中にスプレー缶の排出が見られた。スプレー缶等が本市の拠点回収で廃棄されている推定割合（推定拠点排出割合）を表2-26に示す。推定拠点排出割合は86.8%であり、前回（平成28年度）調査と比較すると約10%増加していた。

表2-26 スプレー缶の排出状況

	本調査	前回（平成28年度）調査
家庭系ごみ中のスプレー缶の排出量	0.85kg	1.48kg
推定拠点排出割合 ※	86.8%	75.9%

※ 「①本市のスプレー缶の拠点回収量（73t/年）の100世帯当たりの換算量」を、「②本調査の家庭系ごみ中のスプレー缶の排出量」と①を足した値で除して算出。

出典：寝屋川市一般廃棄物処理基本計画 令和3年3月 寝屋川市

出典：令和2年国勢調査 総務省

②蛍光管の排出状況

本調査のサンプリング実施日には蛍光管は排出されなかった。つまり、蛍光管は全て拠点回収されたと考えられる。前回（平成 28 年度）調査では推定拠点回収割合は 96.5%（平成 21 年度調査では 91.9%）であった。

(12) 手提げ袋の排出状況

手提げ袋の排出状況を表 2-27 に示す。収集区分ごとに家庭系ごみ全体の「ごみ袋（排出用袋）」として使用された手提げ袋、「ごみを入れて捨てられた手提げ袋」、「そのままの状態ですてられた手提げ袋」のそれぞれの排出量を調査した。可燃ごみは「ごみを入れて捨てられた手提げ袋」の割合が高く、重量比で 57.5%であった。また廃プラ・ペットボトルについても「ごみを入れて捨てられた手提げ袋」の割合が高く、重量比で 45.7%であった。一方、不燃ごみ、缶・びん、古紙・古着では「ごみ袋に使用された手提げ袋」の割合が高くなっていた。

前回（平成 28 年度）調査と比較すると、手提げ袋の排出量は半減していた。これは令和 2 年から全国で開始されたプラスチック製買物袋の有料化の影響を受けたものと考えられる。

表 2-27 手提げ袋の排出状況

収集区分	ごみ袋に使用された手提げ袋		ごみを入れて捨てられた袋		そのままの状態ですてられた袋		合計	
	排出量	割合	排出量	割合	排出量	割合	排出量	割合
可燃ごみ	3.9kg	33.1%	6.8kg	57.5%	1.1kg	9.4%	11.7kg	100.0%
廃プラ・ペットボトル	1.6kg	24.0%	3.0kg	45.7%	2.0kg	30.4%	6.5kg	100.0%
不燃ごみ	0.3kg	100.0%	0.0kg	0.0%	0.0kg	0.0%	0.3kg	100.0%
缶・びん	0.8kg	89.8%	0.1kg	10.2%	0.0kg	0.0%	0.9kg	100.0%
古紙・古着	0.7kg	100.0%	0.0kg	0.0%	3.1kg	0.0%	0.7kg	100.0%
合計	7.2kg	35.8%	9.8kg	48.8%	7.7kg	15.4%	20.1kg	100.0%

※ 市平均として 28 日間の排出量に換算（推定）した値である。

※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

[参考 前回（平成 28 年度）調査における手提げ袋の排出状況]

収集区分	ごみ袋に使用された手提げ袋		ごみを入れて捨てられた袋		そのままの状態ですてられた袋		合計	
	排出量	割合	排出量	割合	排出量	割合	排出量	割合
可燃ごみ	4.0kg	11.9%	26.9kg	80.5%	2.6kg	7.6%	33.4kg	100.0%
廃プラ・ペットボトル	2.3kg	17.7%	5.7kg	43.4%	5.1kg	38.9%	13.0kg	100.0%
不燃ごみ	0.5kg	78.3%	0.1kg	17.4%	0.1kg	4.3%	0.7kg	100.0%
缶・びん	1.3kg	74.4%	0.4kg	21.0%	0.1kg	4.6%	1.8kg	100.0%
古紙・古着	0.2kg	86.4%	0.0kg	13.6%	0.0kg	0.0%	0.2kg	100.0%
合計	8.3kg	16.9%	33.1kg	67.3%	7.7kg	15.8%	49.1kg	100.0%

※ 市平均として 28 日間の排出量に換算（推定）した値である。

※ 四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

2-3 他都市の調査結果との比較

本市と分別収集区分が類似する他都市と、可燃ごみのごみ質調査結果を比較した結果を表2-28に示す。

本市の可燃ごみ中のプラスチック類の割合は11.1%で、他都市と同程度の割合であった。容器包装プラスチックの割合も他都市と同程度であった。

また、紙類の割合は29.5%で、他都市よりも2%～5%程度低い割合であったが、資源化可能な紙は12.6%で、他都市と同程度含まれていた。

一方、厨芥類の割合は45.6%で、他都市よりも高い割合であったが、手付かずの食料品の割合は5.7%で他都市と同程度であった。

表2-28 調査結果（重量比）の他都市との比較

	寝屋川市	大阪市	豊中市	東大阪市	京都市	
調査実施年月	R6年7月～8月	R4年10～11月	R1年10月～11月	R1年9月～10月	R5年	
調査当時の 主な分別区分	◆可燃ごみ ◆廃プラ・ペットボトル ◆不燃ごみ ◆缶、びん ◆古紙・古着	◆普通ごみ ◆資源ごみ ◆容器包装プラスチック ◆古紙、衣類	◆可燃ごみ ◆プラスチック製容器包装 ◆不燃ごみ ◆空き缶、危険ごみ ◆ビン ◆紙、布 ◆ペットボトル	◆家庭ごみ ◆プラスチック製容器包装 ◆もえない小物 ◆ペットボトル ◆あきかん、あきびん ◇古紙類・古布は拠点回収	◆燃やすごみ ◆プラスチック類 ◆缶、びん、ペットボトル ◆小型金属類 ◆リサイクルできる紙類	
分類区分	可燃ごみ	普通ごみ	可燃ごみ	家庭ごみ	燃やすごみ	
結果	プラスチック類	11.1%	11.4%	11.7%	15.5%	11.1%
	容器包装	8.8%	7.2%	8.4%	11.5%	7.8%
	ペットボトル	0.5%	0.3%	0.2%	1.2%	0.2%
	紙類	29.5%	31.2%	33.5%	34.6%	32.6%
	資源化可能な紙	12.6%	10.9%	12.3%	18.0%	11.3%
	厨芥類	45.6%	35.4%	42.6%	34.0%	39.6%
	手付かず食料品	5.7%	5.8%	8.4%	17.8%	6.3%
	繊維類	4.5%	10.5%	5.4%	4.3%	6.1%
	金属類	0.2%	-	0.6%	1.2%	-
	ガラス類	0.2%	0.8%	0.2%	1.2%	-
上記以外	8.9%	10.7%	6.0%	9.3%	10.6%	
出典	本調査	令和4年度の家庭系ごみ組成分析 調査結果について https://www.city.osaka.lg.jp/kanryo/page/0000606635.html	令和元年度（2019年度）家庭系 ごみ排出実態調査報告 https://www.city.toyonaka.osaka.lg.jp/kurashi/gomi_risaikuru_bika/genryou_recycle/h24gomishitsu.files/r1chousa.pdf	東大阪市一般廃棄物処理基本計画 （令和3年度～令和12年度）	家庭ごみの細組成調査 https://www.city.kyoto.lg.jp/kanryo/page/0000248968.html	

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

第3章 事業系ごみ排出状況調査

3－1 寝屋川市の事業所立地状況と搬入ごみの現状

(1) 事業所立地状況

寝屋川市の事業所の立地状況を表3－1に示す。事業所数の割合では卸売業、小売業が21.2%、医療、福祉が13.2%、宿泊業、飲食サービス業（宿泊業を含む）が12.6%、建設業が9.6%、製造業が7.4%である。

表3－1 寝屋川市の事業所の立地状況

		事業所数	割合	従業者数	割合
業種	農林漁業	4	0.1%	12	0.0%
	建設業	656	9.6%	3,945	5.6%
	製造業	511	7.4%	8,922	12.8%
	電気、ガス、熱供給、水道業	8	0.1%	177	0.3%
	情報通信業	41	0.6%	136	0.2%
	運輸業、郵便業	154	2.2%	4,924	7.0%
	卸売業、小売業	1,452	21.2%	14,295	20.5%
	金融業、保険業	68	1.0%	924	1.3%
	不動産業、物品賃貸業	636	9.3%	1,970	2.8%
	学術研究、専門・技術サービス業	214	3.1%	1,186	1.7%
	宿泊業、飲食サービス業	867	12.6%	6,724	9.6%
	生活関連サービス業、娯楽業	671	9.8%	2,739	3.9%
	教育、学習支援業	277	4.0%	4,005	5.7%
	医療、福祉	905	13.2%	15,155	21.7%
	複合サービス事業	32	0.5%	241	0.3%
	その他のサービス業(自動車、機械等整備、宗教団体等)	343	5.0%	3,012	4.3%
	公務	22	0.3%	1,512	2.2%
	合計	6,861	100.0%	69,879	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。
出典：令和3年経済センサス-活動調査 総務省統計局

(2) 業種別事業系ごみ排出状況

許可業者の収集先名簿を整理し、重量による業種別事業系ごみの排出量と割合を表3－2に示す。排出量割合が高いのは卸売・小売業で29.6%、病院および福祉施設を合わせて19.5%、次いで飲食業が18.4%、製造業が10.8%、事務所・営業所が7.6%等となっており、経済センサスが示す業種別事業所数割合と類似している。

表3-2 業種別事業系ごみ排出量と割合

分類	推定ごみ排出量(t/年)	割合
建設業	229	1.4%
製造業	1,815	10.8%
卸売・小売業	4,980	29.6%
飲食業	3,093	18.4%
事務所・営業所	1,281	7.6%
病院、福祉施設	3,293	19.5%
幼稚園、学校(小・中・高・大)	426	2.5%
その他サービス業	935	5.6%
マンション	568	3.4%
不明	226	1.3%
計	16,846	100.0%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

【(参考) 表3-2の「推定ごみ排出量」の算出方法】

許可業者収集先名簿から各事業所を上記の業種に分類し、収集頻度、1回の収集当たりの袋数から年間排出容積を算出後、業種別に下表の重量換算係数（見かけ比重）を用いて排出容積を排出重量に換算した。

〈業種別重量換算係数〉

業種	見かけ比重(kg/L)
事務所ビル	0.07409
飲食店	0.20646
工事・製造業	0.10747
卸・小売業	0.12189
サービス業	0.09889
医療業	0.15084
教育施設	0.16387
全業種	0.12961

出典：令和4年度業種・業態別 事業系一般廃棄物排出実態調査

表4 1袋当たりのごみ排出量と見かけ比重より一部抜粋 大阪市

3-2 調査の方法

(1) 調査全体の流れ

調査対象は、表3-2に示した業種別事業系ごみ排出量と割合から、排出量割合の高い卸小売業、飲食業、事務所・営業所を調査の対象とした。

具体的には、卸小売業および飲食業は、商店街とスーパーを調査対象とした。なお、対象とした商店街は、飲食店街、飲食・食品小売等混在商店街であり、事務所・営業所はオフィスビルを調査対象とした。

調査対象とする事業所から排出されたごみをサンプリングし、2トンダンプ車で寝屋川市クリーンセンターの分類作業場所まで運搬した。調査対象のごみを分類作業場所に搬入後、ごみをメッシュ状に並べ、無作為に調査対象とするごみを抽出した。分類項目は前回（平成28年度）調査と同様に約80項目として、分類作業を実施した。

(2) 調査事業所の概要

【飲食店街】

京阪本線香里園駅近隣の南北に線状に広がる飲食店街を調査対象とした。

【飲食・食品小売等混在商店街】

京阪本線寝屋川市駅近くの面的に広がる飲食・食品小売等混在商店街を調査対象とした。
食料品、日用品等の小売店、飲食店、理髪店等のサービス業、食料品中心のスーパー等が混在する。

【スーパー】

食料品中心のスーパー 2ヶ所を調査対象とした。

【オフィスビル】

オフィスが入居するテナントビル等 3ヶ所を調査対象とした。

(3) 具体的な調査方法

1) サンプルング日程および調査日

サンプルング日程、分類作業日、およびサンプルング量は表 3-3 に示すとおりである。

表 3-3 サンプルング日程、サンプルング量

調査地区	サンプルング日	サンプルング量		分析調査量	
		重量 (kg)	容積 (L)	重量 (kg)	容積 (L)
飲食店街	8月7日(水)	250	3,410	111	1,184
商店街	8月7日(水)	218	3,087	105	1,387
スーパー(2店舗)	8月7日(水)	666	8,055	118	1,402
オフィスビル	8月7日(水)	45	1,174	45	1,174

2) 分類および計量作業

調査で使用した組成分類項目を表 3-4 に示す。分類項目は約 80 項目で、前回(平成 28 年度)調査と同様である。また作業方法は家庭系ごみの調査と同様である。

〔作業の様子〕



3) 組成分類項目

表3-4 分類表(その1)

成分	大分類	中分類	小分類
プラスチック類	容器包装	容器類	発泡製トロ箱
			飲料水ペットボトル
			みりん等飲料以外ペットボトル
			ペットボトル以外の飲料容器（ヤクルト等）
			容器状梱包材 （業務の意味含む。業務用20ℓ容器、点滴ボトル等）
			その他の容器（小型も含む）※トレイ、バック、カップ、チューブ、日用品ボトル等）
		袋・シート類	梱包用袋・シート（原料仕入れ用等の大型の物70ℓ、1㎡四方以上）
			大型手提げ袋 40cm四方以上
			スーパー等の手提げレジ袋
			その他のブラ袋・シート
その他の容器包装	緩衝材・クッション、フタ、ヒモ、吸水シート、襟サポーター、商品以外のハンガー等		
	加工屑、トナー容器、販促POP、まとまって排出された使い捨て介護服、手袋等事業活動特有		
その他（成型品等）		その他の容器包装以外の一般プラ製品すべて	
	ごみ袋		
紙類	容器包装	梱包材	段ボール箱
			ごみ捨て用段ボール箱
			梱包用の箱（ボール状のみかん箱以上の箱）
			梱包紙・袋（クラフト製のセメント袋、原料袋等）
			防水加工した梱包紙・袋・箱（汚れの激しい物含む）
		飲料用紙バック（業務用含む）	飲料水（コーティング無）
			飲料水（コーティング有）
		その他紙製容器包装	
			※パルプモールド含む。緩衝材、コップ、箱、ヒモ、トレイ、梱包用以外の包装紙・袋等→マクドの敷紙は色付き紙（汚れてなければ）
			大きなその他紙製容器包装 ※500ml紙バック超える
		小さなその他紙製容器包装 ※上記以下（小さな梱包材も含む）	
	その他	新聞紙（市民新聞、PR紙でも新聞と同質なら含む）	生ごみや割れ物を包んだ新聞紙や激しく汚れた新聞紙（丸めた物を含む）
			何も包まず折ったまま廃棄された新聞紙
		折り込み広告	折り込み広告
		雑誌・書籍類	雑誌・書籍（電話帳、無料でも50頁以上の厚手のPR誌・情報誌、マニュアル等含む）
		再生可能な紙	色白紙（コピー紙、電算用紙（耳の部分や宅配便の伝票はその他（再生不可）へ。）、ノート、帳簿、カード等） ※インクの色でなく地紙の色で判断。ただし、オールカラーは色付き紙
		※B5（葉書）以上の大きさ。 ※激しく汚れている紙。破いている紙。丸めている紙。感熱紙・コーティング紙等禁忌品はその他の紙（再生不可）	色付紙（再生紙、パンフ等）
			印刷・出版残紙（出版・印刷業のみの業種指定）
			その他再生可能な紙
		再生不可能な紙	シュレッダー
大人用おむつ			
子供用おむつ			
その他の紙（再生不可） ※吸水性樹脂（生理用品、ペットの尿シート）、ティッシュ、紙フキン、禁忌品（コーティング紙、合成紙、写真、青焼きコピー紙、金・銀箔等の金属の塗布紙、感熱紙、剥離紙、カーボン紙・ノーカーボン紙、圧着葉書、捺染紙、トレーシングペーパー等）。激しく汚れている紙。破いた紙。丸めた紙等			
繊維類		事業活動特有の繊維類（生地見本、裁断くず、垂れ幕等）	
※不織布は繊維に分類	一般繊維類	Tシャツ以上大型リユース可能衣料、Tシャツ、シーツ等ウエスに再利用可能な綿製品 その他（身の回り品、綿製品以外の日用品、人形、使い捨て商品、不織布の袋、はぎれ、トクホン、布ガムテープ等）	
ゴム・皮革類		事業活動特有のゴム類（ゴム手袋、裁断くず等）	
	一般ゴム・皮革類	一般のゴム類（ごむ草履、長靴等）	

表3-4 分類表(その2)

成分	大分類	中分類	小分類
ガラス類	容器包装	飲料水のびん(業務用含む)	リターナブルびん
			ワンウェイびん
		その他のびん(業務用含む)	リターナブルびん
			ワンウェイびん
	その他	化粧品のびん	化粧品のびん
		事業所特有のびん	点滴等のびん
		有害製品	蛍光管(直管、曲管、電球等)
		その他	その他有害製品(体温計等)
金属類	容器包装		事業活動特有
			その他(食器、電球、LED電球等)
		飲料水の缶(業務用含む)	アルミ缶
			スチール缶
			缶詰、缶箱
		一斗缶	一斗缶
		スプレー缶	カセット式ガスボンベ
			エアゾール缶
	その他		その他(アルミトレイ、ケーキのアルミ箔、チューブ、王冠、リップ等)
			梱包的金属容器包装(大きな業務用容器包装等)
		単一金属製品	なべ、釜、食器、包丁、クリップ等
		複合金属製品	小型家電
			かさ、電線等
			事業活動特有の金属(研磨・切削くず・加工くず、自動車部品等)
		電池	乾電池
			ボタン電池
木片類			充電式電池
			その他有害製品
			その他(使い捨てカイロ、ラップの箱の刃等)
			事業活動特有(廃材、木製トロ箱等 ※多量の場合)
陶磁器類			割り箸
		一般陶磁器類	その他(鉛筆、ハンガー、こけし、ほうき、すだれ、柿の葉の包み等)
			事業活動特有の陶磁器類(建設工事のタイル・レンガ等)
草木類		一般陶磁器類	その他の陶磁器類
			事業活動特有(花屋の花木 ※多量の場合のみ)
		一般草木類	剪定枝
厨芥類			その他
			調理くず、製造・加工工程からの食品くず、製造工程不良品、販売前の除外外葉・パンの耳等【一般通念上不可食部】
			調理保存期間切れ、売れ残りの食料品、仕入れすぎ、作りすぎ、返品、在庫処分【原則可食部】 1/2以上原形 包装取らず
			一般厨芥類【食べ残し 原則可食部】※分類不能含む
			茶殻・コーヒー殻・ティーバッグ
			ペットフード
その他	その他可燃		煙草の吸い殻
			事業活動特有のその他(髪の毛、鍋用燃料)
			その他(掃除機のごみ、犬の糞、猫の砂、調査終了後シート上の掃き集めも含む)
	その他不燃		事業活動特有のその他(歯型、せっこう等)
			その他(土砂、乾燥剤、中身の残った薬、日用品ボトル・チューブの中身、水道工事等の磁石のついたシール等)

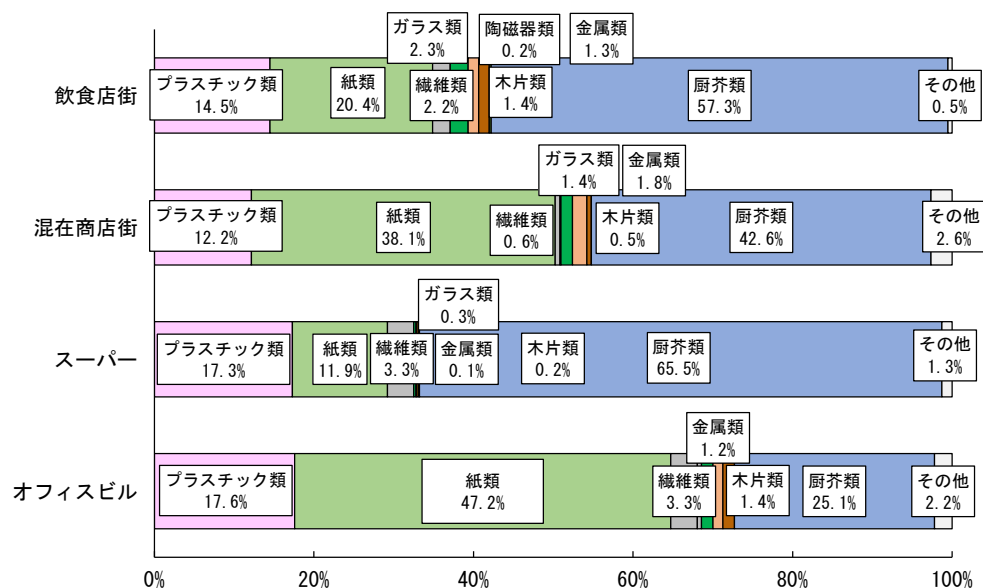
3-3 調査の結果

(1) 事業所の種類別ごみ組成の概要

事業所の種類別ごみ組成の概要を図3-1に整理する。重量比では、飲食店街、飲食・食品小売等混在商店街、スーパーでは厨芥類の割合が高く、スーパーでは厨芥類が65.5%を占めていた。これら3種類の事業所は排出用のプラスチック類や紙類が多く、ごみ組成は類似していた。オフィスビルでは食料品を取り扱わないため厨芥類が占める割合は低かったが、紙類が47.2%を占めていた。容積比では、各事業所とも紙類とプラスチック類の割合が高かった。特にオフィスビルでは紙類が56.2%を占めており、プラスチック類と合わせて全体の約90%を占めていた。

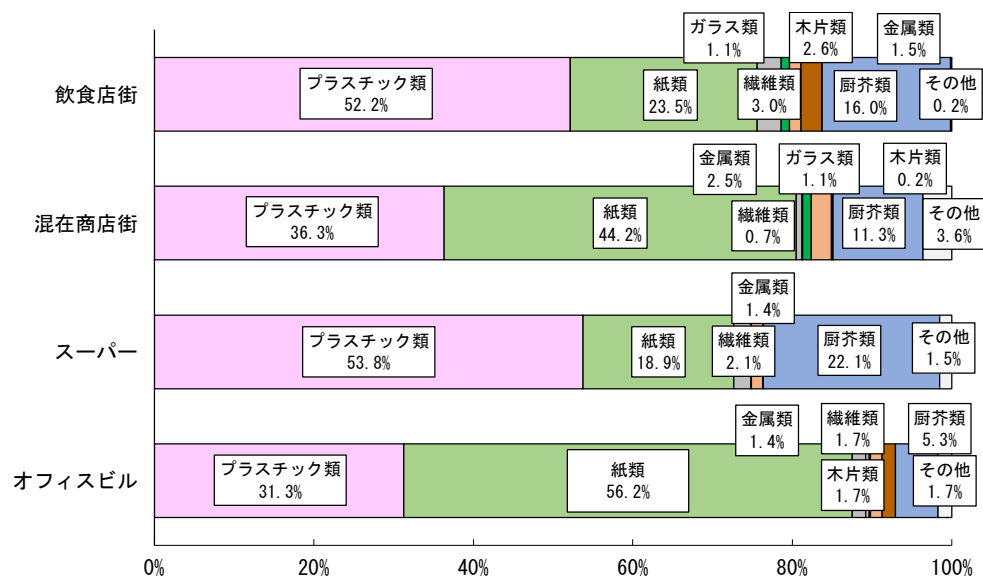
図3-1 事業所の種類別ごみ組成

<重量比>



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

<容積比>



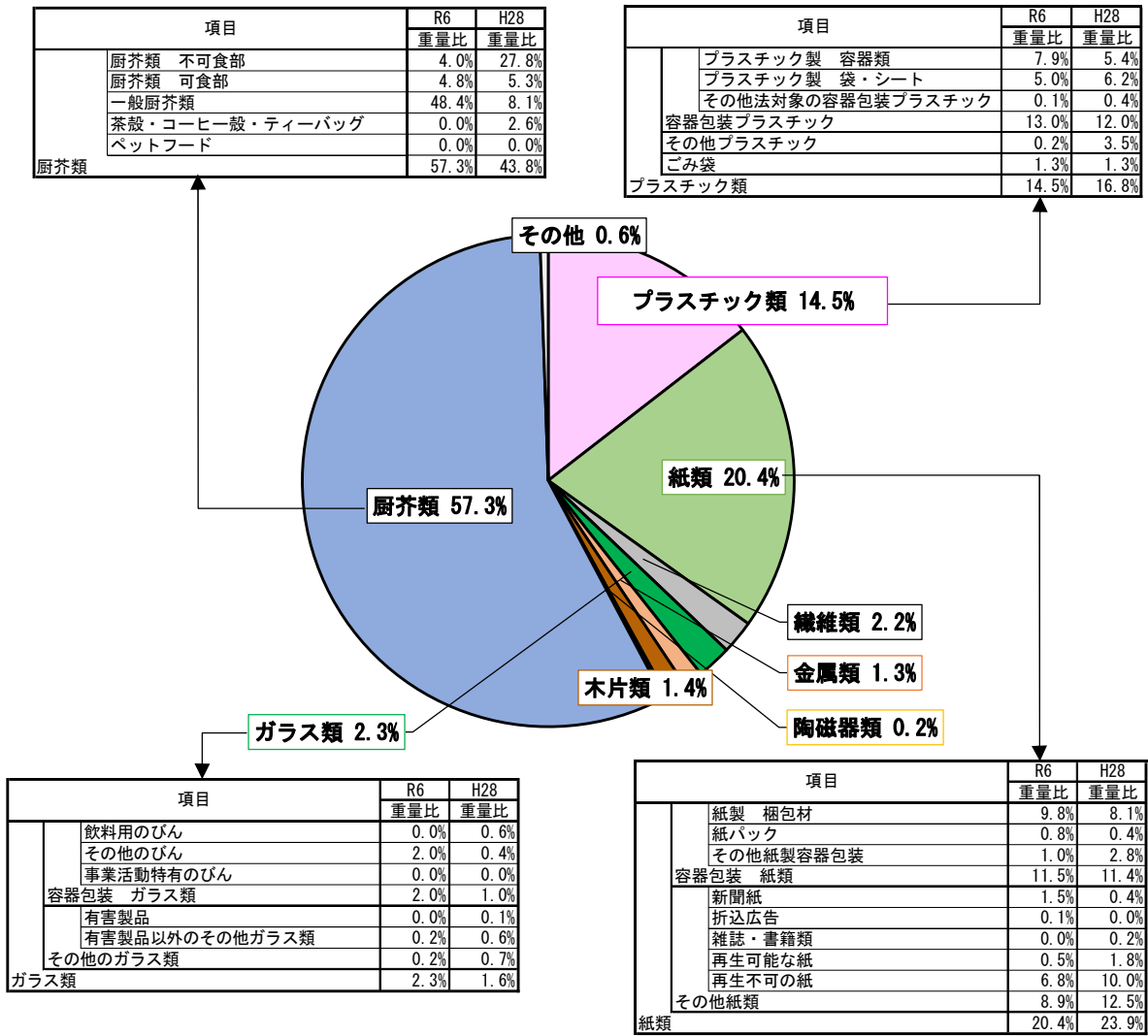
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

(2) 事業所の種類別ごみの細組成

1) 飲食店街

飲食店街のごみ組成（重量比）の詳細を図3-2に示す。

図3-2 飲食店街の事業系ごみの細組成（重量比）



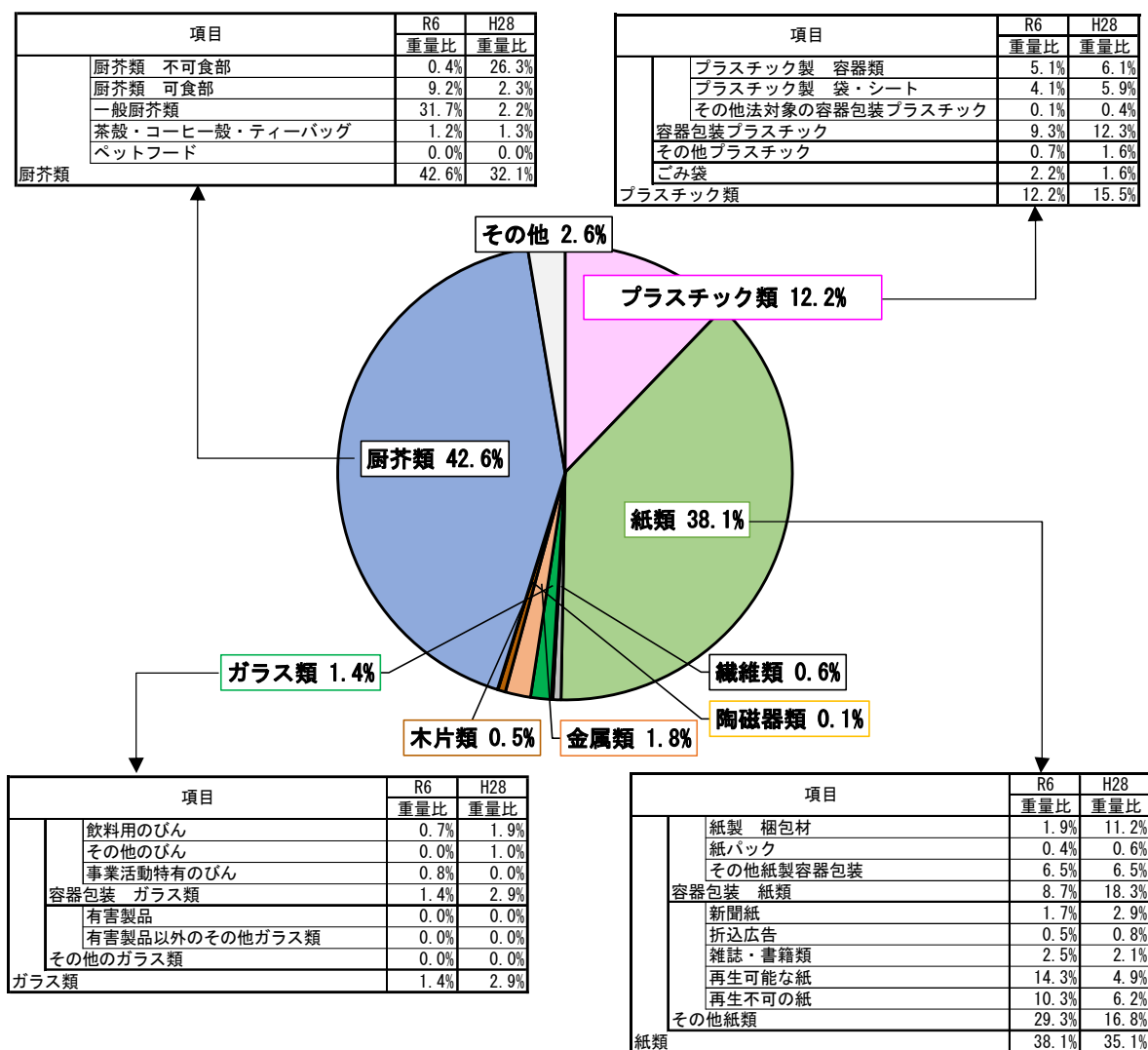
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

飲食店街では、厨芥類が全体の57.3%を占めていた。次いで紙類が20.4%を占めており仕入れ用の段ボール箱等の紙製容器包装が11.5%であった。また、プラスチック類は14.5%を占めており、プラ袋等のプラスチック製容器包装が13.0%であった。

2) 飲食、食品小売等混在商店街

飲食、食品小売等混在商店街のごみ組成（重量比）の詳細を図3-3に示す。

図3-3 飲食、食品小売等混在商店街の事業系ごみの細組成（重量比）



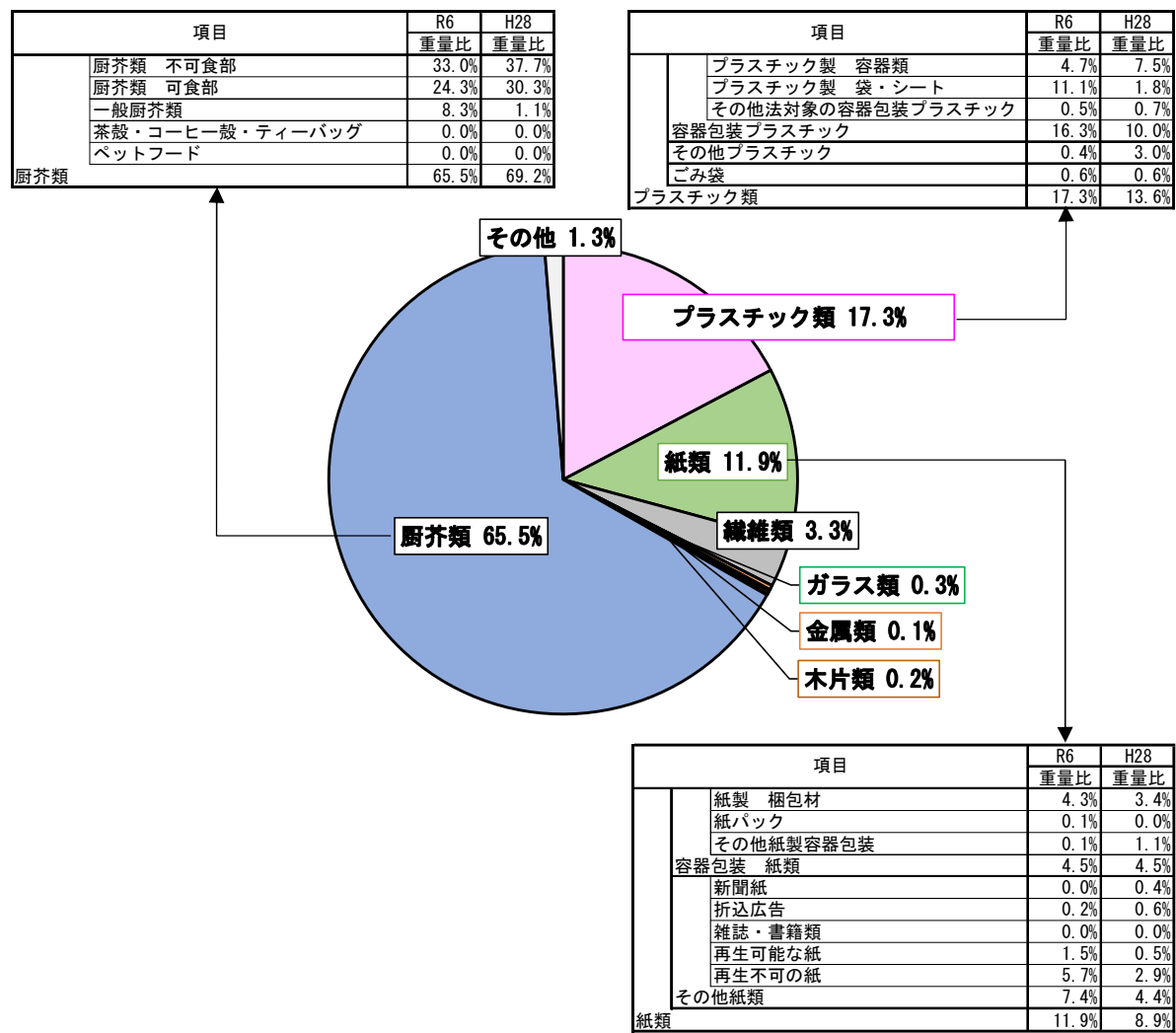
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

ごみ組成は飲食店街と類似しており、厨芥類が42.6%を占め、次いで紙類が38.1%を占めており、そのうち再生不可の紙類等、その他紙類が29.3%であった。また、プラスチック類は12.2%を占めており、プラ袋等のプラスチック製容器包装が9.3%であった。

3) スーパー

スーパーのごみ組成（重量比）の詳細を図3-4に示す。

図3-4 スーパーの事業系ごみの細組成（重量比）



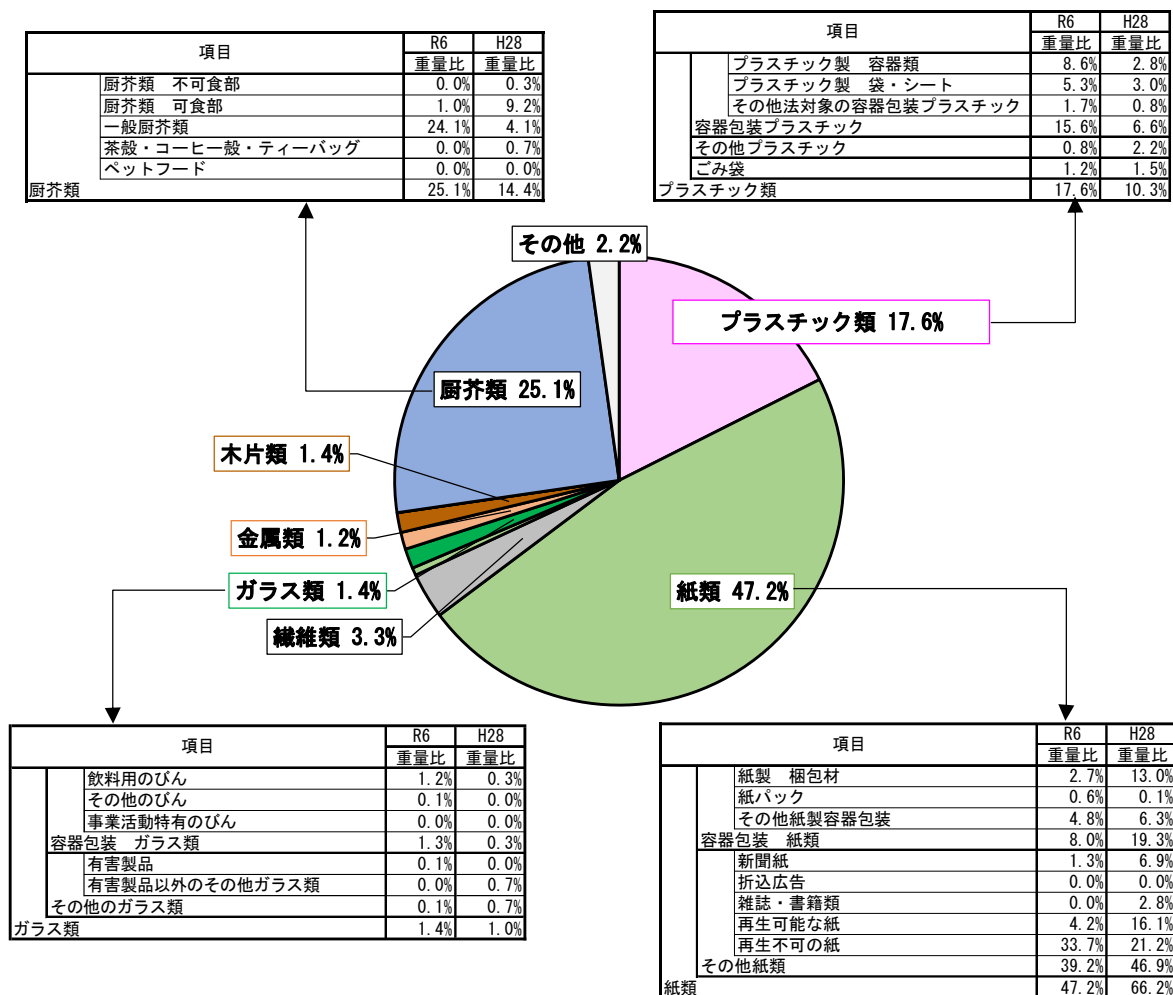
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

厨芥類の割合が高く 65.5%を占めていた。このうち不可食部（調理くずなど）が 33.0%、可食部が 24.3%であった。プラスチック類は 17.3%を占めており、プラ袋等のプラスチック製容器包装が 16.3%であった。紙類は 11.9%で、再生不可の紙類等、その他紙類が 7.4%を占めていた。

4) オフィスビル

オフィスビルのごみ組成（重量比）の詳細を図3-5に示す。

図3-5 オフィスビルの事業系ごみの細組成（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

紙類の割合が多く 47.2%を占めていた。このうち再生不可の紙類等が 33.7%含まれていた。プラスチック類は 17.6%を占めており、プラ袋等のプラスチック製容器包装が 15.6%であった。

(3) 事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳

事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳を表3-5に示す。容器包装の占める割合は、重量比では、プラスチック製が9.3～16.3%、紙製が4.5～11.5%、ガラス製が0.3～2.0%、金属製が0.1～1.3%であり、合計では20.7～27.4%であった。また容積比による合計は40.7～62.8%であった。

表3-5 事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳

	飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル	
	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)
プラスチック製	13.0%	48.4%	9.3%	28.8%	16.3%	50.5%	15.6%	25.5%
紙製	11.5%	12.1%	8.7%	15.0%	4.5%	6.8%	8.0%	13.6%
ガラス製	2.0%	1.0%	1.4%	1.1%	0.3%	0.0%	1.3%	0.2%
金属製	0.9%	1.3%	1.3%	2.2%	0.1%	1.4%	1.2%	1.4%
合計	27.4%	62.8%	20.7%	47.0%	21.3%	58.8%	26.1%	40.7%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔参考〕 前回（平成28年度）調査における事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳

	飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル	
	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)	重量 (%)	容積 (%)
プラスチック製	12.0%	49.5%	12.3%	34.0%	10.0%	60.1%	6.6%	19.7%
紙製	11.4%	20.0%	18.3%	39.7%	4.5%	4.8%	19.3%	28.2%
ガラス製	1.0%	0.3%	2.9%	1.0%	3.6%	1.0%	0.3%	0.0%
金属製	1.5%	2.2%	1.6%	2.7%	0.3%	0.6%	5.9%	8.6%
合計	25.9%	72.0%	35.1%	77.4%	18.4%	66.4%	32.1%	56.5%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

(4) 発生抑制可能物の排出状況

事業系ごみには表3-6に示すように、発生抑制可能物が重量比で29.2～60.1%含まれていた。

表3-6 事業系ごみ中の発生抑制対象物の割合

		飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル	
		重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)
用紙節約・ペーパーレス化	色白紙(コピー用紙等)	0.1%	0.1%	2.2%	2.9%	0.3%	0.1%	1.2%	0.9%
PR方法の見直し	色付き紙(パンフレット等)	0.1%	0.0%	11.7%	5.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.8%
輸送用梱包の改善	段ボール箱	8.8%	2.2%	1.0%	1.7%	4.2%	5.7%	2.3%	3.6%
	梱包用の箱、梱包紙	1.0%	3.6%	0.9%	2.9%	0.2%	0.4%	0.3%	0.1%
	紙製 小計	9.8%	5.7%	1.9%	4.6%	4.3%	6.1%	2.7%	3.7%
	発泡性トロ箱	0.5%	6.7%	0.2%	3.2%	0.3%	5.0%	0.0%	0.0%
	梱包用プラ製容器	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	4.3%	0.0%	0.0%
	梱包用大型プラ袋・シート等	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	プラスチック製 小計	0.6%	7.5%	0.2%	3.5%	1.1%	9.3%	0.0%	0.0%
	木製トロ箱	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	木製 小計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	計	10.4%	13.2%	2.1%	8.1%	5.4%	15.4%	2.7%	3.7%
マイバック、マイ箸持参	手提げ袋	0.1%	0.8%	0.1%	0.7%	0.1%	0.7%	0.2%	0.9%
	割り箸	1.3%	2.5%	0.5%	0.2%	0.2%	0.1%	1.4%	1.7%
	計	1.5%	3.4%	0.6%	0.9%	0.3%	0.8%	1.7%	2.6%
販売管理の徹底 食べ残しの削減	厨芥類(売れ残り、作りすぎ食品等)	4.8%	2.1%	9.2%	3.3%	24.3%	8.2%	1.0%	0.2%
	厨芥類(食べ残り等)	43.2%	12.7%	28.1%	7.2%	3.4%	1.8%	21.4%	5.1%
	計	48.1%	14.8%	37.2%	10.5%	27.7%	10.0%	22.4%	5.3%
合計		60.1%	31.4%	53.8%	27.8%	33.7%	26.3%	29.2%	13.2%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

〔参考〕 前回（平成28年度）調査における事業系ごみ中の容器包装材の材質内訳

		飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル	
		重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)
用紙節約・ペーパーレス化	色白紙(コピー用紙等)	0.5%	0.6%	0.2%	0.5%	0.3%	0.2%	3.1%	1.9%
PR方法の見直し	色付き紙(パンフレット等)	1.3%	1.0%	2.8%	1.5%	0.2%	0.3%	13.0%	7.6%
輸送用梱包の改善	段ボール箱	8.1%	15.8%	11.2%	30.6%	3.4%	2.9%	12.5%	15.3%
	梱包用の箱、梱包紙	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%
	紙製 小計	8.1%	15.8%	11.2%	30.6%	3.4%	2.9%	13.0%	16.8%
	発泡性トロ箱	1.1%	18.8%	0.8%	7.1%	6.4%	47.4%	0.0%	0.0%
	梱包用プラ製容器	0.7%	3.0%	0.2%	0.8%	0.4%	2.9%	0.0%	0.0%
	梱包用大型プラ袋・シート等	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%
	プラスチック製 小計	1.9%	21.8%	1.3%	8.6%	7.0%	51.1%	0.0%	0.0%
	木製トロ箱	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.9%	0.0%	0.0%
	木製 小計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.9%	0.0%	0.0%
	計	10.0%	37.6%	12.5%	39.1%	13.7%	55.9%	13.0%	16.8%
	マイバック、マイ箸持参	0.6%	1.0%	1.3%	2.4%	0.0%	0.0%	0.6%	1.5%
販売管理の徹底 食べ残しの削減	割り箸	1.1%	1.0%	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
	計	1.7%	2.0%	2.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%
	厨芥類(売れ残り、作りすぎ食品等)	5.3%	2.0%	2.3%	0.7%	30.3%	9.7%	9.2%	1.3%
	厨芥類(食べ残り等)	6.0%	1.0%	1.7%	0.3%	0.0%	0.0%	2.3%	0.2%
計		11.3%	3.0%	4.0%	1.0%	30.3%	9.7%	11.5%	1.5%
合計		24.8%	44.2%	21.9%	45.5%	44.6%	66.1%	41.4%	29.4%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

(5) 資源化可能物の排出状況

事業系ごみ中には表3-7に示すように、段ボール（ごみ捨て用に用いられた段ボール箱も含む）、新聞紙（詰め物、ウエスの代用等再使用された新聞紙を除く折ったままの状態です捨てられた新聞紙）、雑誌・書籍、雑がみ（分別しやすい比較的大きな紙箱・包装紙、コピー用紙、パンフレット等（色付き紙）、封筒等）などの古紙類を中心に、重量比で資源化可能物が7.5～25.7%含まれていた。また前回（平成28年度）調査において当該値は15.9%～48.6%と算出されており、主に商店街とオフィスビルの古紙類の重量割合が大きく減少したことによって資源化可能物の割合が半減した。

表3-7 事業系ごみ中の資源化可能物の割合

			飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル		
			重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	
資源化可能物	プラスチック類	ペットボトル	4.1%	19.6%	2.3%	7.6%	0.7%	2.9%	4.3%	8.4%	
		発泡製トロ箱	0.5%	6.7%	0.2%	3.2%	0.3%	5.0%	0.0%	0.0%	
		小計	4.6%	26.2%	2.5%	10.7%	1.0%	7.9%	4.3%	8.4%	
	紙類	紙バック（アルミコーティング無し）	0.5%	2.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	
		段ボール （内訳）		8.8%	2.2%	1.0%	1.7%	4.2%	5.7%	2.3%	3.6%
			たたんだ段ボール	7.0%	1.7%	0.0%	0.0%	4.2%	5.7%	2.3%	3.6%
			ごみ捨て用に使用	1.8%	0.5%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		新聞紙（折ったままで排出された物のみ）	0.0%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%	
		雑誌・書籍	0.0%	0.0%	2.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		折り込み広告	0.1%	0.2%	0.5%	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	
		通常の古紙類 小計	9.4%	4.9%	4.5%	4.0%	4.3%	5.9%	3.0%	3.8%	
		雑がみ （内訳）		0.9%	1.6%	17.1%	17.0%	1.7%	5.5%	7.5%	9.4%
			紙箱・包装紙（梱包用や大きな紙箱・紙袋・包装紙のみ）	0.4%	1.1%	2.8%	6.5%	0.2%	0.4%	3.3%	6.0%
			箱・袋以外の再生利用可能な紙製品	0.5%	0.4%	14.3%	10.5%	1.5%	5.1%	4.2%	3.4%
		小計	10.3%	6.4%	21.6%	21.0%	6.0%	11.4%	10.5%	13.2%	
		繊維類	衣服	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		ガラス類	びん類	2.0%	1.0%	0.7%	0.4%	0.3%	0.0%	1.3%	0.2%
	金属類 （内訳）		0.9%	1.3%	0.9%	1.5%	0.1%	1.4%	1.2%	1.4%	
		缶類（スプレー缶除く）	0.9%	1.3%	0.7%	1.4%	0.1%	1.4%	1.2%	1.4%	
		単一金属類	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	合計			18.1%	35.1%	25.7%	33.6%	7.5%	20.8%	17.4%	23.2%
	堆肥化等による	厨芥類		57.3%	16.0%	42.6%	11.3%	65.5%	22.1%	25.1%	5.3%
	資源化可能物	剪定枝		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
合計			57.3%	16.0%	42.6%	11.3%	65.6%	22.2%	25.1%	5.3%	

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

【参考】 前回（平成28年度）調査における事業系ごみ中の資源化可能物の割合

			飲食店街		商店街		スーパー		オフィスビル	
			重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)	重量(%)	容積(%)
資源化可能物	プラスチック類	ペットボトル	1.3%	6.9%	2.0%	6.8%	0.1%	0.2%	1.1%	4.8%
		発泡製トロ箱	1.1%	18.8%	0.8%	7.1%	6.4%	47.4%	0.0%	0.0%
		小計	2.4%	25.7%	2.8%	14.0%	6.5%	47.6%	1.1%	4.8%
	紙類	紙パック（アルミコーティング無し）	0.1%	0.3%	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		段ボール	8.1%	15.8%	11.2%	30.6%	3.4%	2.9%	12.5%	15.3%
		（内訳）								
		たたんだ段ボール	7.3%	12.9%	8.1%	20.4%	3.4%	2.9%	12.5%	15.3%
		ごみ捨て用に使用	0.9%	3.0%	3.2%	10.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		新聞紙（折ったままで排出された物のみ）	0.0%	0.0%	1.4%	0.7%	0.0%	0.0%	5.4%	1.9%
		雑誌・書籍	0.2%	0.0%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%	2.8%	0.8%
		折り込み広告	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%
		通常の古紙類 小計	8.5%	16.1%	15.9%	33.6%	4.0%	3.2%	20.7%	17.9%
		雑がみ	3.8%	3.6%	9.4%	8.0%	1.5%	2.2%	20.4%	18.7%
		（内訳）								
		紙箱・包装紙（梱包用や大きな紙箱・紙袋・包装紙のみ）	2.0%	2.0%	4.5%	5.6%	1.0%	1.7%	4.3%	9.2%
		箱・袋以外の再生利用可能な紙製品	1.8%	1.6%	4.9%	2.4%	0.5%	0.5%	16.1%	9.5%
		紙類 小計	12.3%	19.7%	25.3%	41.6%	5.6%	5.4%	41.1%	36.6%
	繊維類	衣服	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ガラス類	びん類	1.0%	0.3%	2.9%	1.0%	3.6%	1.0%	0.3%	0.0%
	金属類		0.7%	1.6%	0.7%	1.4%	0.3%	0.6%	6.1%	8.6%
		（内訳）								
		缶類（スプレー缶除く）	0.7%	1.6%	0.6%	1.4%	0.3%	0.6%	5.9%	8.6%
		単一金属類	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
合計			16.4%	47.3%	31.6%	58.0%	15.9%	54.5%	48.6%	50.0%
堆肥化等による	厨芥類		43.8%	11.4%	33.5%	6.4%	69.2%	25.2%	14.4%	1.5%
資源化可能物	剪定枝		0.0%	0.0%	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計			43.8%	11.4%	34.7%	7.2%	69.2%	25.2%	14.4%	1.5%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

3-4 市全体の事業系ごみ組成の推定

今回の調査では、収集運搬許可業者の収集先名簿から市内の事業系ごみ排出量割合を業種別に整理し、排出割合の高い卸小売業、飲食業、事務所・営業所を調査対象としており、主要な業種の組成調査は得られていることから、市全体の平均的事業系ごみ組成を推定した。推定にあたっては、表3-8に整理した業種別推定ごみ排出量を用い、排出量に応じて調査結果に重みを付けて平均化した。推定結果を表3-9に示す。

表3-8 市全体の平均的事業系ごみ組成を推定するためのごみ排出量

調査地区	推定ごみ排出量(t/年)	設定の考え方
飲食店街	3,090	表3-1に示す業種別ごみ排出量のうち、飲食業の排出量
商店街	3,980	表3-1に示す業種別ごみ排出量のうち、百貨店・スーパーを除く卸小売業の排出量
スーパー（2店舗）	1,000	表3-1に示す業種別ごみ排出量のうち、百貨店・スーパーの排出量
オフィスビル	1,280	表3-1に示す業種別ごみ排出量のうち、事務所・営業所の排出量

表3-9 市全体の平均的事業系ごみ組成（推定）

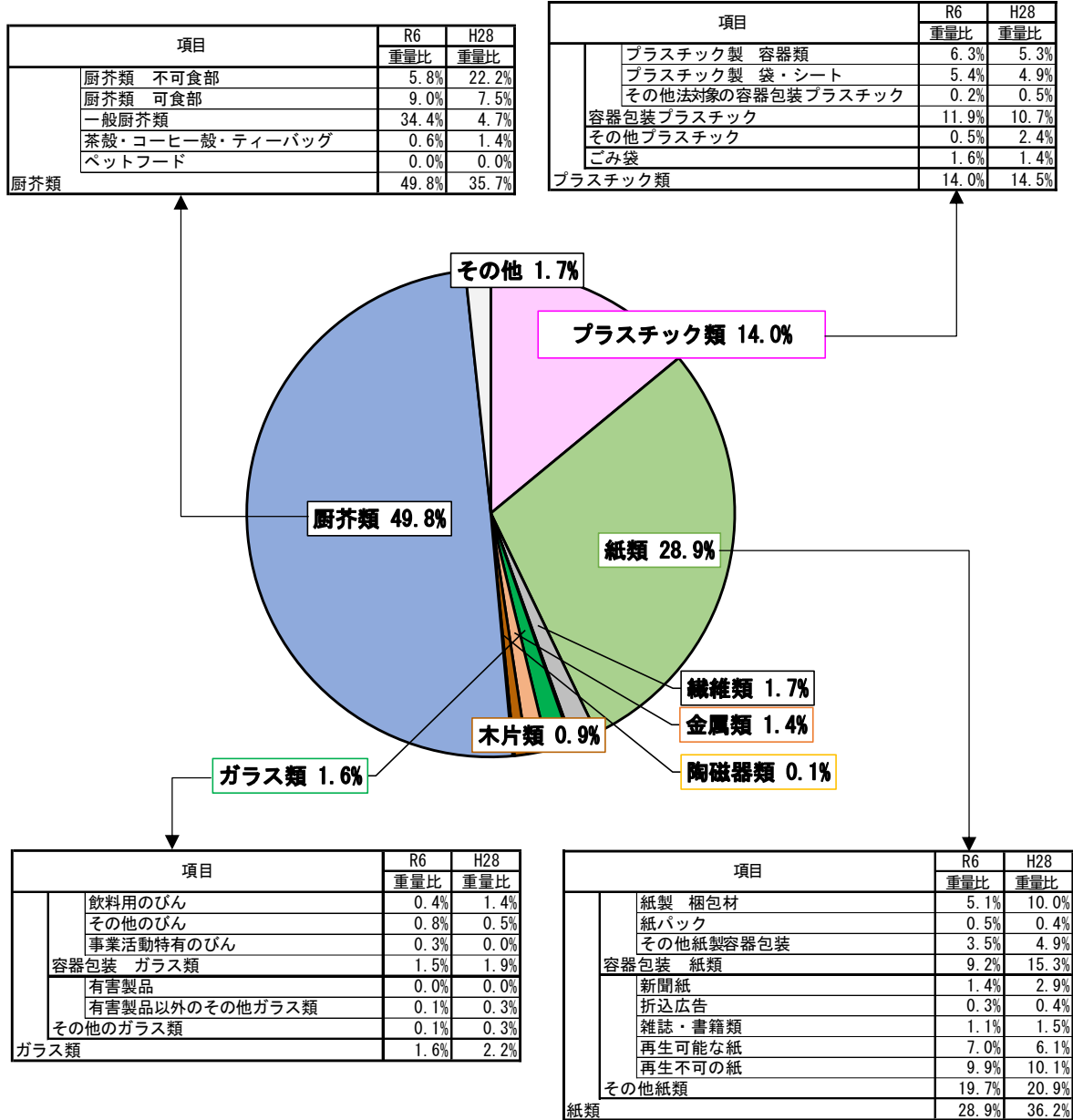
			令和6年度調査	平成28年度調査
			重量(%)	重量(%)
成分	プラスチック類		14.0%	14.5%
	紙類		28.9%	36.2%
	繊維類		1.7%	2.6%
	ゴム・皮革類		0.1%	0.1%
	ガラス類		1.6%	2.2%
	金属類		1.4%	4.1%
	木片類		0.9%	1.4%
	陶磁器類		0.1%	0.3%
	草木類		0.0%	0.5%
	厨芥類		49.8%	35.7%
	その他		1.7%	2.4%
	合計		100.0%	100.0%
資源化可能物	プラスチック類	ペットボトル	2.9%	1.4%
		発泡製トロ箱	0.3%	1.3%
		小計	3.2%	2.7%
		紙パック（アルミコーティング無し）	0.3%	0.2%
		段ボール	4.3%	9.9%
		（内訳）		
		たたんだ段ボール	3.2%	8.4%
		ごみ捨て用に使用	1.1%	1.5%
		新聞紙（折ったままで排出された物のみ）	0.2%	1.7%
		雑誌・書籍	1.1%	1.5%
		折り込み広告	0.3%	0.4%
		通常の古紙類 小計	6.2%	13.7%
		雑がみ	8.7%	9.5%
		（内訳）		
	紙箱・包装紙（梱包用や大きな紙箱・紙袋・包装紙のみ）	1.6%	3.4%	
	箱・袋以外の再生利用可能な紙製品	7.0%	6.1%	
	紙類 小計	14.8%	23.2%	
	繊維類	衣服	0.1%	0.0%
	ガラス類	びん類	1.2%	1.9%
	金属類		0.8%	1.9%
（内訳）				
缶類（スプレー缶除く）	0.7%	1.8%		
単一金属類	0.1%	0.1%		
合計		20.1%	29.7%	
堆肥化等による資源化可能物	厨芥類		49.8%	35.7%
	剪定枝		0.0%	0.5%
	合計		49.8%	36.2%

※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

厨芥類が全体の49.8%を占めており、前回（平成28年度）調査よりも14.1%増加していた。一方で、プラスチック類は14.0%で前回（平成28年度）調査よりも0.5%減少、紙類は28.9%で前回（平成28年度）調査よりも7.3%減少していた。また、繊維類、ガラス類、金属類等は、いずれも前回（平成28年度）調査から微減していた。厨芥類の割合が増加したことにより、資源化可能物の割合は前回（平成28年度）調査よりも増加していた。

図3-6に市全体の平均的事業系ごみの細組成を示す。

図3-6 市全体の平均的事業系ごみの細組成（重量比）



※ 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

第4章 ごみ質分析調査のまとめ

4-1 家庭系ごみに係る主な調査結果等

・ 家庭系ごみ全体および可燃ごみ全体の組成割合

本調査における「①家庭系ごみ全体」と「②可燃ごみ全体」の組成における重量割合は、前回（平成28年度）調査と比べ、いずれも紙類の割合が減少し、厨芥類とプラスチック類の割合が増加していた。

①「家庭系ごみ全体」のごみ組成は、重量割合で紙類が29.6%、厨芥類が29.5%、プラスチック類が19.4%であった。前回（平成28年度）調査と比較すると、紙類は4.2%減少、厨芥類は1.4%増加、プラスチック類は1.6%増加していた。【参照：図2-4】

②「可燃ごみ全体」の組成は、重量割合で紙類が29.5%、厨芥類が45.6%、プラスチック類が11.1%であった。前回（平成28年度）調査と比較すると、紙類は4.4%減少、厨芥類は4.3%増加、プラスチック類は0.9%増加していた。【参照：図2-15】

・ 紙類に含まれる資源化可能な紙類

可燃ごみに資源化可能な紙類が重量割合で12.6%含まれていたが、これは前回（平成28年度）調査（16.1%）から3.5%減少していた。【参照：表2-13】

・ 可燃ごみに含まれる手付かず食品と厨芥類の含水率

可燃ごみに含まれていた手付かずの食品の重量割合は5.7%で、前回（平成28年度）調査（6.9%）から1.2%低下しており、食品ロス問題の改善が見られた。一方で、厨芥類の含水率は78.7%であり、前回（平成28年度）調査（78.6%）から変化は見られなかった。

【参照：表2-10、表2-11】

・ 廃プラ・ペットボトルの分別・洗浄協力率と異物混入率

廃プラ・ペットボトルの分別協力率は75.5%（平成28年度67.9%）、洗浄協力率は91.9%（平成28年度91.3%）、異物混入率は7.9%（平成28年度14.6%）と、いずれも前回（平成28年度）調査から改善傾向にあった。【参照：図2-25、図2-28、表2-20】

・ 不燃ごみに含まれる危険物

不燃ごみには、火災の恐れがあるリチウムイオン電池等の充電式電池内蔵の使用済小型家電や、乾電池・ボタン電池・ライターなどの危険物の一部が別袋等で分けられずに他のごみと一緒に袋で排出されている状況が見られた。【参照：表2-12、表2-25】

4-2 事業系ごみに係る主な調査結果等

・ 事業系ごみ全体のごみ組成割合

市全体の事業系ごみのごみ組成は、重量比で紙類が28.9%、厨芥類が49.8%、プラスチッ

ク類が 14.0%であり、前回（平成 28 年度）調査と比較すると、紙類は 7.3%減少、厨芥類は 14.1%増加、プラスチック類は 0.5%減少していた。【参照：図 3-6】

・ 事業系ごみに含まれる資源化可能な紙類の割合

資源化可能な紙類の割合は前回（平成 28 年度）調査から減少傾向が見られ、廃棄抑制（リデュース）が浸透されていると考えられる。業種別では、重量比が飲食店街で 10.3%（平成 28 年度 12.3%）、商店街で 21.6%（平成 28 年度 25.3%）、スーパーで 6.0%（平成 28 年度 5.6%）、オフィスビルで 10.5%（平成 28 年度 41.1%）であった。【参照：表 3-7】

・ 事業系ごみに含まれるペットボトルの割合

事業系ごみとして排出されたごみ袋の中には一定量のペットボトルが含まれており、前回（平成 28 年度）調査から増加傾向が見られた。業種別では、重量比が飲食店街で 4.1%（平成 28 年度 1.3%）、商店街で 2.3%（平成 28 年度 2.0%）、スーパーで 0.7%（平成 28 年度 0.1%）オフィスビルで 4.3%（平成 28 年度 1.1%）であった。【参照：表 3-7】

4-3 今後の施策の検討

本調査の結果を前回（平成 28 年度）調査の結果と比較すると、家庭系ごみと事業系ごみのいずれにおいてもごみ全体における紙類の重量割合は減少している一方、厨芥類の重量割合が増加しており、そのうち家庭系の可燃ごみ全体における厨芥類の割合は約半分弱（45.6%）を占めていた。

この結果を踏まえて今後のごみ減量を推進していくためには、厨芥類の排出量削減に注力することが重要であると言え、その実践的な取組としては、各家庭から排出される生ごみに対する水切り運動の重要性を繰り返し呼び掛けるなど、持続的な周知啓発による市民の理解促進を図っていくことが効果的である。

一方で、手付かず食品の含有割合が減少するなどの一定の改善が見られる食品ロス対策については、家庭系ごみでは「フードドライブ」の利用促進による手付かず食品排出量の減量や「3010（さんまるいちまる）運動」による食品ロスに対する市民意識の向上、事業系ごみでは「商品棚の陳列商品のてまえどりの奨励」などの啓発推進により食品廃棄の減少を図っていくことなどが有効と言える。

また、ごみ全体の組成における重量割合の減少がみられる紙類については、これまでの啓発施策の推進等により、紙のリサイクルに対する市民意識の一定の向上が図られていると推察できるが、今後の更なるリサイクルの推進や排出抑制を促進していくため、引き続き周知・啓発活動を進めるほか、地域の集団回収の支援等による紙類の分別促進に繋がる取組を進めることが重要である。

その他、リチウムイオン電池等の充電式電池内蔵の使用済小型家電や、乾電池・ボタン電池・ライターなどの危険物の一部が他のごみと一緒に袋で排出されている状況が見られたことに対し、火災を伴う事故の危険性について市民に継続的かつ繰り返し呼びかけを行い、その改善を図っていく必要があると考えられる。

